

令和5年度 新たな北海道総合計画の策定に係る 道民意向調査

調査項目

生活の満足度と重要度について
2050年の北海道の姿について
今後の社会的問題について
経済・産業の活性化について
お住まいの地域について
人口減少・少子高齢社会への対応について
環境にやさしい地域社会について
地域の産業や暮らしを支える人材の育成・確保について
日常生活における移動手段とその満足度について
デジタル化について
農林水産物の購入に当たって重視することについて
ゼロカーボン北海道について
SDGsの推進について
新型コロナウイルス感染症の影響について
北海道総合計画について

目 次

調査の概要

1 調査の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査項目	1
(3) 調査の方法	1
(4) 調査実施機関	1
(5) 調査回収状況	2
2 調査回答者の特性	3
3 サンプルング	6
(1) 層化	6
(2) 標本分配	6
(3) 抽出	6
(4) 抽出結果	7
4 調査地点一覧	8
5 この報告書の見方	13

調査結果

1 生活の満足度と重要度について	15
(1) くらし全般の満足度と重要度	15
(2) 地域社会・経済の満足度と重要度	18
(3) 環境の満足度と重要度	21
(4) 教育の満足度と重要度	24
(5) 医療の満足度と重要度	27
(6) 子育ての満足度と重要度	30
(7) 福祉の満足度と重要度	33
(8) 仕事の満足度と重要度	36
(9) 防災の満足度と重要度	39
(10) 安全の満足度と重要度	42
(11) 交通・道路の満足度と重要度	45
(12) 情報・デジタルの満足度と重要度	48
2 2050年の北海道の姿について	51
2050年の北海道の社会に望むこと	51
3 今後の社会問題について	53
これから2030年にかけての家庭や地域の大きな問題	53
4 経済・産業の活性化について	55
道内の経済・産業の活性化のために道が力を入れるべき取組	55

5 お住まいの地域について	57
現在住んでいる市町村にこれからも住みたいか	57
6 人口減少・少子高齢社会への対応について	59
住みよい地域社会の実現のために道が力を入れるべき取組	59
7 環境にやさしい地域社会について	61
環境に調和した地域社会の構築のために道が力を入れるべき取組	61
8 地域の産業や暮らしを支える人材の育成・確保について	63
人材の育成・確保を図るために道が力を入れるべき取組	63
9 日常生活における移動手段とその満足度について	65
全体 無積雪時の移動手段・満足度	65
(1) 無積雪時の主な移動手段と満足度【通勤・通学】	67
(2) 無積雪時の主な移動手段と満足度【通院】	69
(3) 無積雪時の主な移動手段と満足度【買い物】	71
(4) 無積雪時の主な移動手段と満足度【その他の外出】	73
全体 積雪時の移動手段・満足度	75
(5) 積雪時の主な移動手段と満足度【通勤・通学】	77
(6) 積雪時の主な移動手段と満足度【通院】	79
(7) 積雪時の主な移動手段と満足度【買い物】	81
(8) 無積雪時の主な移動手段と満足度【その他の外出】	83
10 デジタル化について	85
デジタルの活用を進めるために道が力を入れるべき取組	85
11 農林水産物の購入に当たって重視することについて	87
農林水産物の購入に当たり重視していること	87
12 ゼロカーボン北海道について	89
再生可能エネルギー資源の活用について	89
13 SDG s の推進について	91
(1) SDG s の推進に当たり行政に期待すること	91
(2) 特に取り組むべきSDG s のゴール（目標）	93
14 新型コロナウイルス感染症の影響について	95
新型コロナウイルス収束後も定着していく変化	95
15 北海道総合計画について	
資料編	
クロス集計表（比率）	99
調査票	241

調査の概要

調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

計画における将来像の実現に向けた進捗のほか、不安定な国際情勢などを背景に、エネルギーや食料の安定供給に対する懸念が身近なものになるなど、情勢が大きく変化していることを踏まえ、こうした変化を道民がどのように受け止め、今後の社会にどう定着していくのか意向調査を実施し、道民の意向の的確な把握に努めるとともに、新たな総合計画の策定に反映する。

(2) 調査項目

- 1) 生活の満足度と重要度について
- 2) 2050年の北海道の姿について
- 3) 今後の社会的問題について
- 4) 経済・産業の活性化について
- 5) お住まいの地域について
- 6) 人口減少・少子高齢社会への対応について
- 7) 環境にやさしい地域社会について
- 8) 地域の産業や暮らしを支える人材の育成・確保について
- 9) 日常生活における移動手段とその満足度について
- 10) デジタル化について
- 11) 農林水産物の購入に当たって重視することについて
- 12) ゼロカーボン北海道について
- 13) SDGsの推進について
- 14) 新型コロナウイルス感染症の影響について
- 15) 北海道総合計画について

(3) 調査の方法

- | | |
|---------|------------------|
| 1) 調査地域 | 北海道全域 |
| 2) 調査対象 | 道内に居住する満18歳以上の個人 |
| 3) 標本数 | 1,500 サンプル |
| 4) 地点数 | 150 地点 |
| 5) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| 6) 調査方法 | 郵送配付、郵送回収による回答 |
| 7) 調査期間 | 令和5年（2023年）9月 |

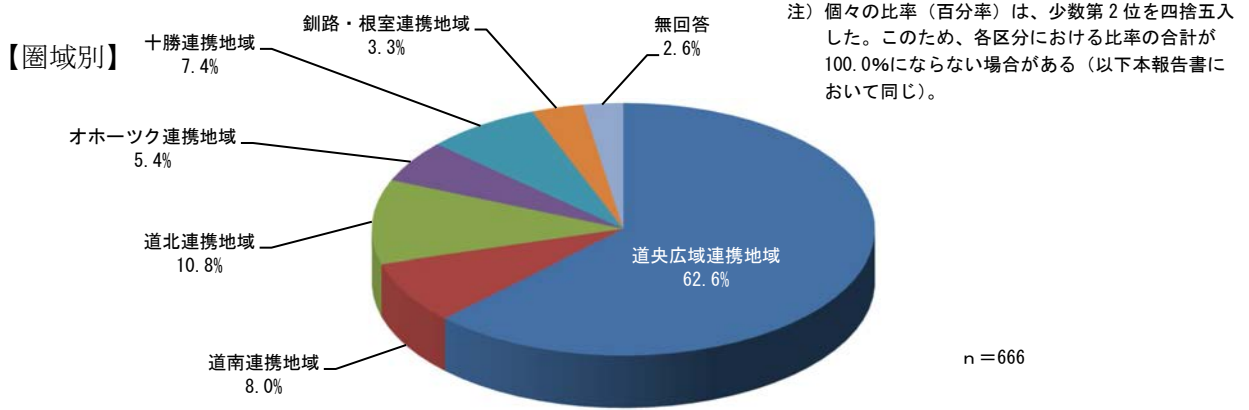
(4) 調査実施機関

昇寿チャート株式会社

(5) 調査回収状況

標本数	1,500
回収数 (率)	666 (44.4%)
有効回答数 (率)	666 (44.4%)
調査不能数	834

2 調査回答者の属性



	実数	%
全体	666	100.0
道央広域連携地域	417	62.6
道南連携地域	53	8.0
道北連携地域	72	10.8
オホーツク連携地域	36	5.4
十勝連携地域	49	7.4
釧路・根室連携地域	22	3.3
無回答	17	2.6

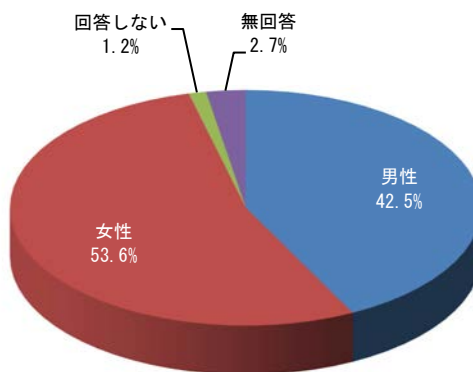
【振興局別】

	実数	%
空知総合振興局	39	5.9
石狩振興局	305	45.8
後志総合振興局	23	3.5
胆振総合振興局	41	6.2
日高振興局	9	1.4
渡島総合振興局	48	7.2
檜山振興局	5	0.8
上川総合振興局	62	9.3
留萌振興局	5	0.8
宗谷総合振興局	5	0.8
オホーツク総合振興局	36	5.4
十勝総合振興局	49	7.4
釧路総合振興局	16	2.4
根室振興局	6	0.9
無回答	17	2.6

【人口規模別】

	実数	%
札幌市	259	38.9
人口10万人以上の市	176	26.4
人口10万人未満の市	101	15.2
町村	110	16.5
無回答	20	3.0

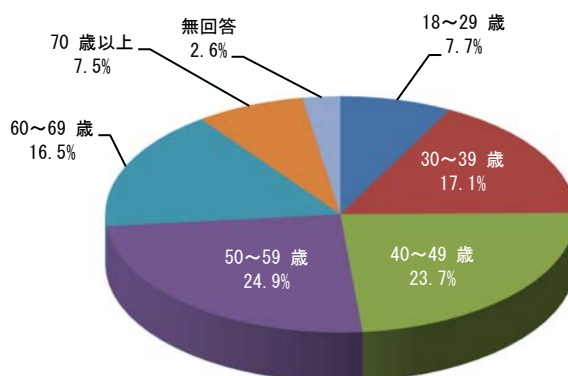
【性別】



n = 666

	実数	%
全体	666	100.0
男性	283	42.5
女性	357	53.6
回答しない	8	1.2
無回答	18	2.7

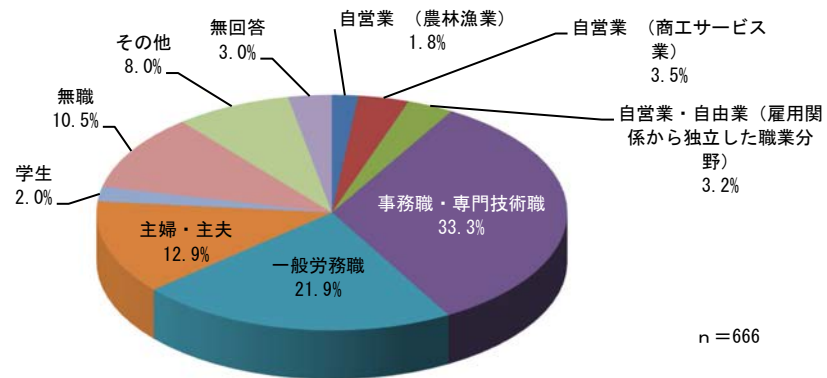
【年代別】



n = 666

	実数	%
18~29歳	51	7.7
30~39歳	114	17.1
40~49歳	158	23.7
50~59歳	166	24.9
60~69歳	110	16.5
70歳以上	50	7.5
無回答	17	2.6

【職種別】



	実数	%
全体	666	100.0
自営業 (農林漁業)	12	1.8
自営業 (商工サービス業)	23	3.5
自営業・自由業(雇用関係から独立した職業分野)	21	3.2
事務職・専門技術職	222	33.3
一般労務職	146	21.9
主婦・主夫	86	12.9
学生	13	2.0
無職	70	10.5
その他	53	8.0
無回答	20	3.0

【北海道の居住年数別】

	実数	%
1年未満	2	0.3
1年以上2年未満	1	0.2
2年以上3年未満	-	0.0
3年以上5年未満	3	0.5
5年以上10年未満	11	1.7
10年以上20年未満	12	1.8
20年以上	141	21.2
生まれてから変わらず	479	71.9
無回答	17	2.6

【現市町村の居住年数別】

	実数	%
1年未満	12	1.8
1年以上2年未満	3	0.5
2年以上3年未満	10	1.5
3年以上5年未満	15	2.3
5年以上10年未満	51	7.7
10年以上20年未満	86	12.9
20年以上	266	39.9
生まれてから変わらず	205	30.8
無回答	18	2.7

3 サンプリング

母集団	道内に居住する満18歳以上の個人
標本数	1,500 サンプル
地点数	150 地点
抽出方法	層化二段無作為抽出法

(1) 層化

① 北海道の市町村を、次の6圏域に分類した。

【道 央】 札幌市、★江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、
岩見沢市、芦別市、滝川市、砂川市、深川市、南幌町、長沼町、
★小樽市、倶知安町、余市町、★苫小牧市、室蘭市、登別市、
伊達市、白老町、新冠町、新ひだか町

【道 南】 ★函館市、北斗市、七飯町、森町、八雲町、せたな町

【道 北】 ★旭川市、名寄市、富良野市、東神楽町、美瑛町、上富良野町、
稚内市、枝幸町、留萌市、羽幌町

【オホーツク】 ★北見市、網走市、紋別市、美幌町、遠軽町、湧別町

【十 勝】 ★帯広市、音更町、芽室町、幕別町、本別町、池田町

【釧路・根室】 ★釧路市、釧路町、根室市、中標津町

注) ★印は、札幌市を除く人口10万人以上の市

② 各圏域については、「札幌市」「人口10万人以上の市」「人口10万人未満の市」「町村」と人口規模別に分類した。人口規模は、令和5年3月31日時点での住民基本台帳人口により分類した。

(2) 標本分配

調査対象が北海道内に居住する満18歳以上の個人であるため、令和5年6月1日時点の選挙人名簿登録者数を推定母集団とし、その大きさにより150の地点数を比例分配した。なお、各母集団は、住民基本台帳を抽出原簿として採用した。

(3) 抽出

① 第1次抽出単位となる調査地点（各市町村、条町丁字名別）の抽出

各層に配分した調査の地点数分、調査対象地区を抽出した。抽出に際しては、「住民基本台帳人口」を基に各地点の住民基本台帳人口の累積度数を算出して、各層の総人口に対する累積占有率を算出し、調査地点数分乱数を発生させて、該当する150地区を抽出した。

② 第2次抽出単位となる調査対象者の抽出

対象者の抽出は、地点ごとに抽出間隔を算出し、住民基本台帳から等間隔に10人抽出し、調査標本1,500を抽出した。なお、抽出に当たっては、満18歳以上の個人であることに留意した。

$$\frac{\text{調査地点推定人口総数}}{10} = \text{抽出間隔}$$

(4) 抽出結果

圏域、人口規模ごとの標本数、調査地点数は次のとおりである。

圏域	人口規模	住民基本台帳 人口数 (R5. 6. 30 現在)	選挙人名簿 登載者数 (R5. 6. 1 現在)	標本数	地点数
道央広域 連携地域	札幌市	1,959,838	1,687,090	570	57
	人口10万人以上	393,697	341,263	110	11
	人口10万人未満	642,123	558,836	190	19
	町村部	275,995	239,794	70	7
道南 連携地域	人口10万人以上	241,936	214,417	70	7
	人口10万人未満	43,911	37,176	10	1
	町村部	114,267	101,045	40	4
道北 連携地域	人口10万人以上	321,972	281,059	90	9
	人口10万人未満	112,783	99,267	40	4
	町村部	133,007	114,747	50	5
オホーツク 連携地域	人口10万人以上	112,196	98,059	30	3
	人口10万人未満	53,569	46,729	20	2
	町村部	97,080	84,318	30	3
十勝 連携地域	人口10万人以上	163,131	140,759	50	5
	町村部	163,529	139,854	50	5
釧路・根室 連携地域	人口10万人以上	158,807	139,860	50	5
	人口10万人未満	23,111	20,245	10	1
	町村部	102,072	87,574	20	2
合計		5,113,024	4,432,632	1,500	150

4 調査地点一覧

圏域	抽出市町村		抽出地点
道央広域連携地域	石狩振興局	札幌市中央区	大通東 8 丁目
			北 1 条西 20 丁目
			北 7 条西 23 丁目
			伏見 3 丁目
			南 4 条西 26 丁目
			宮ヶ丘 2 丁目
			宮の森 3 条 4 丁目
		札幌市北区	麻生町 6 丁目
			北 17 条西 4 丁目
			北 21 条西 13 丁目
			北 32 条西 3 丁目
			篠路 7 条 2 丁目
			新川西 5 条 4 丁目
			太平 12 条 6 丁目
		屯田 7 条 11 丁目	
		札幌市東区	北 16 条東 14 丁目
			北 22 条東 20 丁目
			北 31 条東 18 丁目
			北 45 条東 5 丁目
			北 8 条東 13 丁目
			北丘珠 2 条 2 丁目
			東苗穂 6 条 1 丁目
		伏古 2 条 5 丁目	
		札幌市白石区	川北 3 条 3 丁目
			菊水 3 条 1 丁目
			菊水上町 3 条 3 丁目
			北郷 7 条 8 丁目
			中央 2 条 6 丁目
			東札幌 1 条 5 丁目
		札幌市豊平区	水車町 7 丁目
			月寒西 3 条 7 丁目
			月寒東 5 条 18 丁目
豊平 5 条 10 丁目			
西岡 2 条 11 丁目			
福住 2 条 4 丁目			
美園 7 条 3 丁目			

圏域	抽出市町村		抽出地点
道央広域連携地域	石狩振興局	札幌市南区	川沿4条4丁目
			澄川6条11丁目
			常盤4条2丁目
			真駒内南町1丁目
		札幌市西区	琴似4条6丁目
			西野1条1丁目
			八軒3条東2丁目
			発寒3条3丁目
			宮の沢3条3丁目
			山の手4条9丁目
		札幌市厚別区	厚別中央5条4丁目
			厚別西4条1丁目
			上野幌2条1丁目
			もみじ台南6丁目
		札幌市手稲区	曙7条1丁目
			稲穂1条1丁目
			金山1条3丁目
			前田1条7丁目
		札幌市清田区	北野5条4丁目
			里塚緑ヶ丘11丁目
			平岡8条1丁目
		江別市	朝日町
			大麻園町
			緑ヶ丘
千歳市	自由ヶ丘1丁目		
	弥生3丁目		
	勇舞5丁目		
恵庭市	島松寿町2丁目		
	住吉町3丁目		
北広島市	大曲光1丁目		
	西の里東2丁目		
石狩市	花川北2条6丁目		
	花畔2条1丁目		

圏域	抽出市町村		抽出地点
道央広域連携地域	空知総合振興局	岩見沢市	桜木1条5丁目
			美園5条8丁目
		芦別市	北5条西3丁目
		滝川市	東町4丁目
		砂川市	吉野1条南6丁目
		深川市	文光町
		南幌町	緑町6丁目
	長沼町	旭町南2丁目	
	後志総合振興局	小樽市	赤岩2丁目
			奥沢4丁目
			桂岡町
		倶知安町	南4条東2丁目
		余市町	浜中町
	胆振総合振興局	苫小牧市	錦西町1丁目
			桜木町2丁目
			澄川町8丁目
			拓勇東町6丁目
			北光町2丁目
		室蘭市	天神町
			増市町1丁目
登別市		若草町2丁目	
伊達市		末永町	
白老町	萩野		
日高振興局	新冠町	北星町	
	新ひだか町	静内旭町1丁目	
道南連携地域	渡島総合振興局	函館市	石川町
			榎本町
			海岸町
			神山3丁目
			昭和4丁目
			富岡町1丁目
			中道1丁目

圏域	抽出市町村		抽出地点
道南連携地域	渡島総合振興局	北斗市	七重浜2丁目
		七飯町	大川5丁目
		森町	尾白内町
		八雲町	東町
	檜山振興局	せたな町	北檜山区徳島
道北連携地域	上川総合振興局	旭川市	8条通23丁目
			大町2条1丁目
			神楽6条11丁目
			新富1条3丁目
			末広東2条6丁目
			忠和8条5丁目
			東光6条8丁目
			永山10条11丁目
			緑町12丁目
	名寄市	西12条南1丁目	
	富良野市	住吉町	
	東神楽町	南1条西2丁目	
	美瑛町	北町1丁目	
	上富良野町	宮町3丁目	
	宗谷総合振興局	稚内市	富岡3丁目
		枝幸町	幸町
留萌振興局	留萌市	南町4丁目	
	羽幌町	南2条	
オホーツク連携地域	オホーツク総合振興局	北見市	端野町三区
			とん田東町
			東相内町
		網走市	駒場南8丁目
		紋別市	南が丘町7丁目
		美幌町	青山北
		遠軽町	寿町
湧別町	上湧別屯田市街地		
十勝連携地域	十勝総合振興局	帯広市	公園東町4丁目
			新町東
			西17条南41丁目
			西19条南5丁目
			依田町

圏域	抽出市町村		抽出地点
十勝 連携地域	十勝総合振興局	音更町	東通 12 丁目
		芽室町	東 10 条 7 丁目
		幕別町	旭町
		本別町	北 8 丁目
		池田町	旭町 5 丁目
釧路・根室 連携地域	釧路総合振興局	釧路市	愛国西 2 丁目
			阿寒町中央
			鳥取北 4 丁目
			松浦町
			緑ヶ岡 5 丁目
	釧路町	北都 2 丁目	
	根室振興局	根室市	西浜町 3 丁目
中標津町		西町 7 丁目	

5 この報告書の見方

- (1) 回答率（各回答の百分率）は小数第2位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 設問説明文にて複数の回答を求めているものには、2つ以上の回答を求めているものと、回答数に制限を設けているものがあり、いずれもその百分率の合計は100.0%を超える場合がある。
- (3) この調査は、標本調査であるため、全数調査の結果（真の値）から一定の範囲内で離れていることがある。これを標本誤差といい、層化二段無作為抽出の場合、信頼度95%のとき次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上記の式により、回答者数（n）、及び回答比率（P）ごとに信頼度95%の標本誤差を計算すると、おおよそ次のとおりとなる。

回答比率(P) 回答者数(n)	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
666	±3.29%	±4.38%	±5.02%	±5.37%	±5.48%
500	±3.79%	±5.06%	±5.80%	±6.20%	±6.32%
300	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±8.16%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（n）が666で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差は95%の信頼度で、±5.37%以内（54.63～65.37%）である」とみることができる。

- (4) 圏域別（道央、道南、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室）の該当市町村については、別途「4 調査地点一覧」（P8～P12）に記載している。
- (5) 設問ごとの解説は、回答数の多かった上位3項目を【全体】に記載し、【性別】については、男性、女性ともに上位1項目、【年代別】についても上位1項目を記載した。

調 査 結 果

調査結果

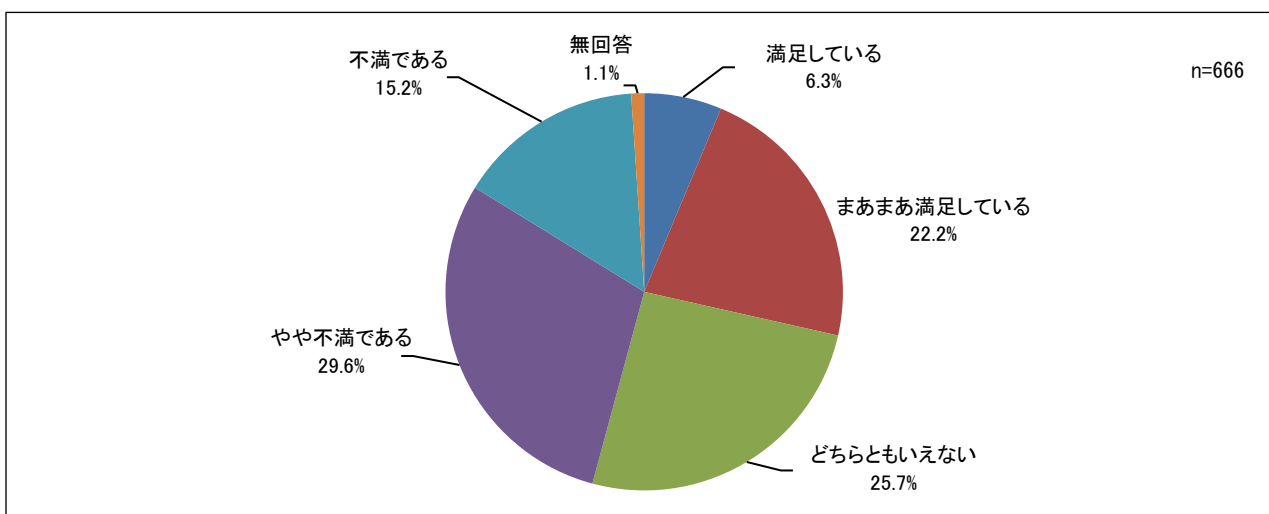
Ⅰ 生活の満足度と重要度について

問Ⅰ あなたは、現在の生活にどの程度満足していますか。また、今後の生活にとってどの程度重要であると思いますか。以下の各項目について、【満足度】と【重要度】から、番号をそれぞれ1つずつ選んでください。

(Ⅰ)くらし全般(物価・地価、住環境 など)

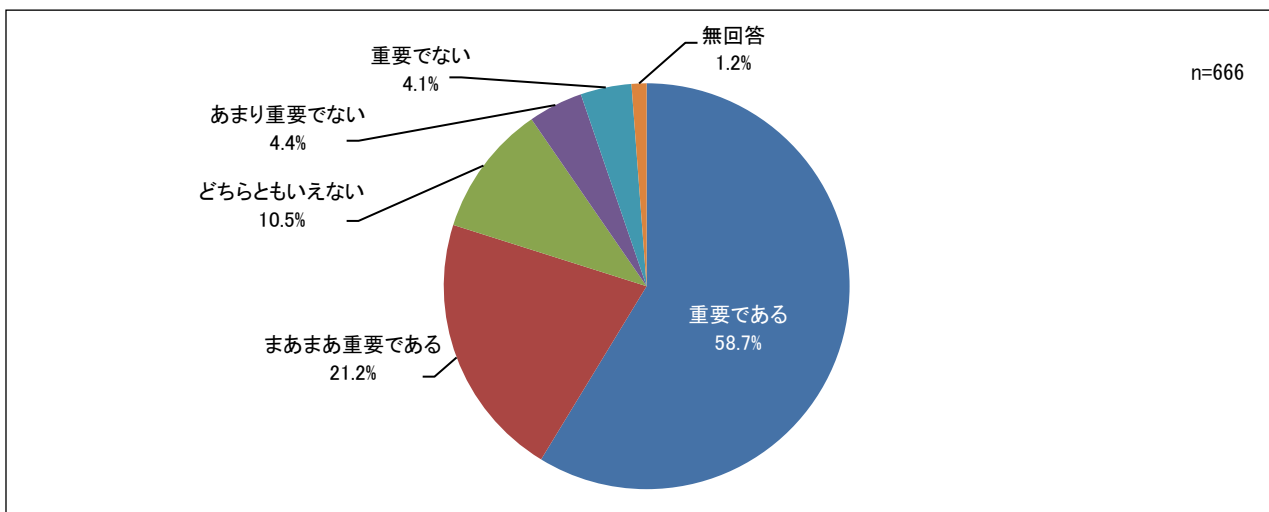
【全体・満足度】

「やや不満である」(29.6%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」(25.7%)、「まあまあ満足している」(22.2%)の順となっている。



【全体・重要度】

「重要である」(58.7%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ重要である」(21.2%)、「どちらともいえない」(10.5%)の順となっている。

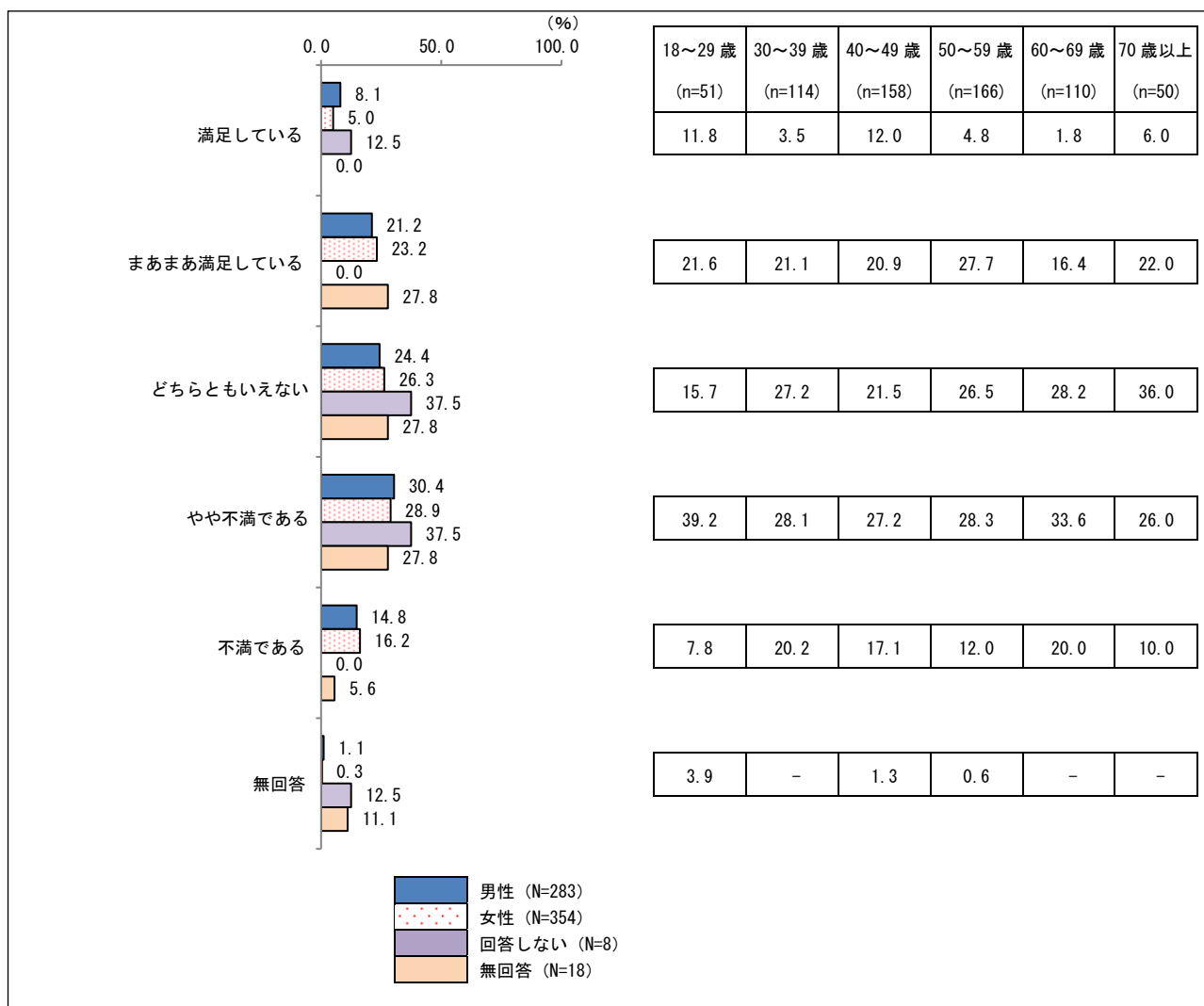


【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性（30.4%）、女性（28.9%）ともに「やや不満である」の割合が最も高くなっている。

年代別で見ると、「やや不満である」については70歳以上を除くすべての年代で割合が最も高くなっている。

一方、「どちらともいえない」については、70歳以上（36.0%）の割合が最も高くなっている。



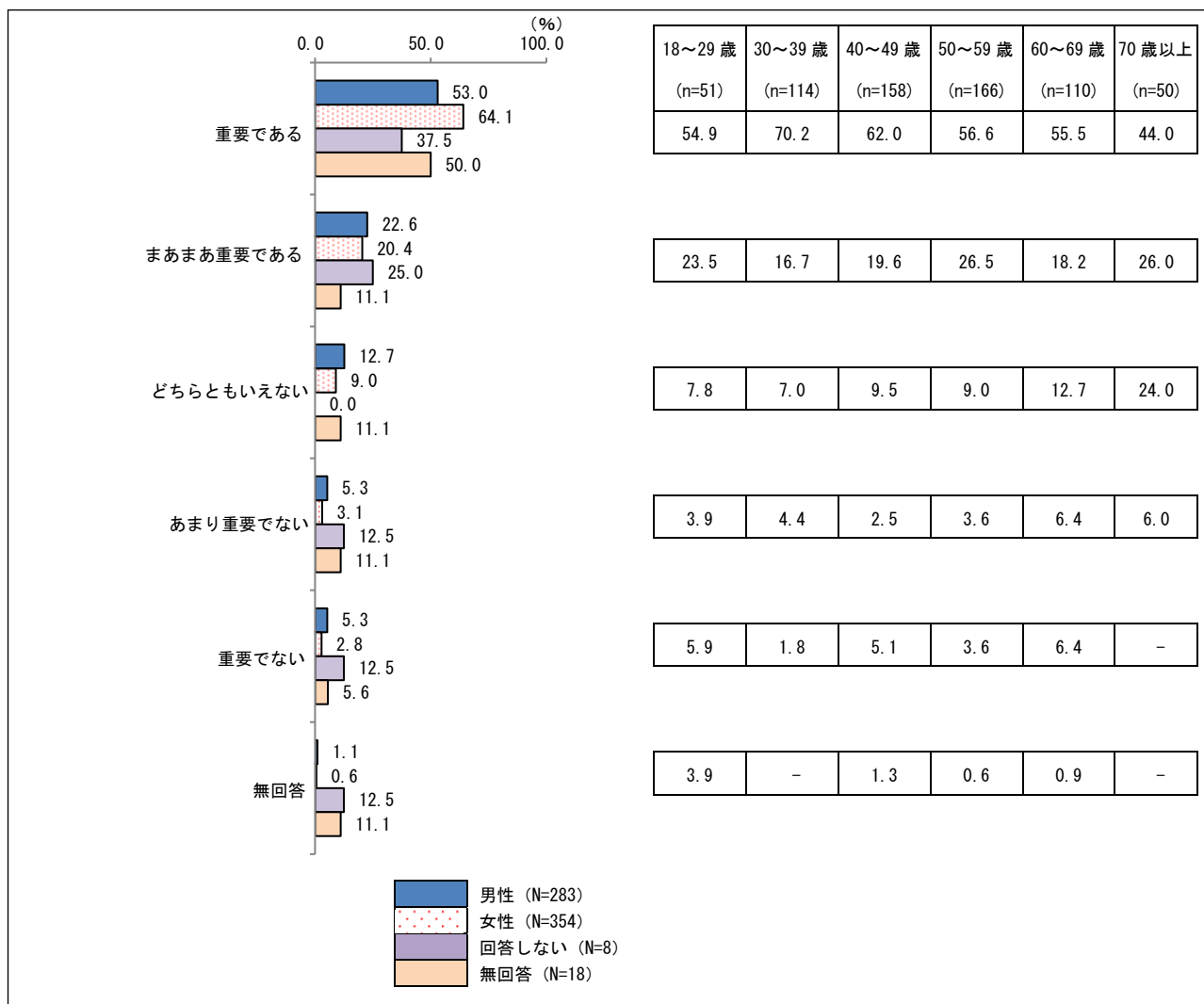
【性別・年代別 重要度】

性別で見ると、男性（53.0%）、女性（64.1%）ともに「重要である」の割合が最も高くなっている。

また、「重要である」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「重要である」の割合がすべての年代で最も高くなっている。

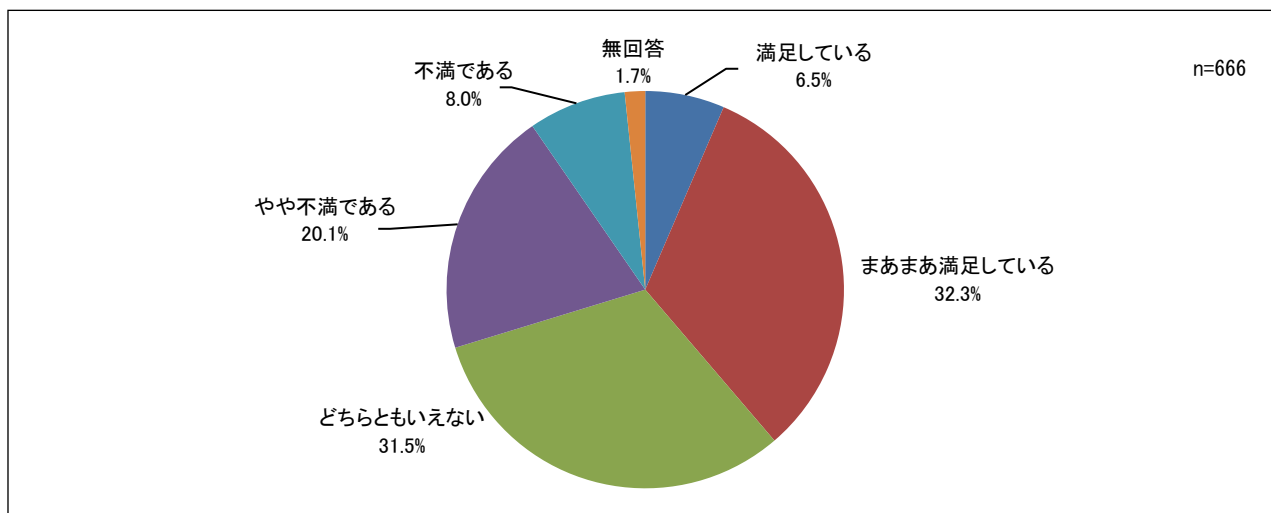
また、「重要である」については、30～39歳（70.2%）が想定的に高くなっている。



(2) 地域社会・経済(まちに活気やにぎわいがあること、日常の買い物環境 など)

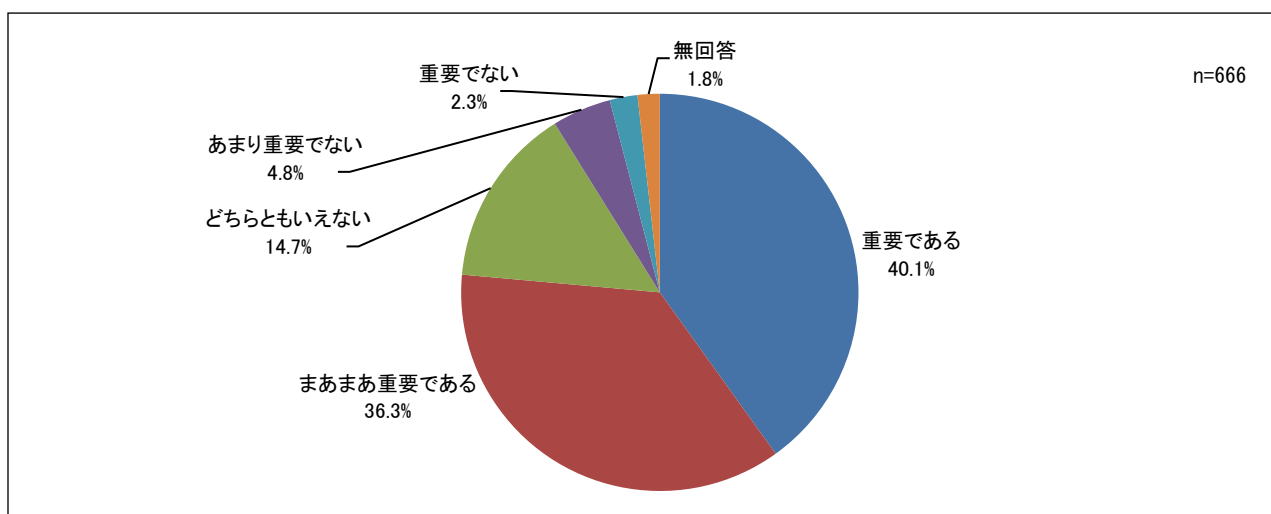
【全体・満足度】

「まあまあ満足している」(32.3%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」(31.5%)、「やや不満である」(20.1%)の順となっている。



【全体・重要度】

「重要である」(40.1%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ重要である」(36.3%)、「どちらともいえない」(14.7%)の順となっている。

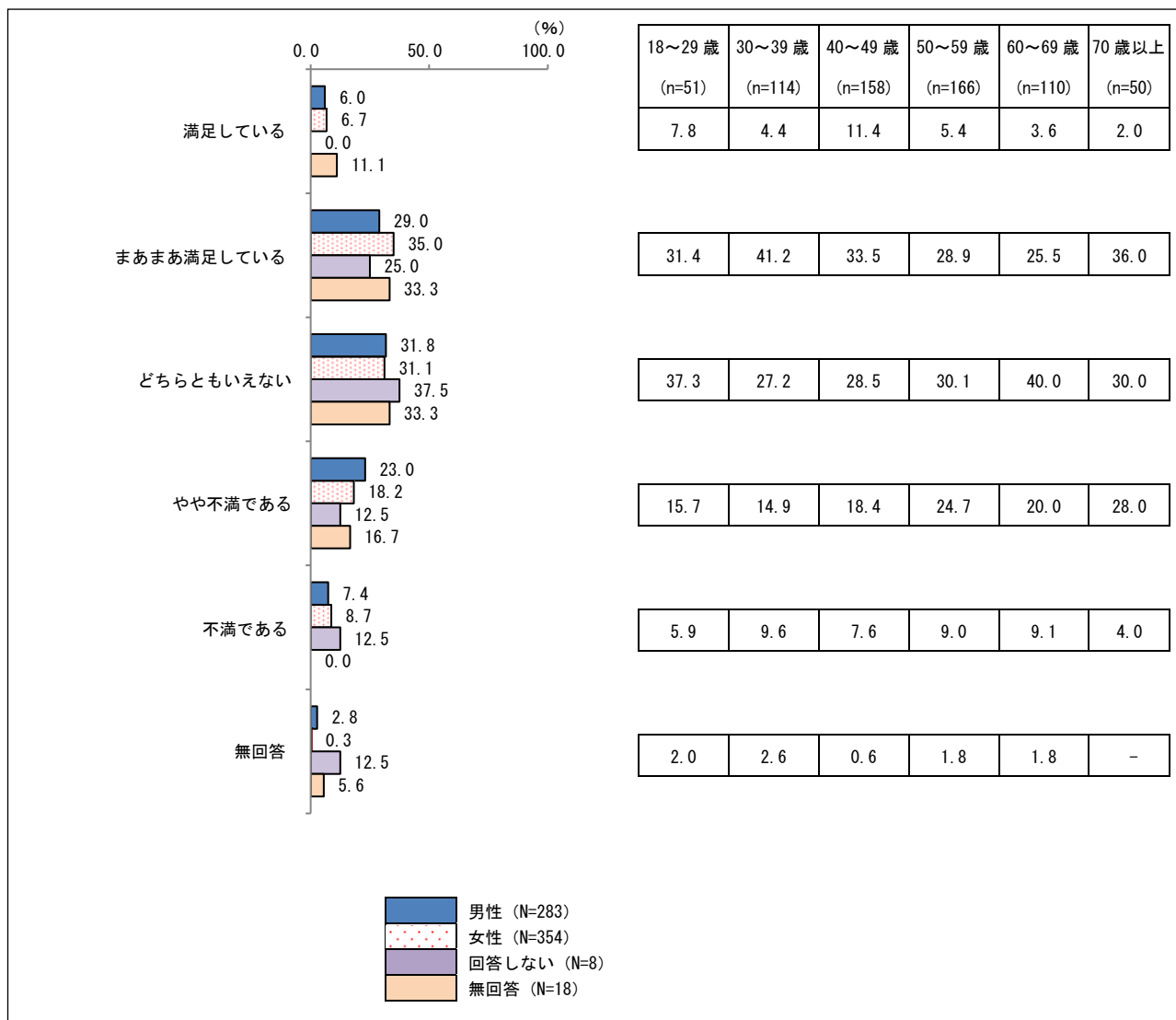


【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性では「どちらともいえない」(31.8%)が、女性では「まあまあ満足している」(35.0%)の割合が最も高くなっている。

また、「まあまあ満足している」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

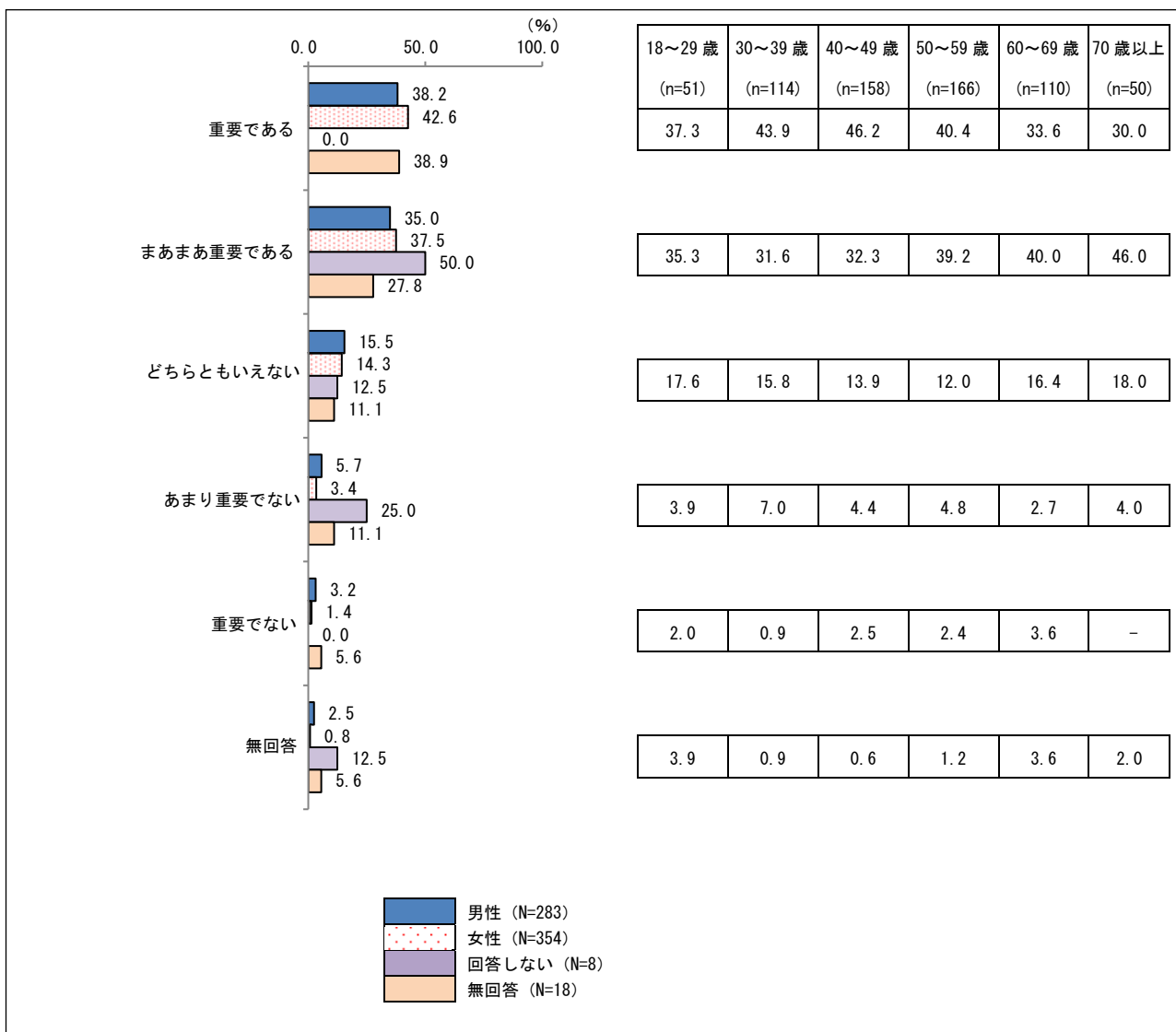
年代別で見ると、「満足している」については、30～39歳(41.2%)、40～49歳(33.5%)、70歳以上(36.0%)の割合が高くなっており、「どちらともいえない」については18～29歳(37.3%)、50～59歳(30.1%)、60～69歳(40.0%)の割合が高くなっている。



【性別・年代別 重要度】

性別で見ると、男性（38.2%）、女性（42.6%）ともに「重要である」の割合が最も高くなっている。

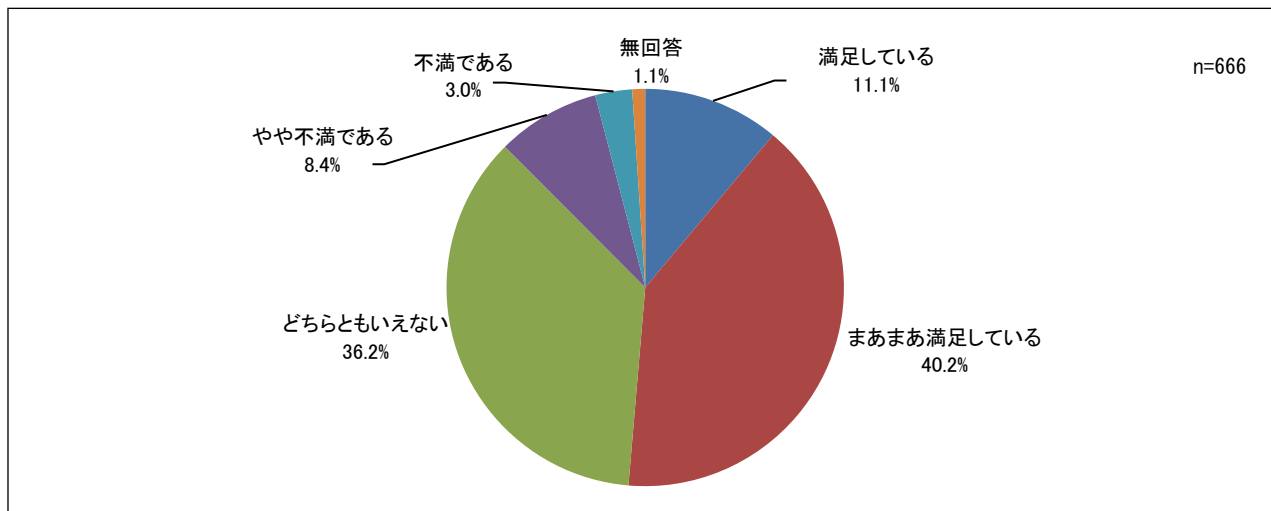
年代別で見ると、「重要である」では18～29歳（37.3%）、30～39歳（43.9%）、40～49歳（46.2%）、50～59歳（40.4%）の割合が高くなっており、「まあまあ重要である」については、60～69歳（40.0%）、70歳以上（46.0%）の割合が高くなっている。



(3) 環境(自然環境・資源のリサイクル など)

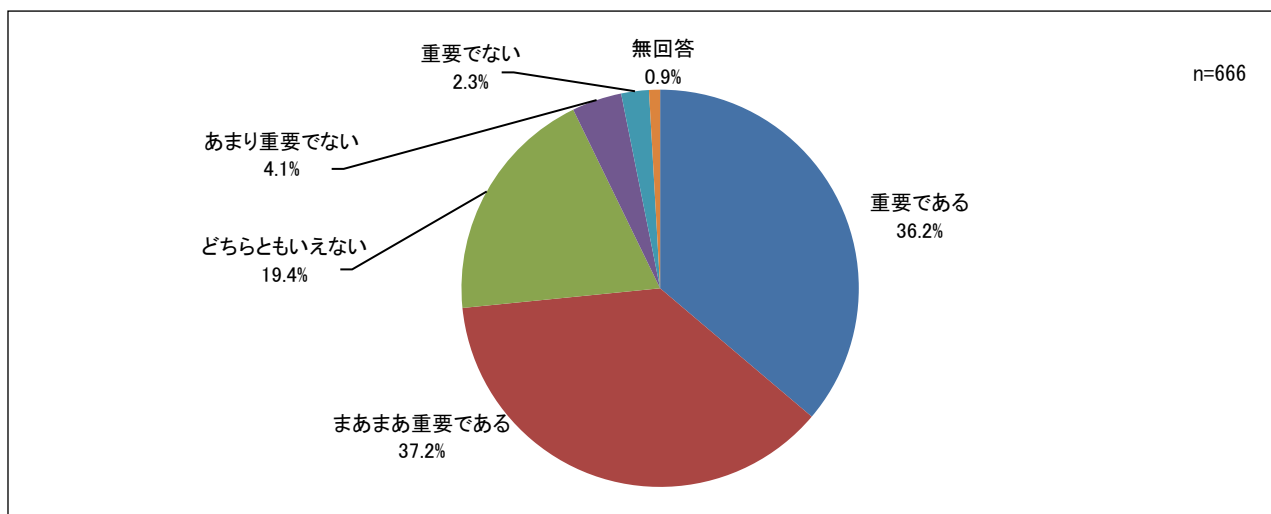
【全体・満足度】

「まあまあ満足している」(40.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」(36.2%)、「満足している」(11.1%)の順となっている。



【全体・重要度】

「まあまあ重要である」(37.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「重要である」(36.2%)、「どちらともいえない」(19.4%)の順となっている。

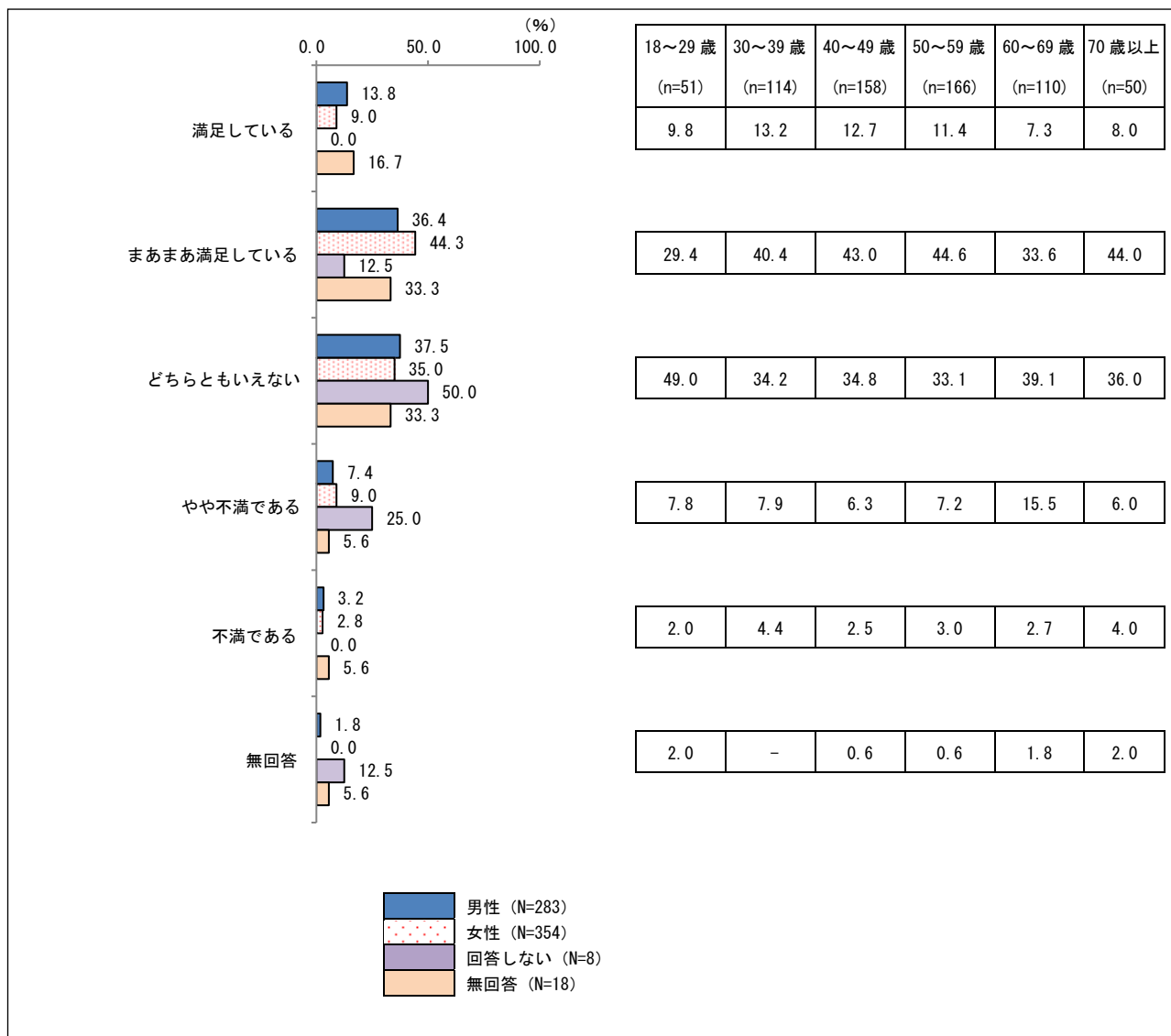


【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性では「どちらともいえない」(37.5%)が、女性では「まあまあ満足している」(44.3%)の割合が最も高くなっている。

また、「まあまあ満足している」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「まあまあ満足している」については、30～39歳(40.4%)、40～49歳(43.0%)、50～59歳(44.6%)、70歳以上(44.0%)の割合が高くなっており、「どちらともいえない」については18～29歳(49.0%)、60～69歳(39.1%)の割合が高くなっている。

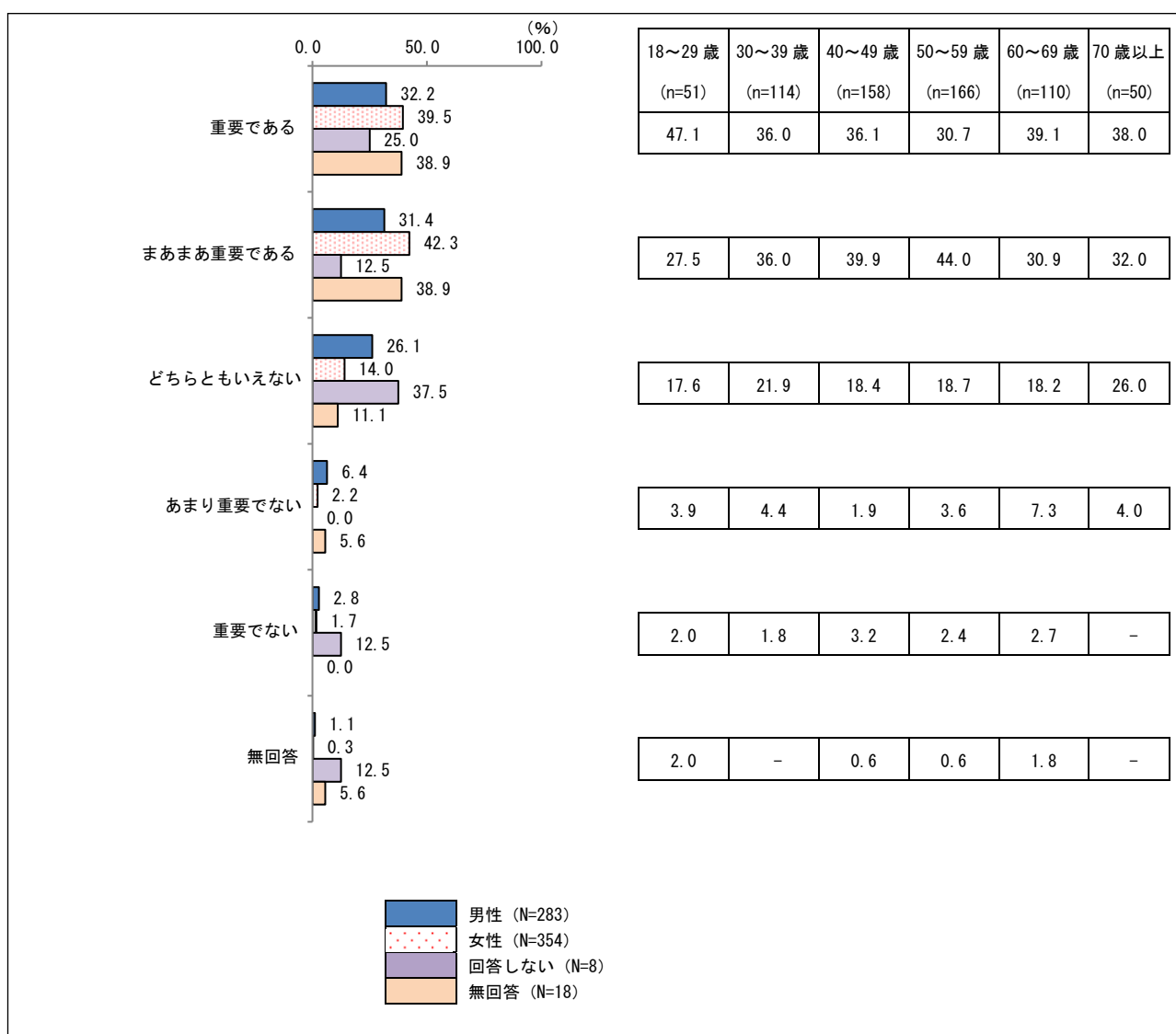


【性別・年代別 重要度】

性別で見ると、男性では「重要である」(32.2%)、女性では「まあまあ重要である」(42.3%)の割合が最も高くなっている。

また、「重要である」と「まあまあ重要である」では女性が男性より5ポイント以上高くなっており、「どちらともいえない」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

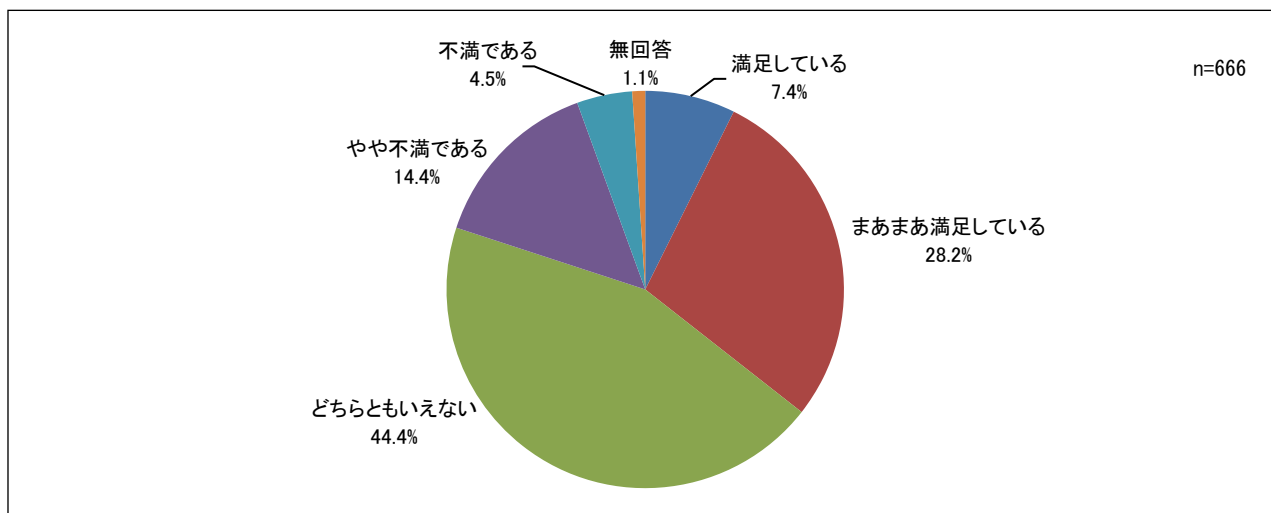
年代別で見ると、「重要である」では18～29歳(47.1%)、30～39歳(36.0%)、60～69歳(39.1%)、70歳以上(38.0%)の割合が高くなっており、「まあまあ重要である」については、30～39歳(36.0%)、40～49歳(39.9%)、50～59歳(44.0%)の割合が高くなっている。



(4) 教育(充実した教育を受けることができること など)

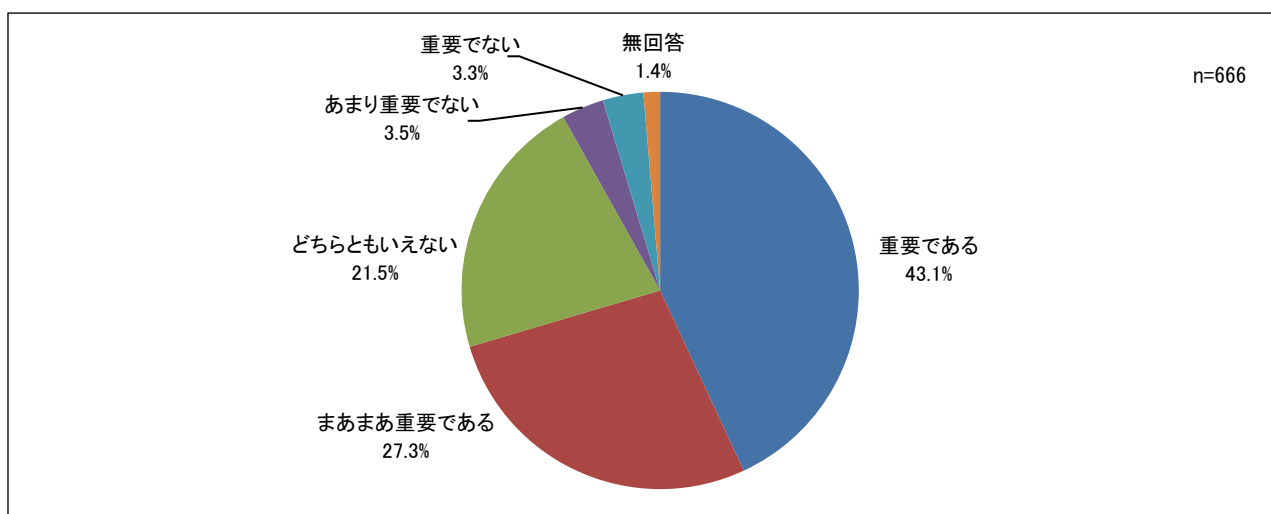
【全体・満足度】

「どちらともいえない」(44.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ満足している」(28.2%)、「やや不満である」(14.4%)の順となっている。



【全体・重要度】

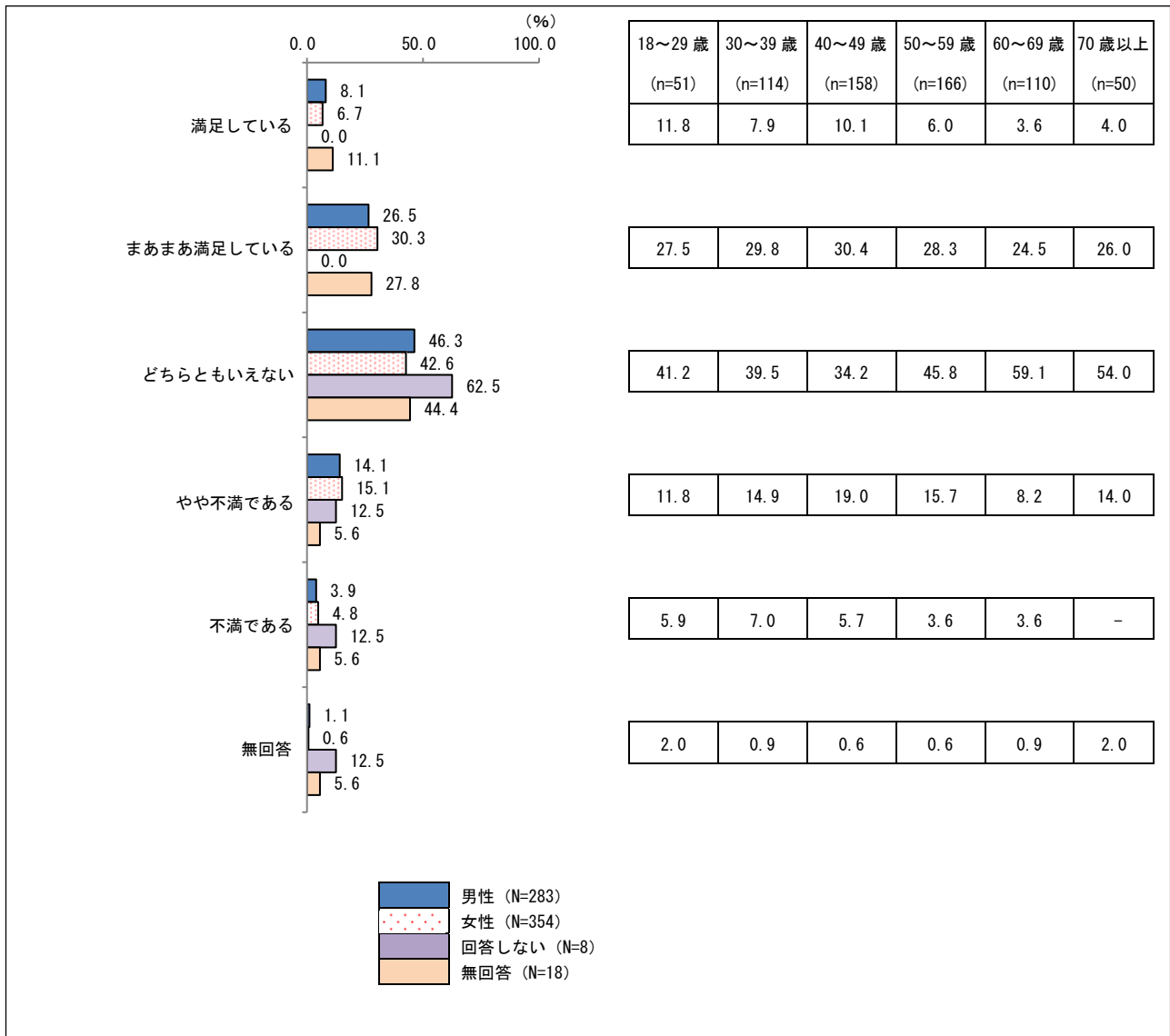
「重要である」(43.1%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ重要である」(27.3%)、「どちらともいえない」(21.5%)の順となっている。



【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性（46.3%）、女性（42.6%）ともに「どちらともいえない」の割合が最も高くなっている。

年代別で見ると、「どちらともいえない」については、すべての年代で最も割合が高くなっている。



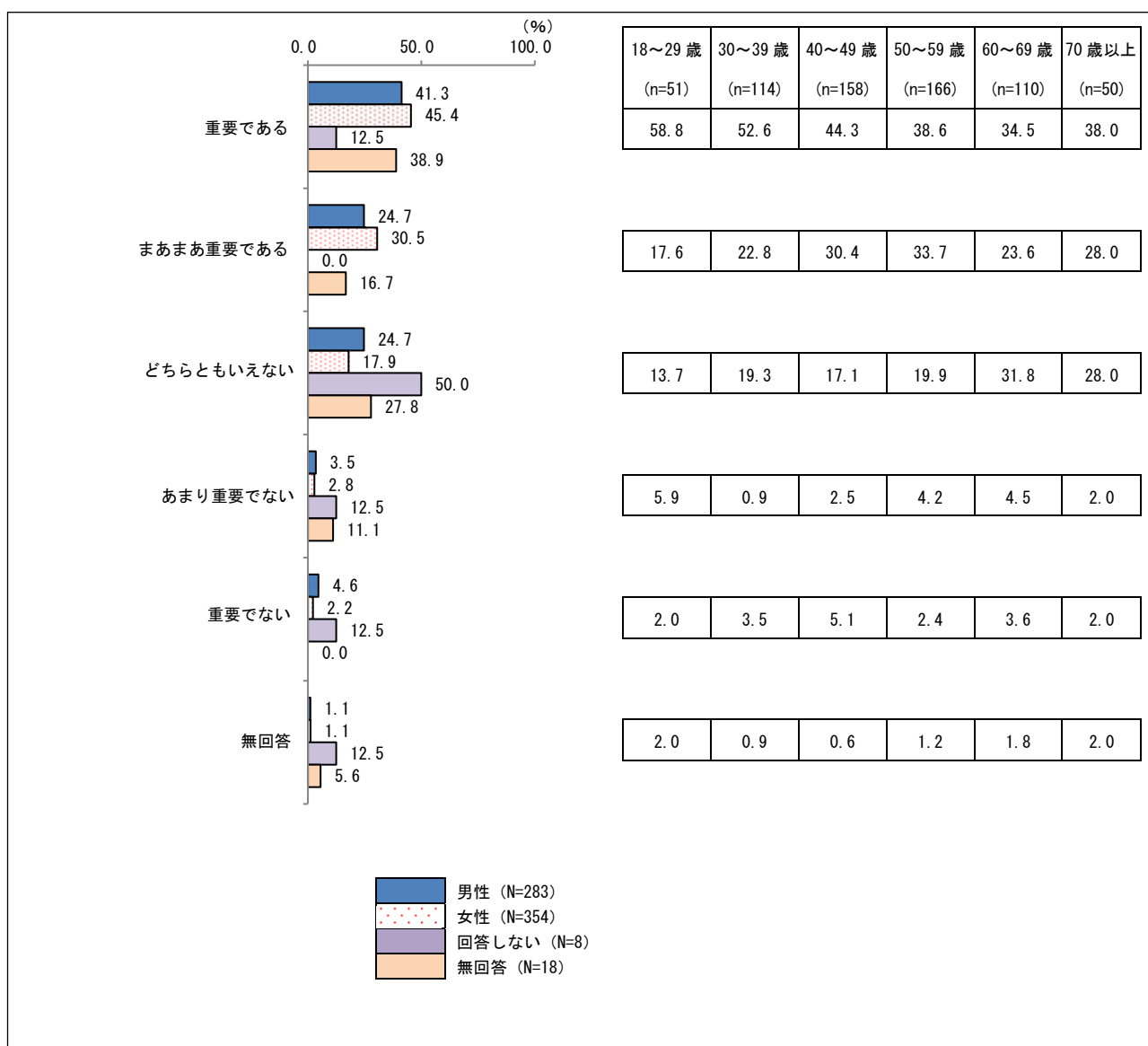
【性別・年代別 重要度】

性別で見ると、男性（41.3%）、女性（45.4%）ともに「重要である」の割合が最も高くなっている。

また、「まあまあ重要である」では女性が男性より5ポイント以上高くなっており、「どちらともいえない」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「重要である」についてはすべての年代で最も割合が高くなっている。

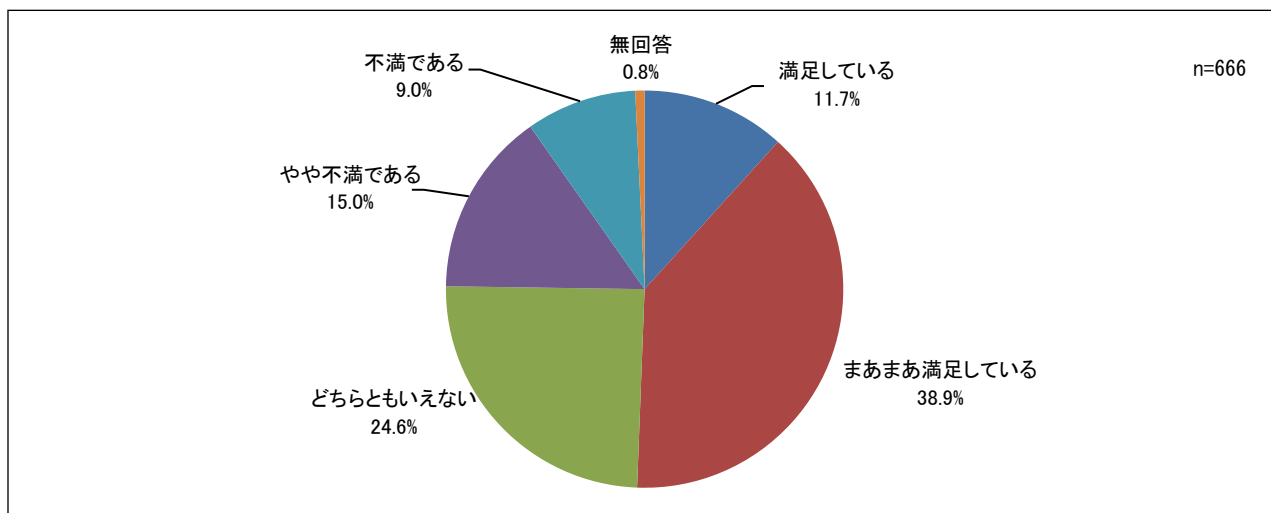
また、「まあまあ重要である」については、40～49歳（30.4%）、50～59歳（33.7%）の割合が高く、「どちらともいえない」については、60～69歳（31.8%）、70歳以上（28.0%）の割合が高くなっている。



(5) 医療(必要な医療をいつでも受けることができること など)

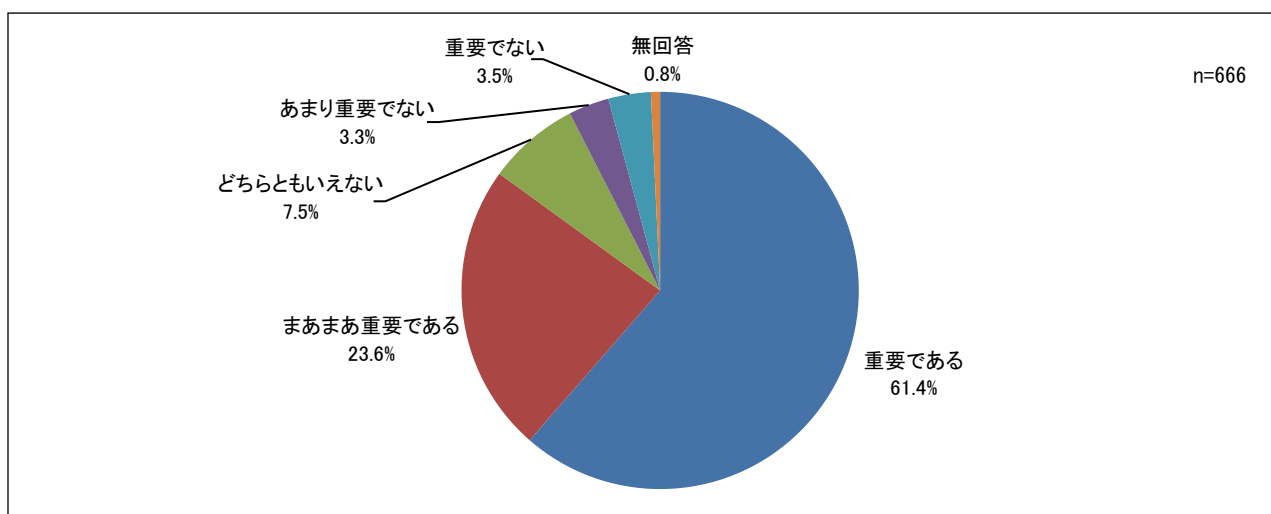
【全体・満足度】

「まあまあ満足している」(38.9%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」(24.6%)、「やや不満である」(15.0%)の順となっている。



【全体・重要度】

「重要である」(61.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ重要である」(23.6%)、「どちらともいえない」(7.5%)の順となっている。

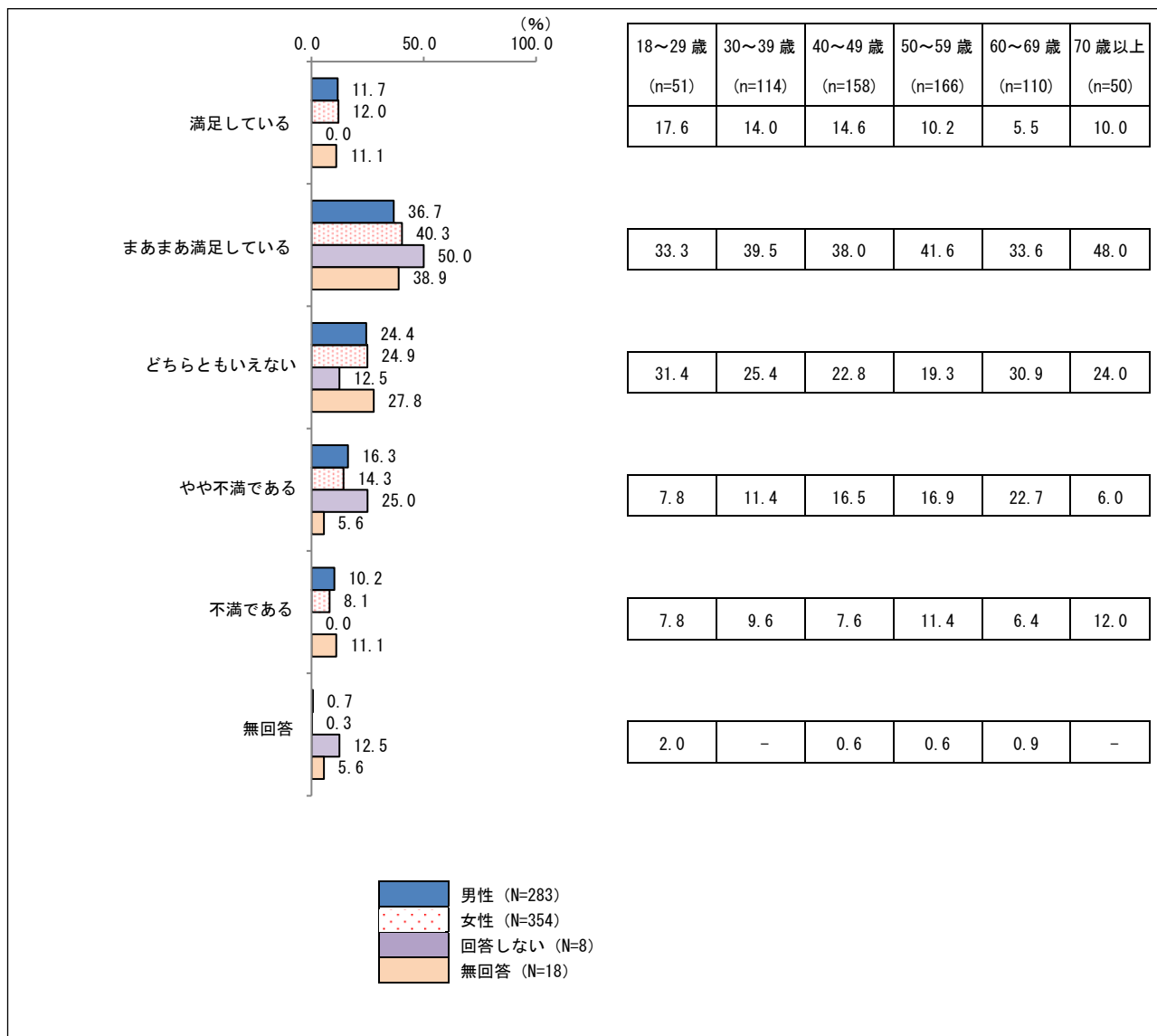


【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性（36.7%）、女性（40.3%）ともに「まあまあ満足している」の割合が最も高くなっている。

年代別で見ると、「まあまあ満足している」については、すべての年代で最も割合が高くなっている。

また、「やや不満である」については、他の年代の割合と比べて60～69歳（22.7%）の割合が相対的に高くなっている。



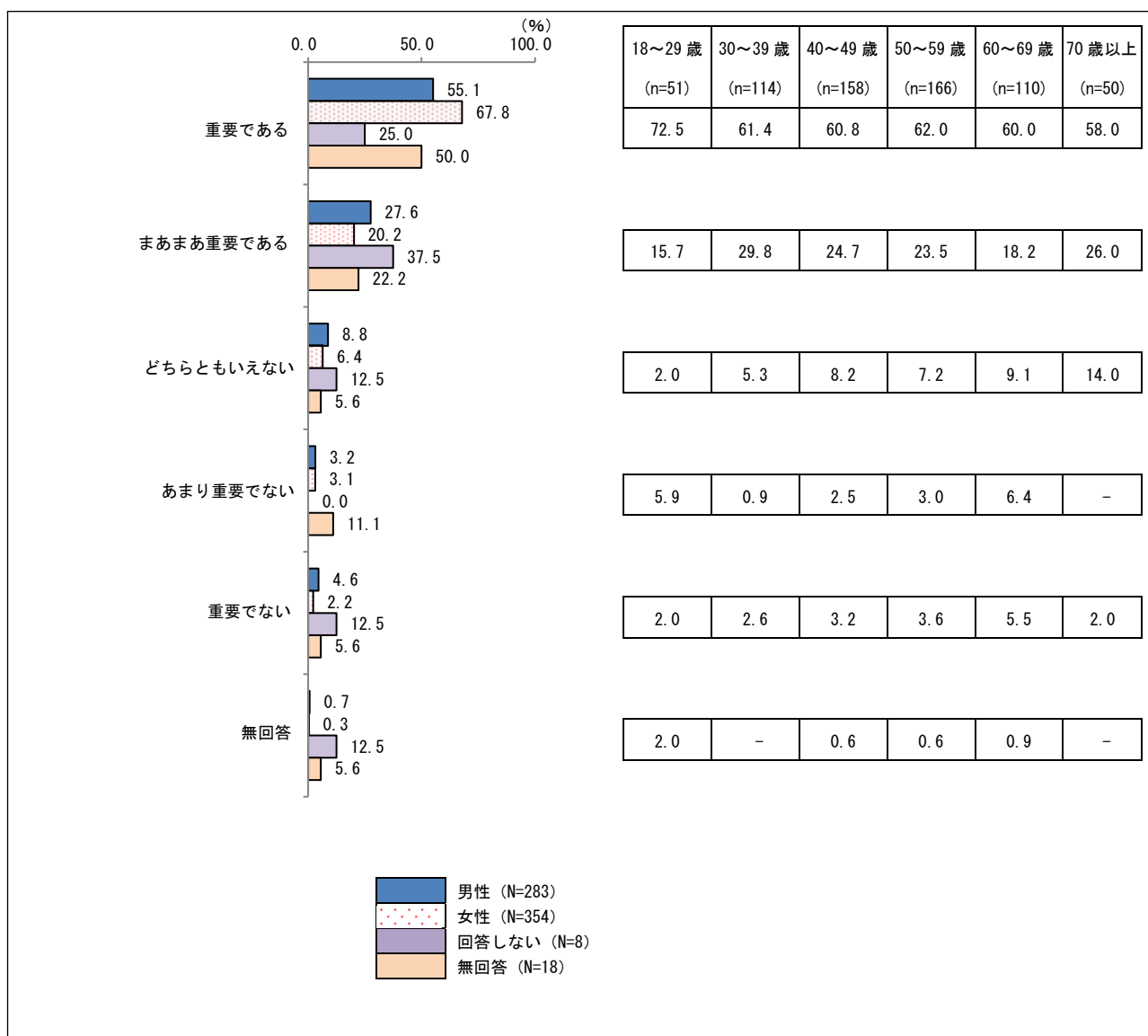
【性別・年代別 重要度】

性別で見ると、男性（55.1%）、女性（67.8%）ともに「重要である」の割合が最も高くなっている。

また、「重要である」では女性が男性より5ポイント以上高くなっており、「まあまあ重要である」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「重要である」についてはすべての年代で最も割合が高くなっている。

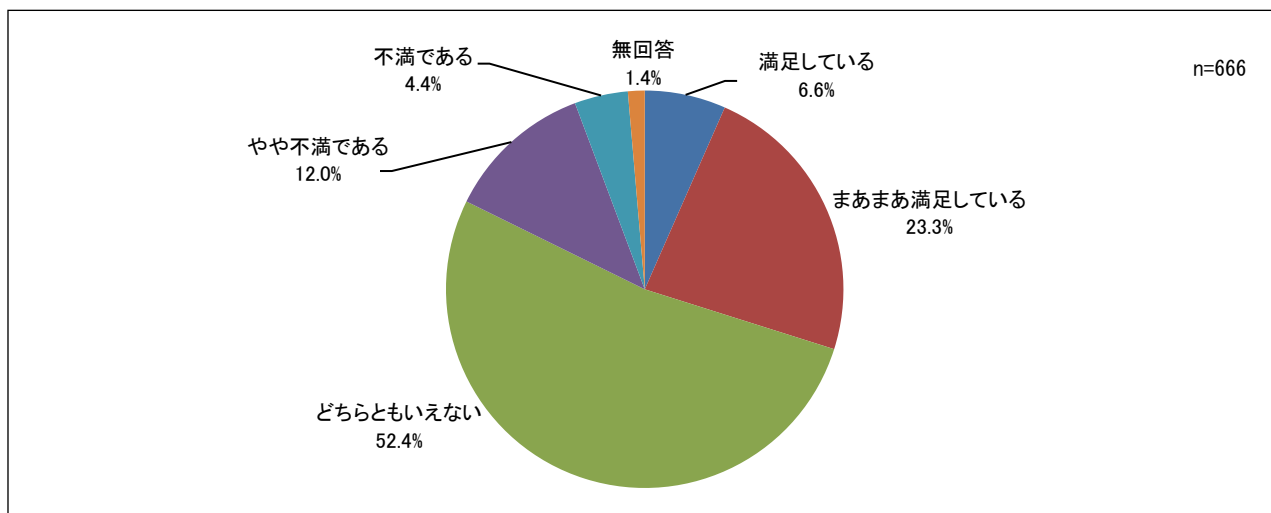
また、「どちらともいえない」については、他の年代の割合と比べて70歳以上（14.0%）の割合が相対的に高くなっている。



(6) 子育て(子育て環境 など)

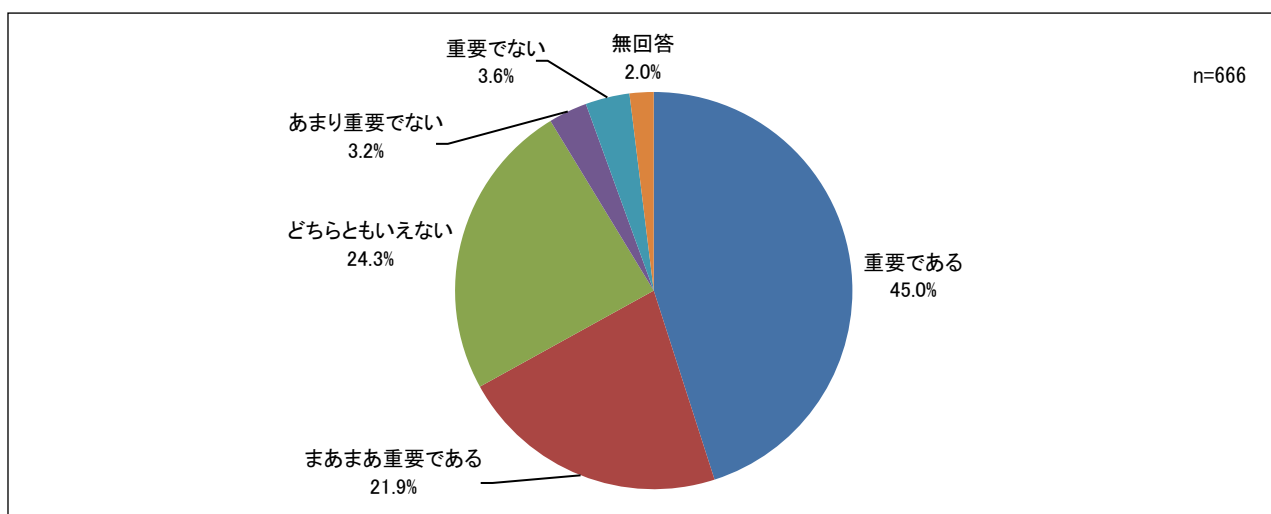
【全体・満足度】

「どちらともいえない」(52.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ満足している」(23.3%)、「やや不満である」(12.0%)の順となっている。



【全体・重要度】

「重要である」(45.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」(24.3%)、「まあまあ重要である」(21.9%)の順となっている。



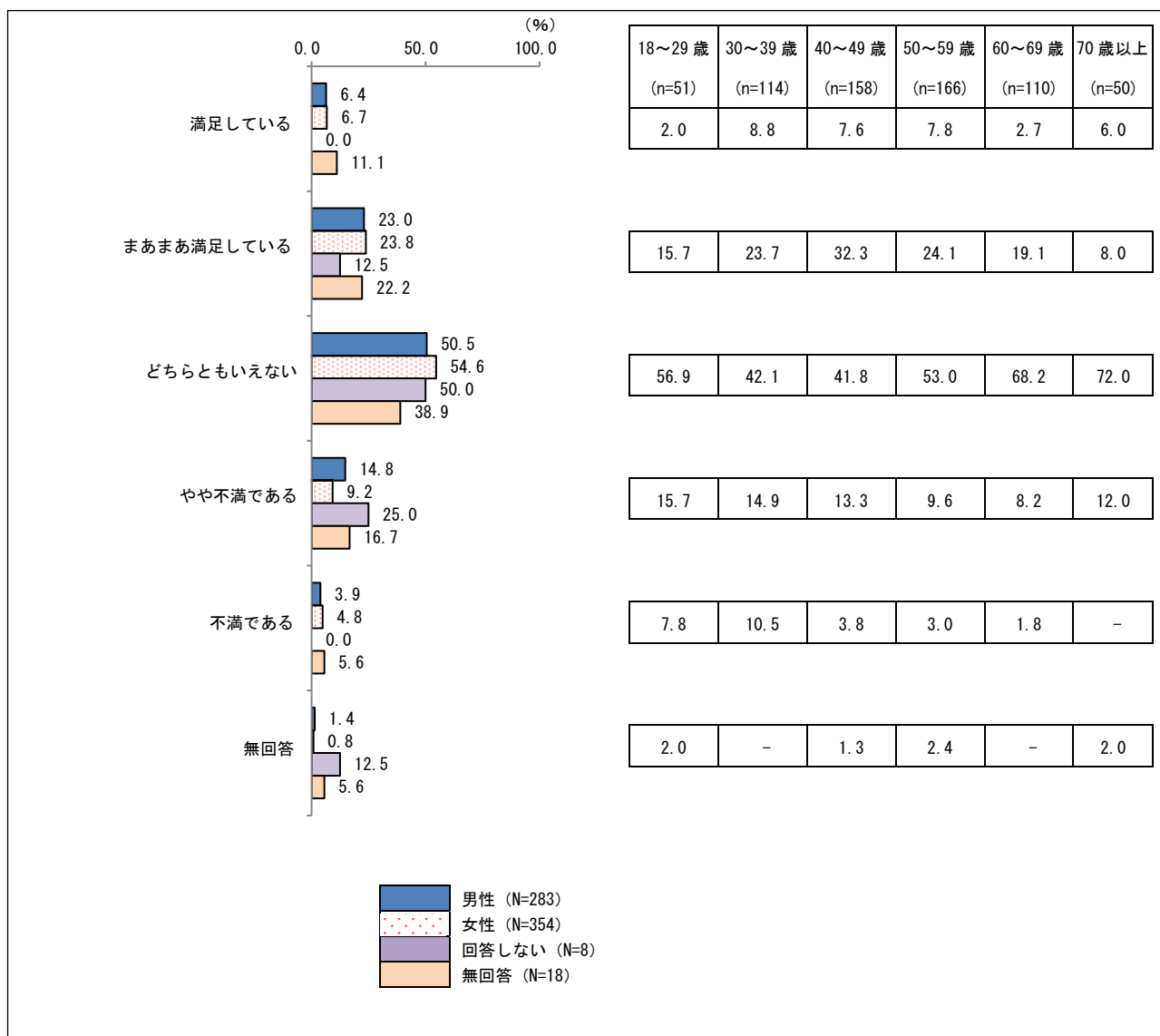
【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性（50.5%）、女性（54.6%）ともに「どちらともいえない」の割合が最も高くなっている。

また、「やや不満である」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「どちらともいえない」については、すべての年代で最も割合が高くなっている。

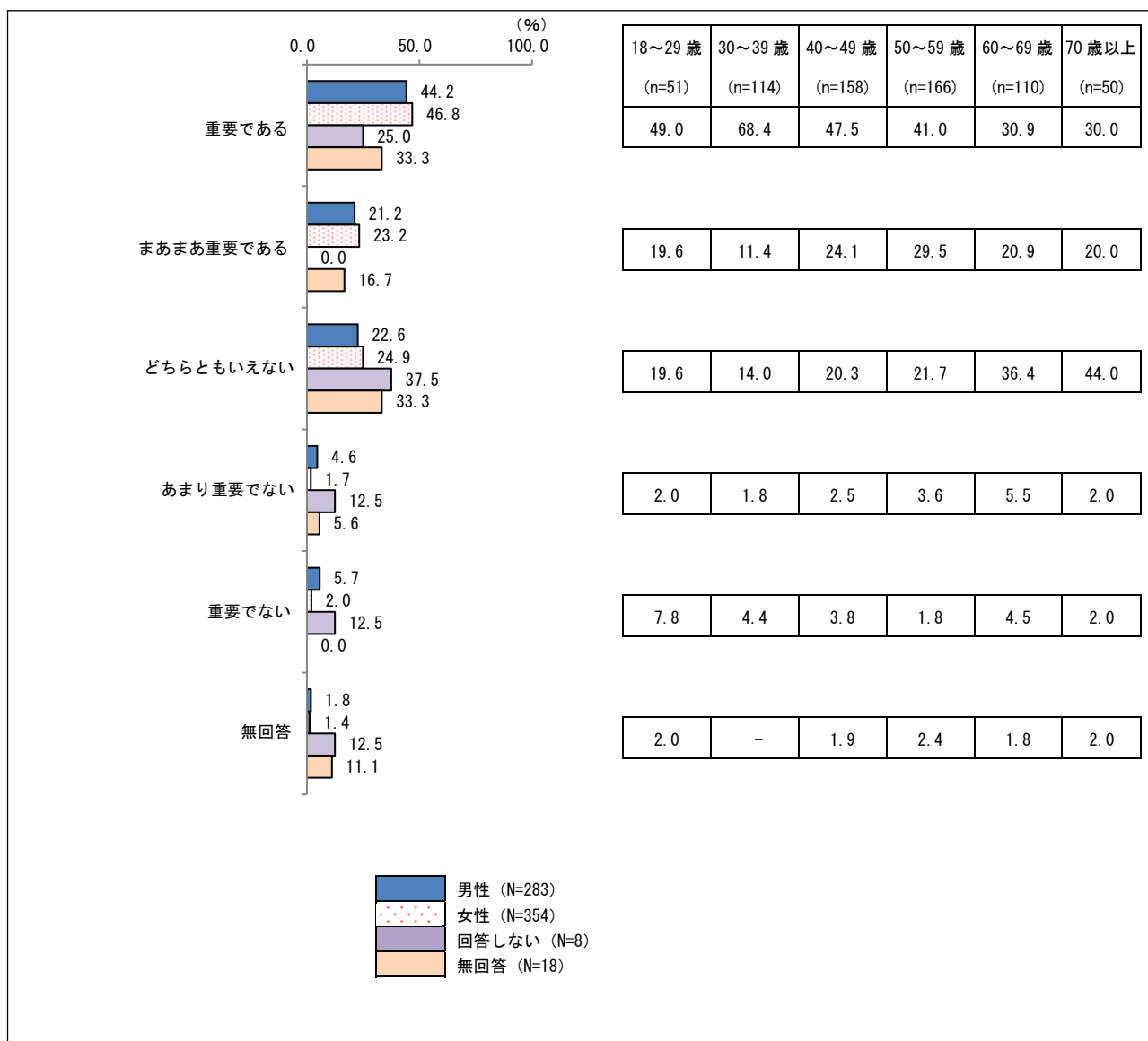
また、「まあまあ満足している」については、他の年代の割合と比べて40～49歳（32.3%）の割合が相対的に高くなっている。



【性別・年代別 重要度】

性別で見ると、男性（44.2%）、女性（46.8%）ともに「重要である」の割合が最も高くなっている。

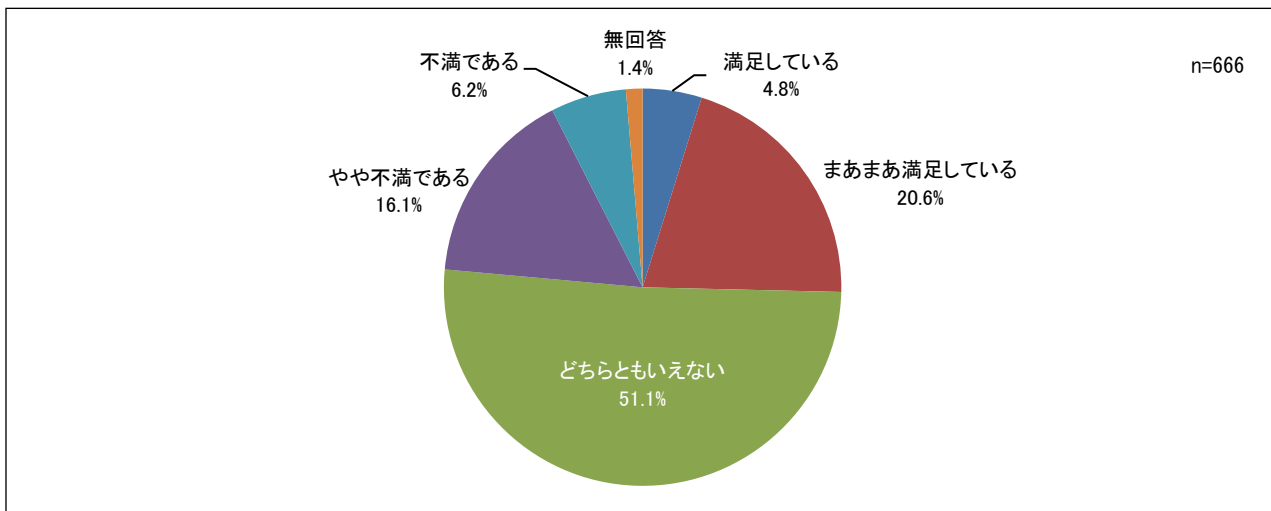
年代別で見ると、「重要である」については、18～29 歳（49.0%）、30～39 歳（68.4%）、40～49 歳（47.5%）、50～59 歳（41.0%）で最も割合が高く、「どちらともいえない」については、60～69 歳（36.4%）、70 歳以上（44.0%）で最も割合が高くなっている。



(7) 福祉(高齢者や障がいのある方が地域で生き生きと生活できる環境 など)

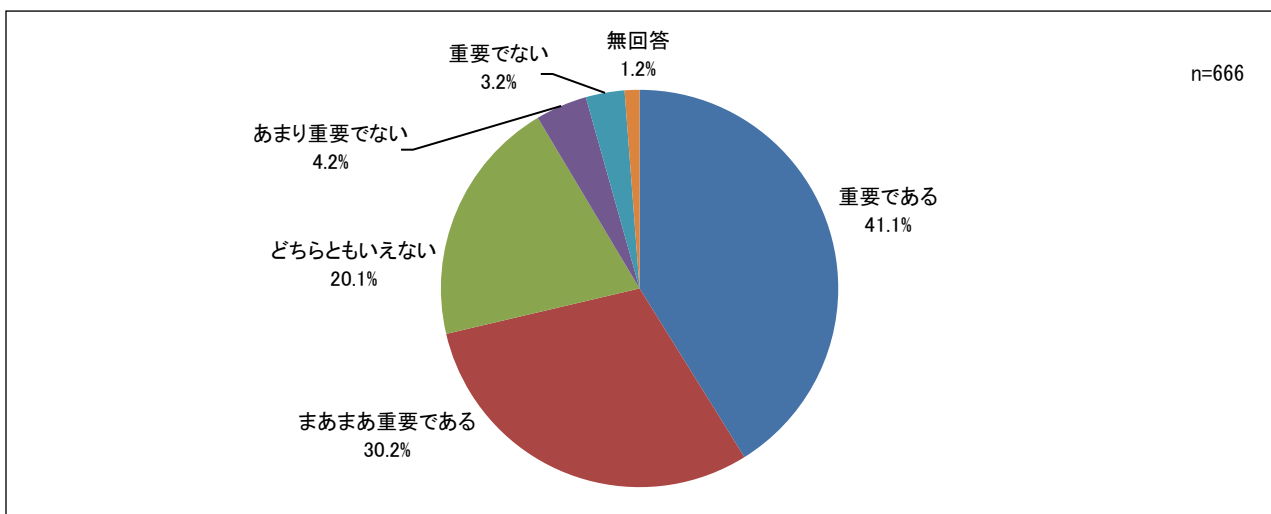
【全体・満足度】

「どちらともいえない」(51.1%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ満足している」(20.6%)、「やや不満である」(16.1%)の順となっている。



【全体・重要度】

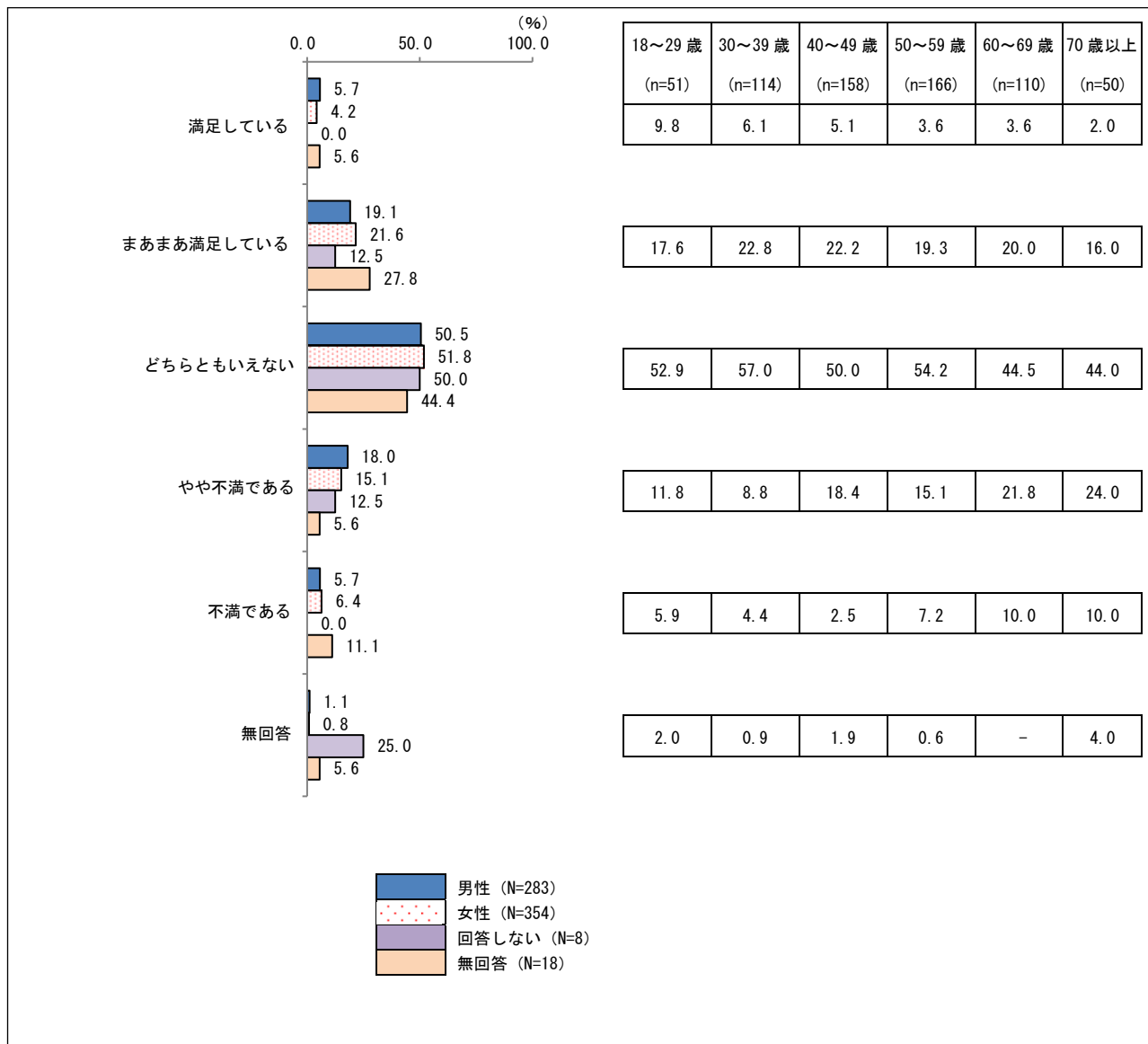
「重要である」(41.1%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ重要である」(30.2%)、「どちらともいえない」(20.1%)の順となっている。



【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性（50.5%）、女性（51.8%）ともに「どちらともいえない」の割合が最も高くなっている。

年代別で見ると、「どちらともいえない」については、すべての年代で最も割合が高くなっている。

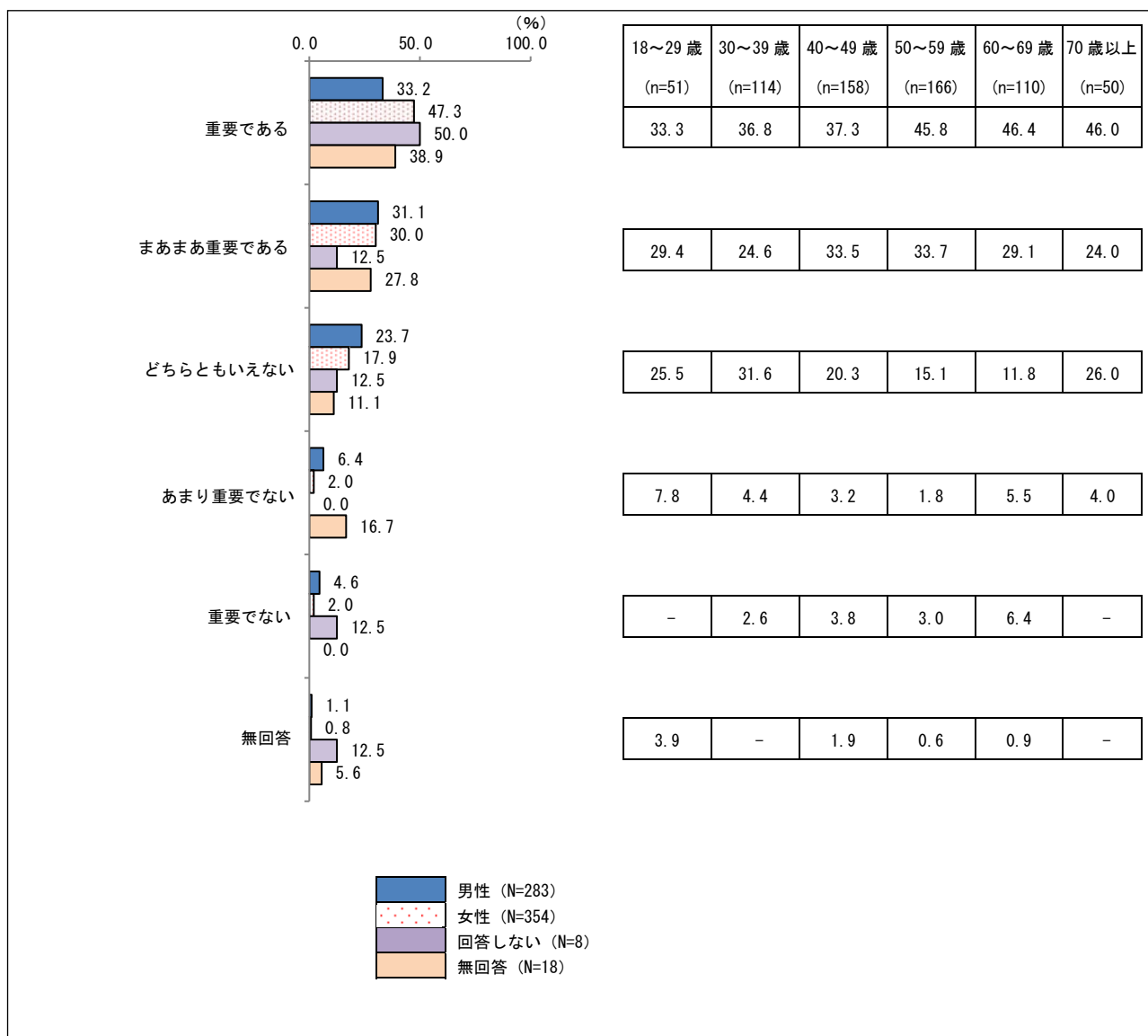


【性別・年代別 重要度】

性別で見ると、男性（33.2%）、女性（47.3%）ともに「重要である」の割合が最も高くなっている。

また、「重要である」では女性が男性より5ポイント以上高く、「どちらともいえない」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

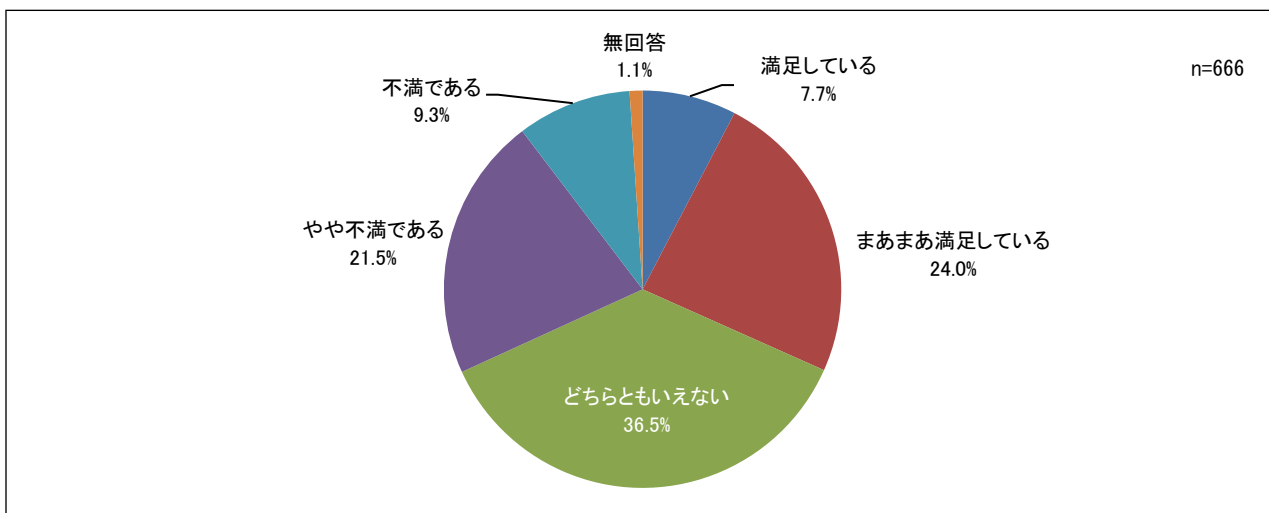
年代別で見ると、「重要である」の割合がすべての年代で最も高くなっている。



(8) 仕事(働く場が確保されていること、希望する職業で働けること、労働環境 など)

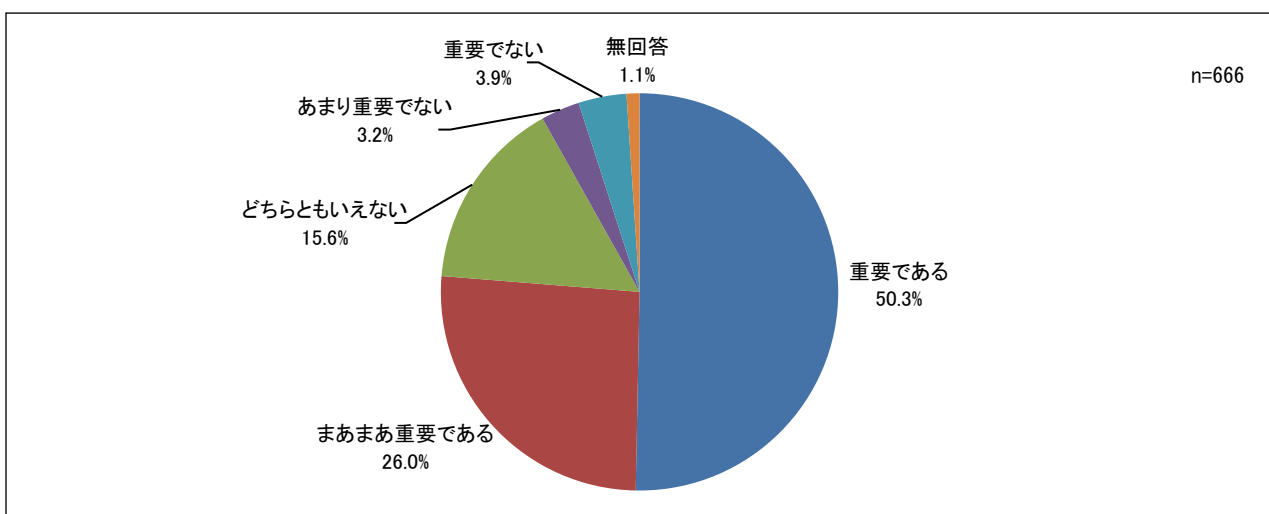
【全体・満足度】

「どちらともいえない」(36.5%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ満足している」(24.0%)、「やや不満である」(21.5%)の順となっている。



【全体・重要度】

「重要である」(50.3%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ重要である」(26.0%)、「どちらともいえない」(15.6%)の順となっている。



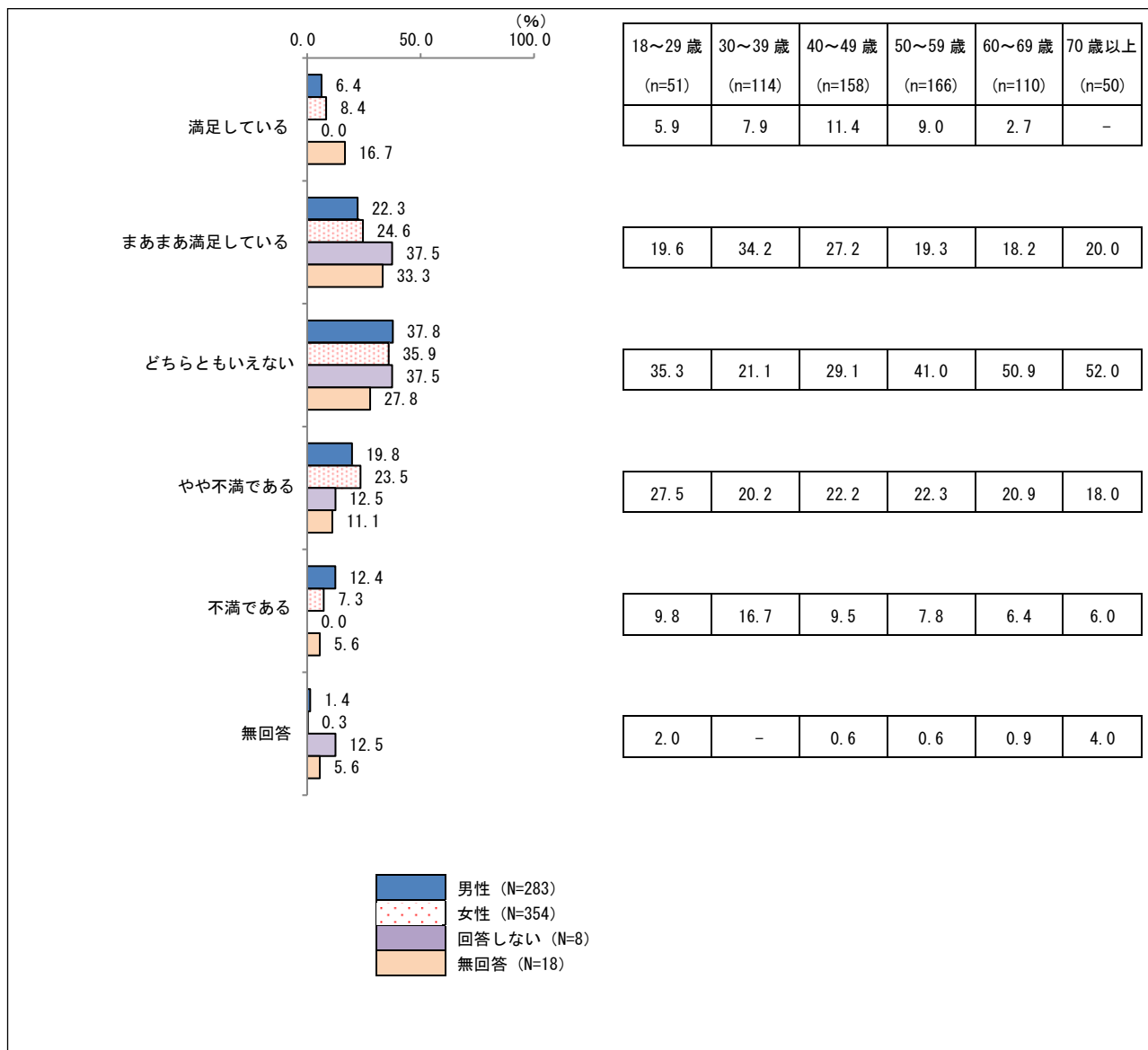
【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性（37.8%）、女性（35.9%）ともに「どちらともいえない」の割合が最も高くなっている。

また、「不満である」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「どちらともいえない」については、30～39歳を除くすべての年代で最も割合が高くなっている。

一方、「まあまあ満足している」については、30～39歳（34.2%）の割合が最も高くなっている。



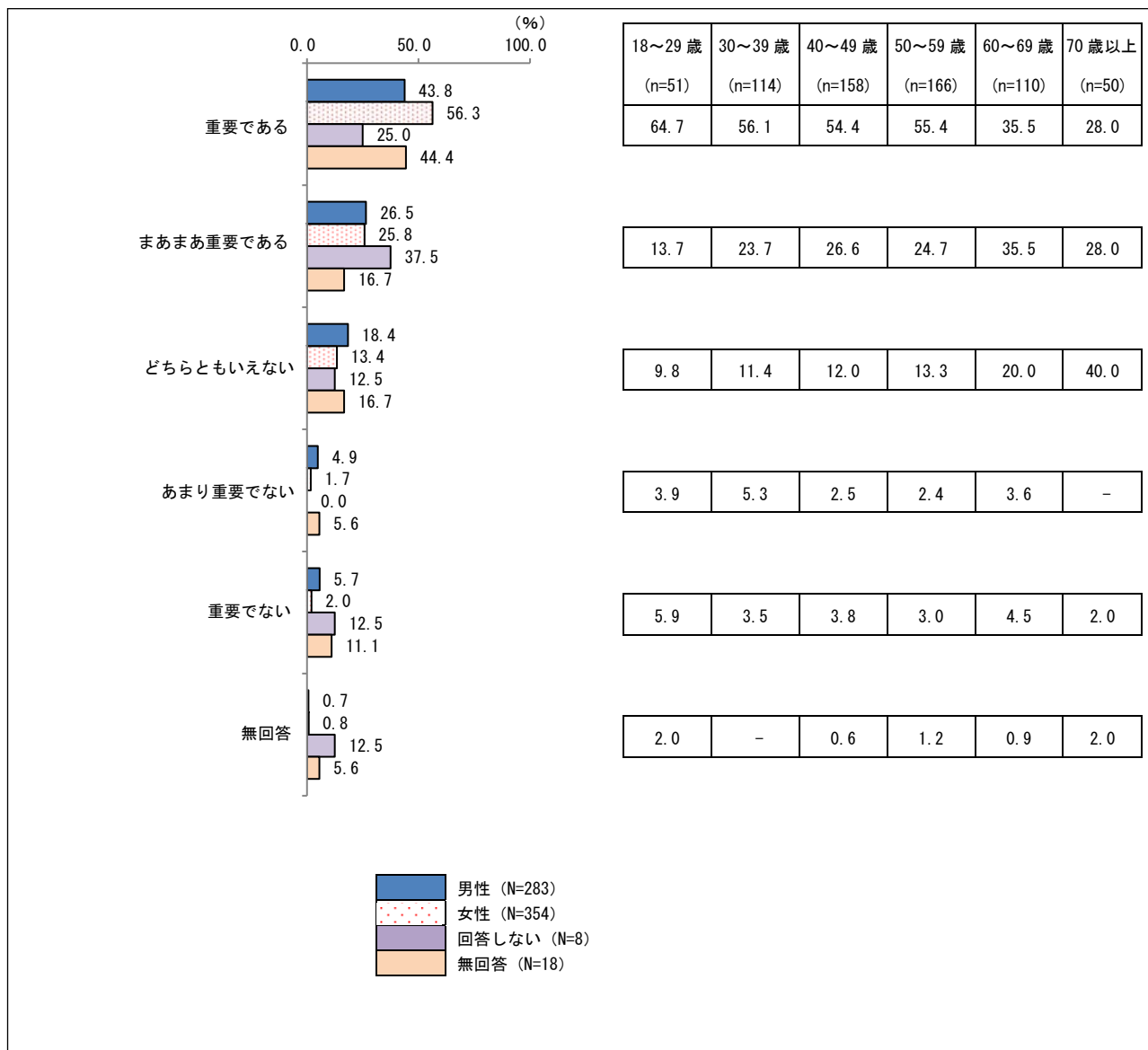
【性別・年代別 重要度】

性別で見ると、男性（43.8%）、女性（56.3%）ともに「重要である」の割合が最も高くなっている。

また、「重要である」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「重要である」については、70歳以上を除くすべての年代で最も割合が高くなっている。

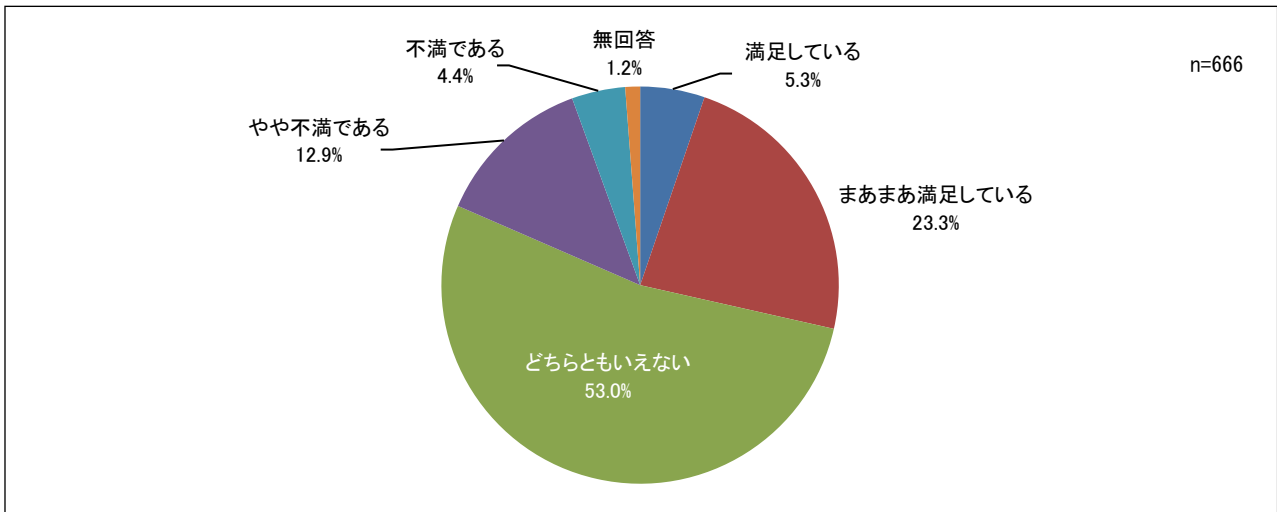
一方、「どちらともいえない」については、70歳以上（40.0%）の割合が最も高くなっている。



(9) 防災(地震や水害などへの防災対策 など)

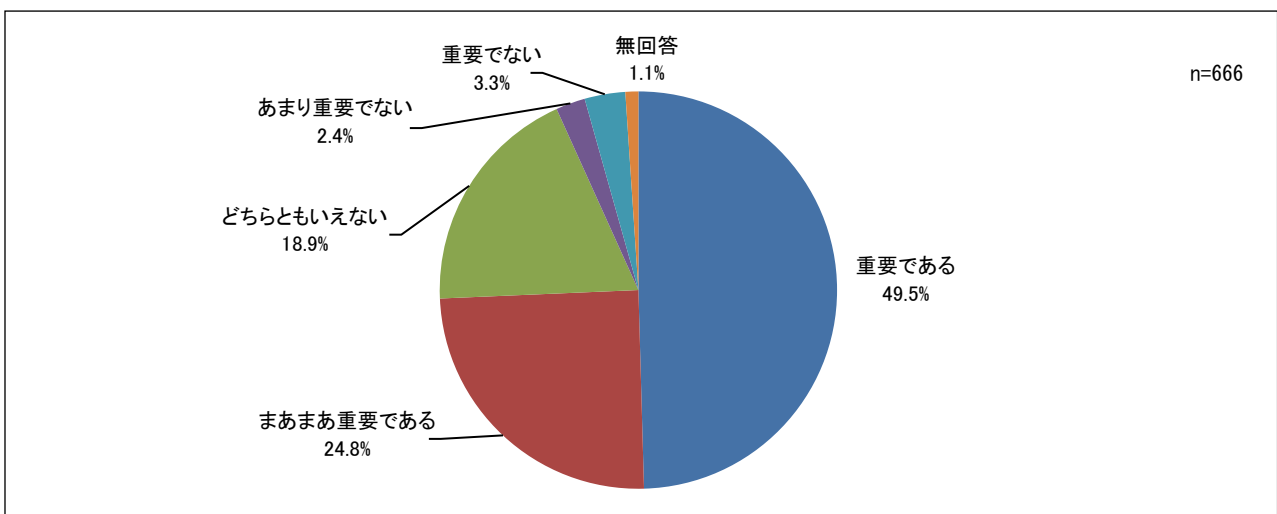
【全体・満足度】

「どちらともいえない」(53.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ満足している」(23.3%)、「やや不満である」(12.9%)の順となっている。



【全体・重要度】

「重要である」(49.5%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ重要である」(24.8%)、「どちらともいえない」(18.9%)の順となっている。



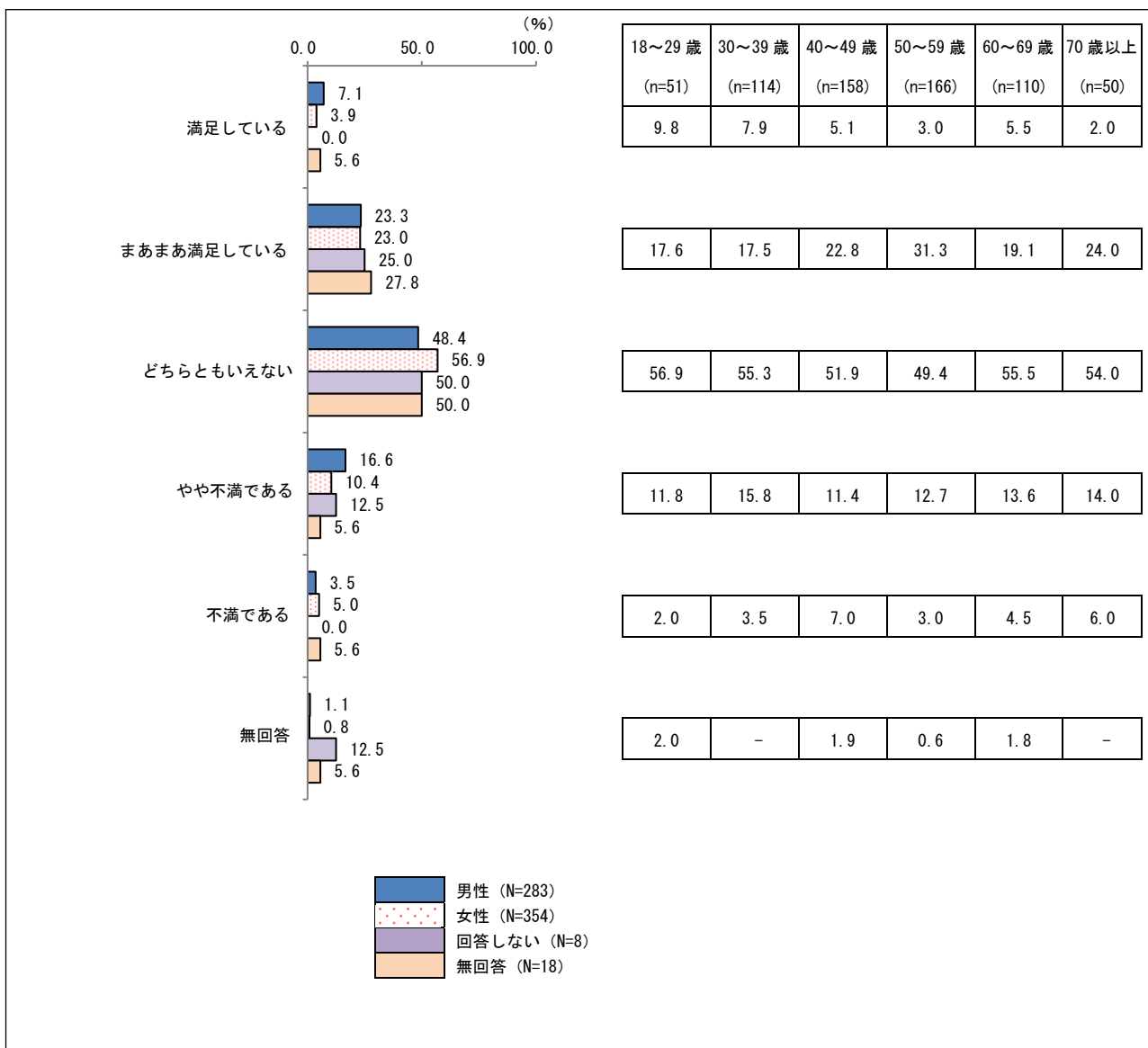
【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性（48.4%）、女性（56.9%）ともに「どちらともいえない」の割合が最も高くなっている。

また、「どちらともいえない」では女性が男性より5ポイント以上高く、「やや不満である」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「どちらともいえない」については、すべての年代で最も割合が高くなっている。

また、「まあまあ満足している」については、他の年代の割合と比べて50～59歳（31.3%）の割合が相対的に高くなっている。

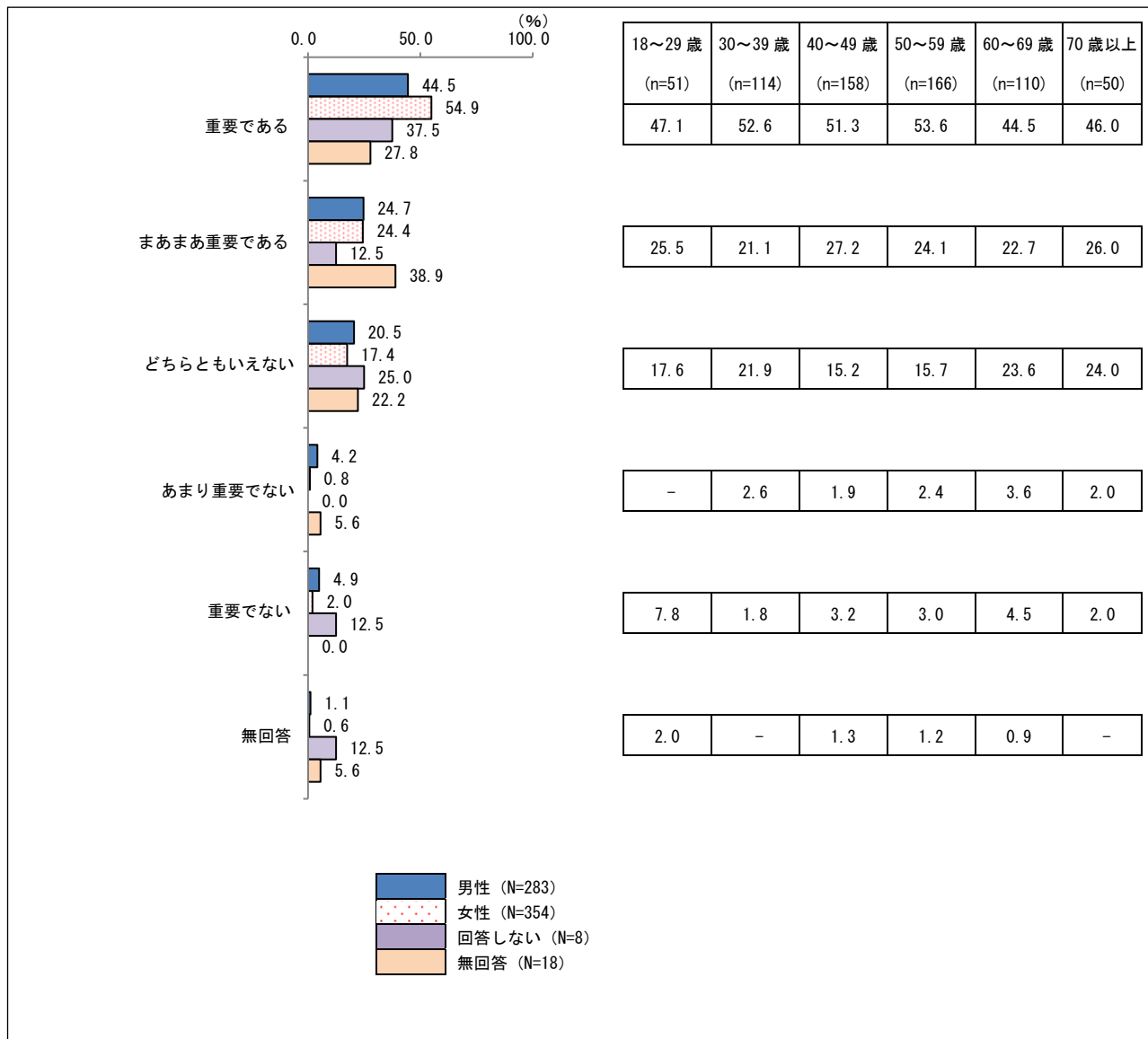


【性別・年代別 重要度】

性別で見ると、男性（44.5%）、女性（54.9%）ともに「重要である」の割合が最も高くなっている。

また、「重要である」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

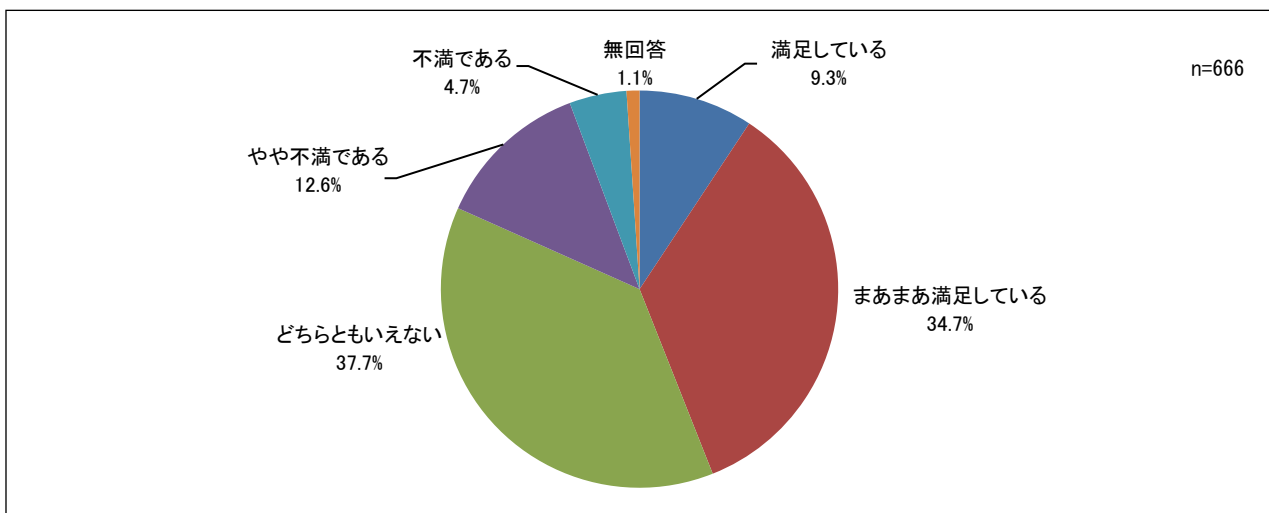
年代別で見ると、「重要である」については、すべての年代で最も割合が高くなっている。



(10) 安全(犯罪・交通事故の心配がなく安心して生活できること など)

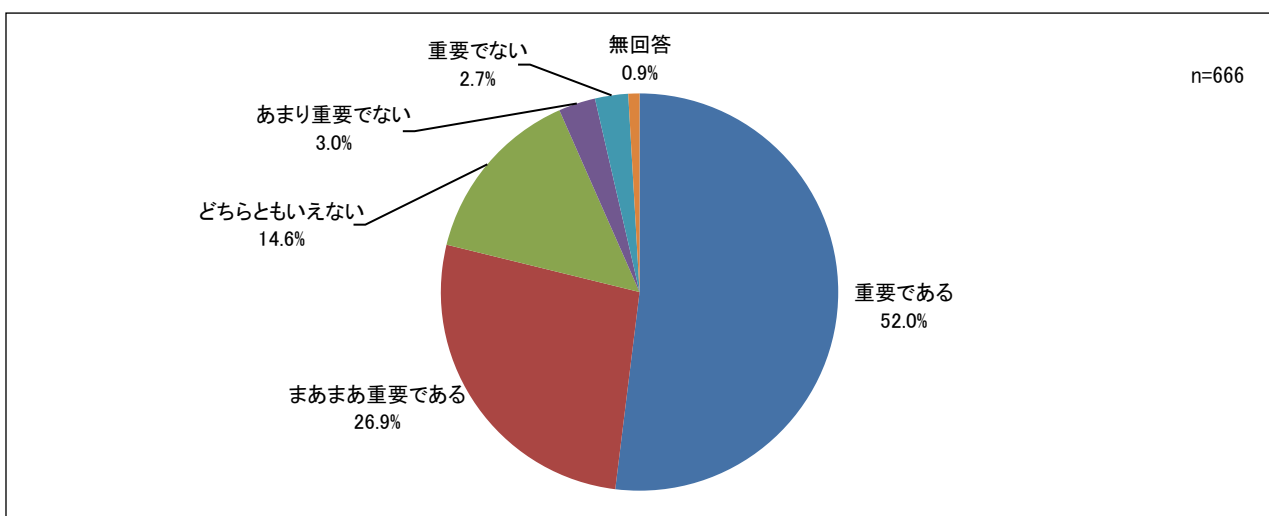
【全体・満足度】

「どちらともいえない」(37.7%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ満足している」(34.7%)、「やや不満である」(12.6%)の順となっている。



【全体・重要度】

「重要である」(52.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ重要である」(26.9%)、「どちらともいえない」(14.6%)の順となっている。



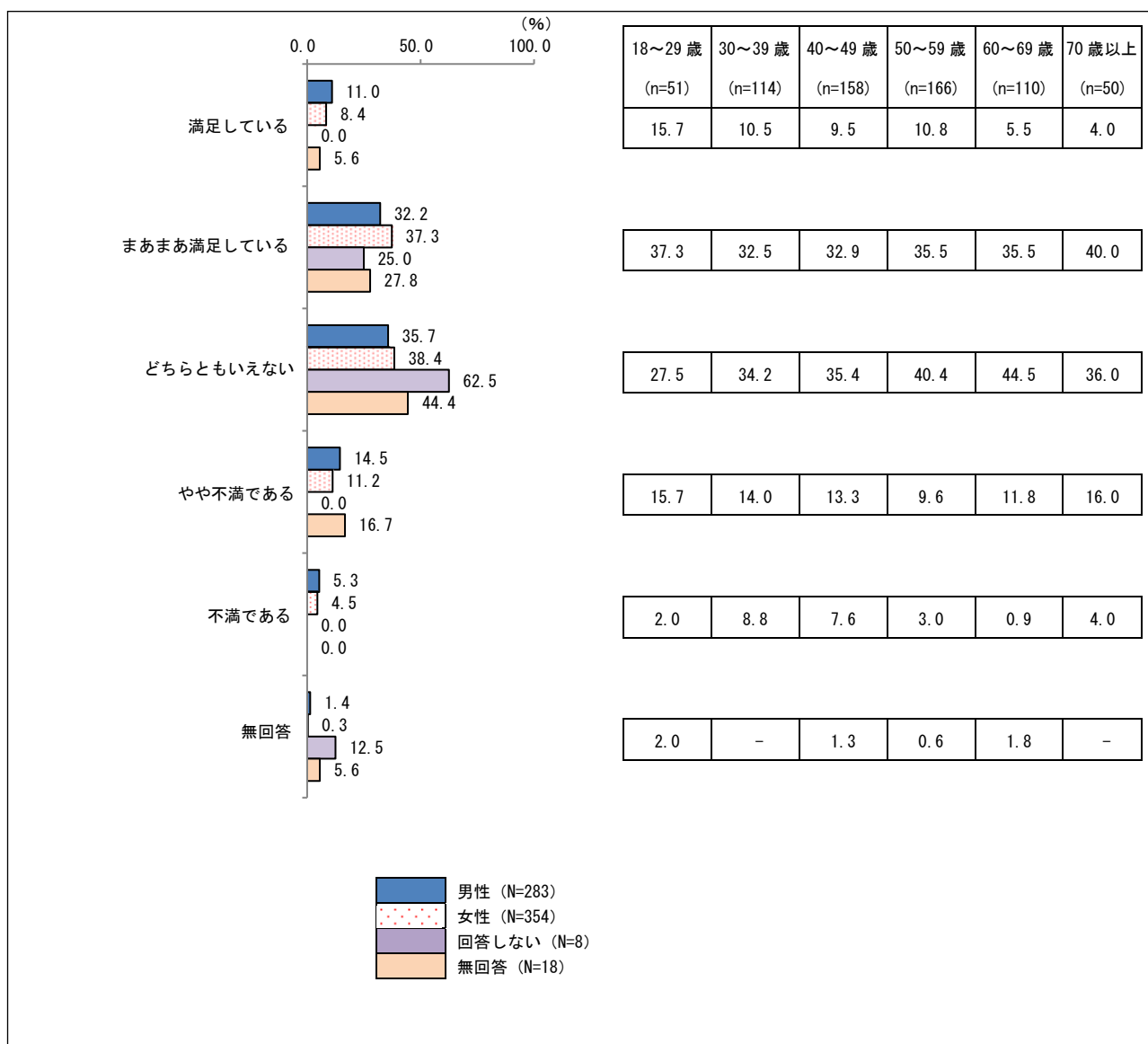
【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性（35.7%）、女性（38.4%）ともに「どちらともいえない」の割合が最も高くなっている。

また、「まあまあ満足している」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「どちらともいえない」については、18～28歳と70歳以上を除く年代で最も割合が高くなっている。

一方、「まあまあ満足している」については、18～29歳(37.3%)、70歳以上（40.0%）の割合が最も高くなっている。



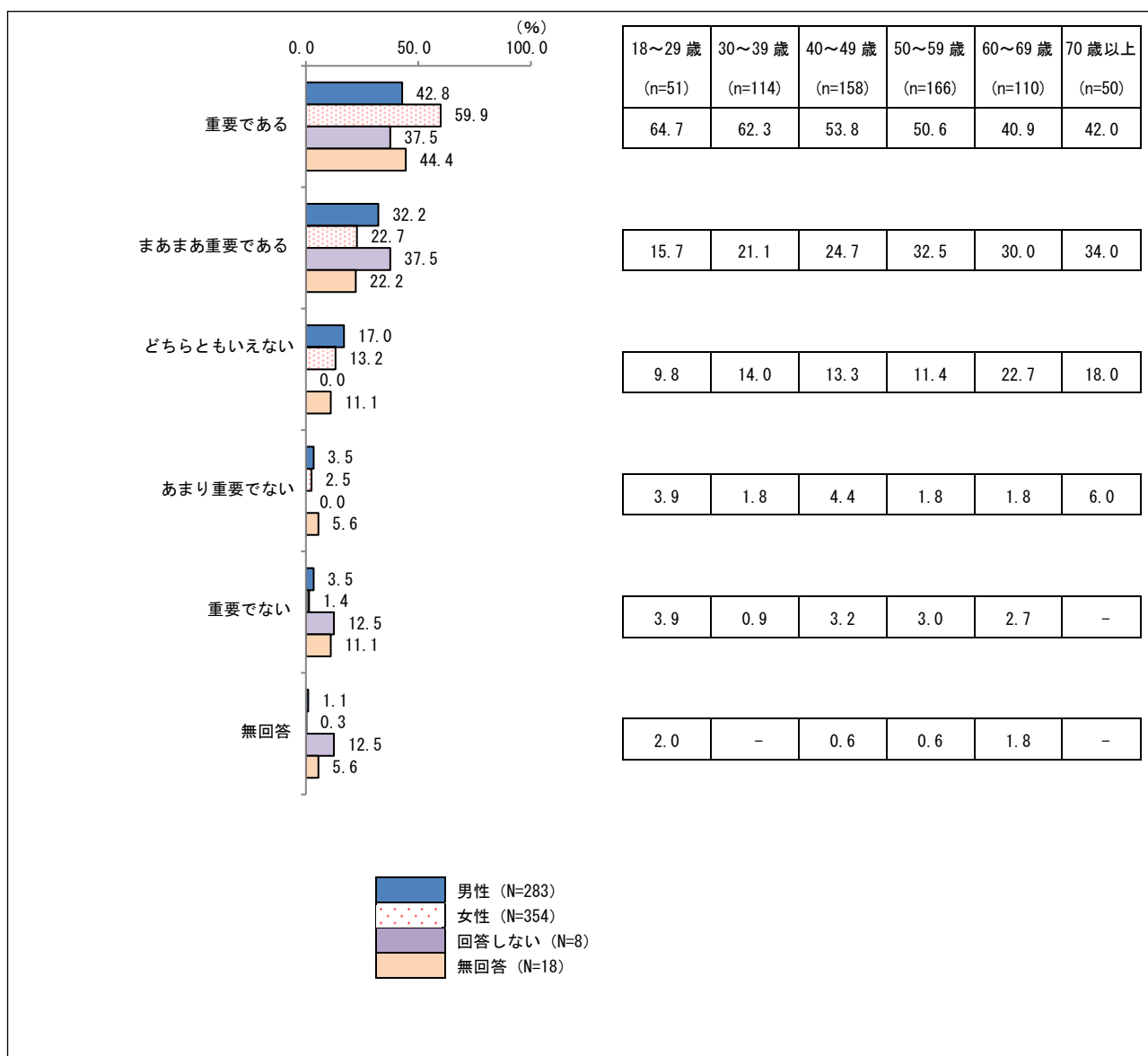
【性別・年代別 重要度】

性別で見ると、男性（42.8%）、女性（59.9%）ともに「重要である」の割合が最も高くなっている。

また、「重要である」では女性が男性より5ポイント以上高く、「まあまあ重要である」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「重要である」については、すべての年代で最も割合が高くなっている。

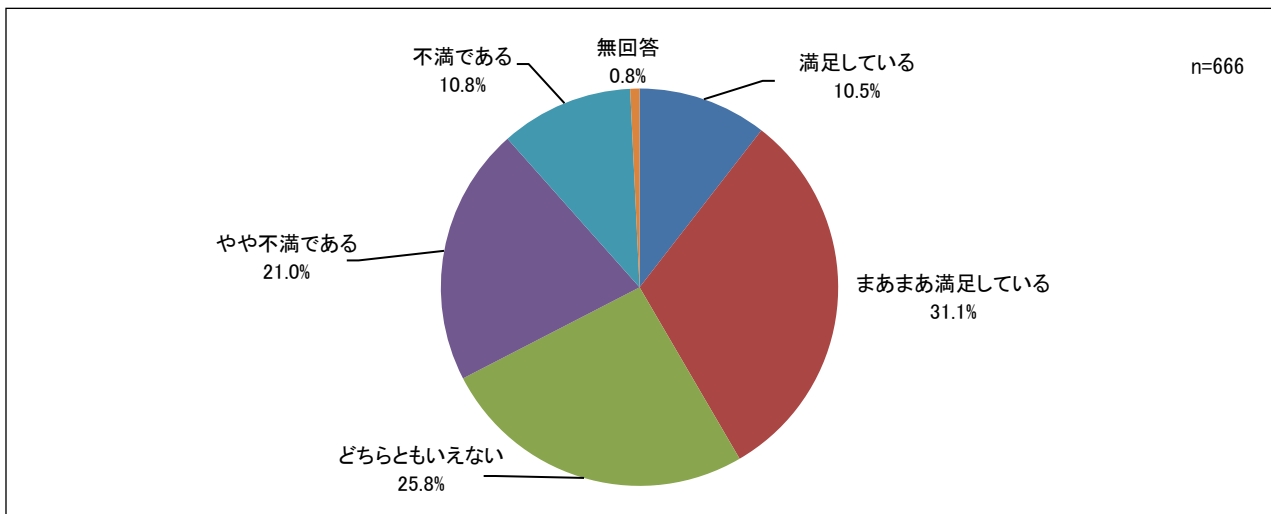
また、「どちらともいえない」については、他の年代と比べて60～69歳（22.7%）の割合が相対的に高くなっている。



(11) 交通・道路(通勤・通学や買い物への交通の便、行きたい場所への移動に困らないこと など)

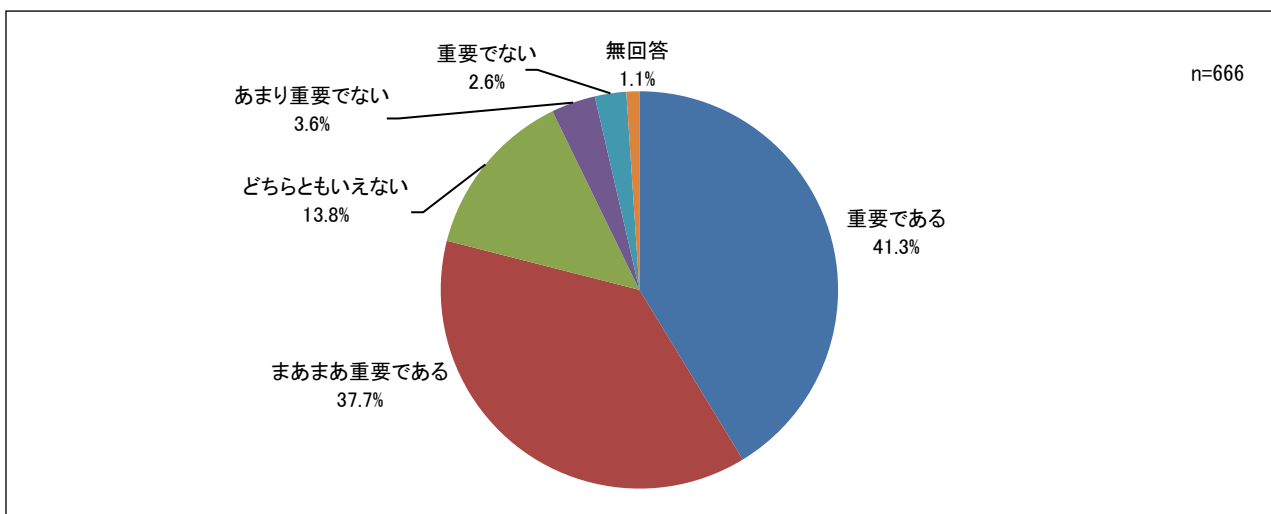
【全体・満足度】

「まあまあ満足している」(31.1%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」(25.8%)、「やや不満である」(21.0%)の順となっている。



【全体・重要度】

「重要である」(41.3%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ重要である」(37.7%)、「どちらともいえない」(13.8%)の順となっている。



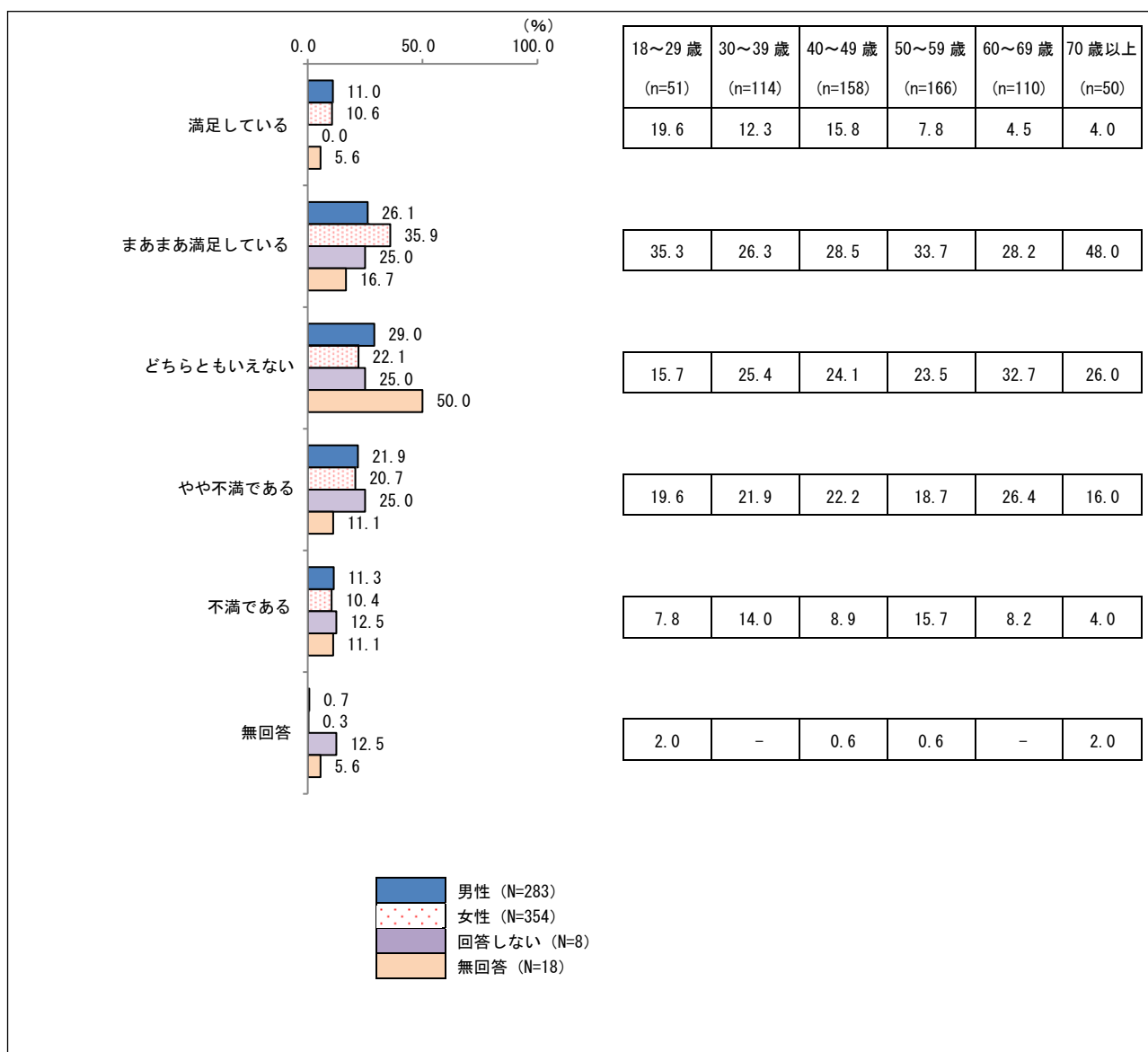
【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性では「どちらともいえない」(29.0%)が、女性では「まあまあ満足している」(35.9%)の割合が最も高くなっている。

また、「まあまあ満足している」では女性が男性より5ポイント以上高く、「どちらともいえない」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「まあまあ満足している」については、60～69歳を除く年代で最も割合が高くなっている。

一方、「どちらともいえない」については、60～69歳(32.7%)の割合が最も高くなっている。



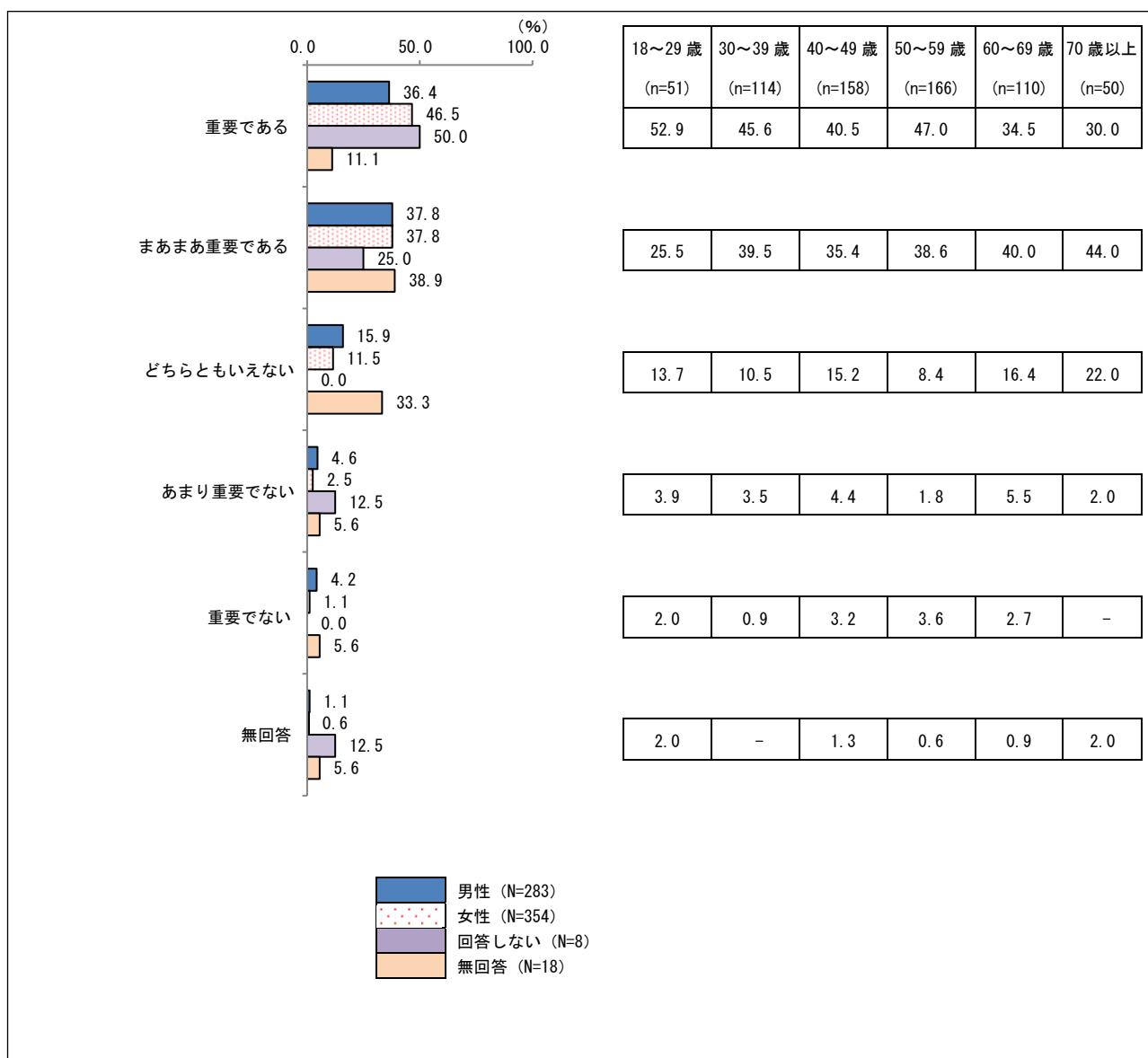
【性別・年代別 重要度】

性別で見ると、男性では「まあまあ重要である」(37.8%)、女性では「重要である」(46.5%)の割合が最も高くなっている。

また、「重要である」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「重要である」については、60～69歳と70歳以上を除く年代で最も割合が高くなっている。

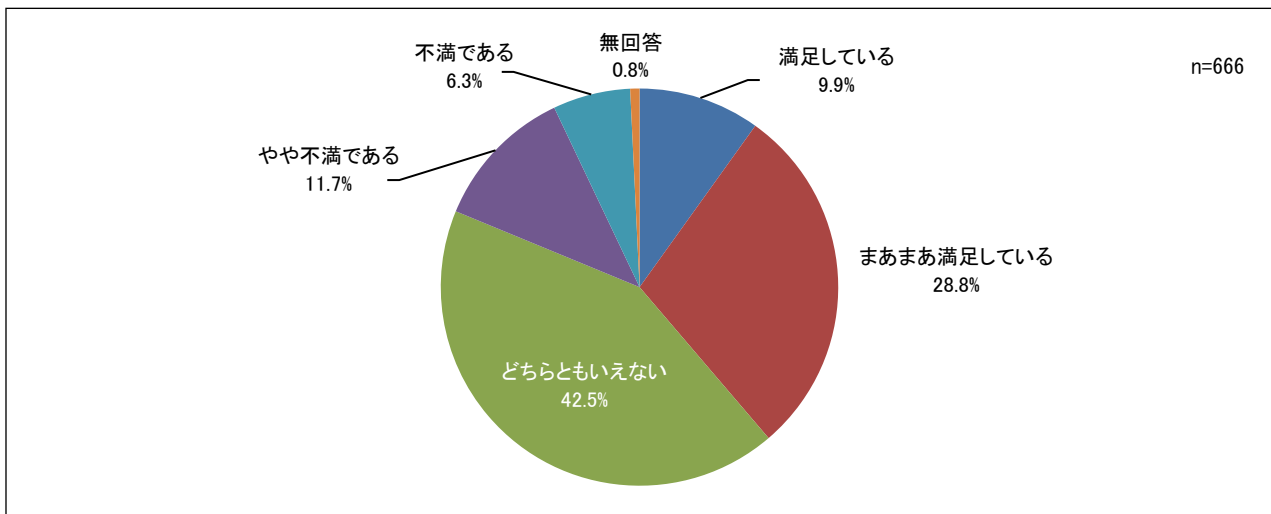
一方、「まあまあ重要である」については、60～69歳(40.0%)、70歳以上(44.0%)の割合が最も高くなっている。



(12) 情報・デジタル(インターネットの使用環境が整っていること、個人情報を守られていること など)

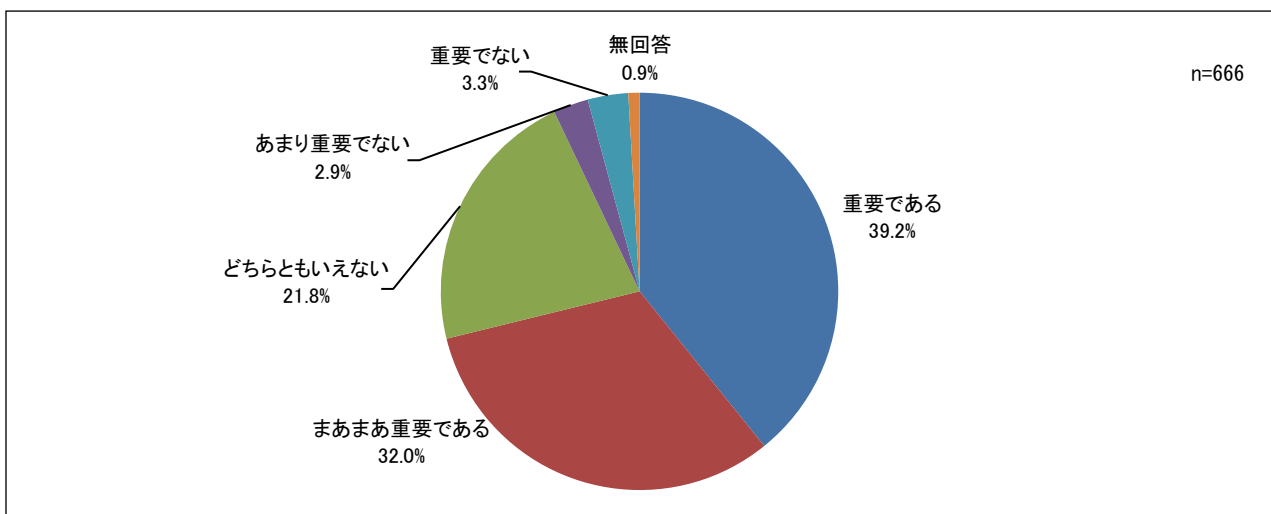
【全体・満足度】

「どちらともいえない」(42.5%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ満足している」(28.8%)、「やや不満である」(11.7%)の順となっている。



【全体・重要度】

「重要である」(39.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「まあまあ重要である」(32.0%)、「どちらともいえない」(21.8%)の順となっている。



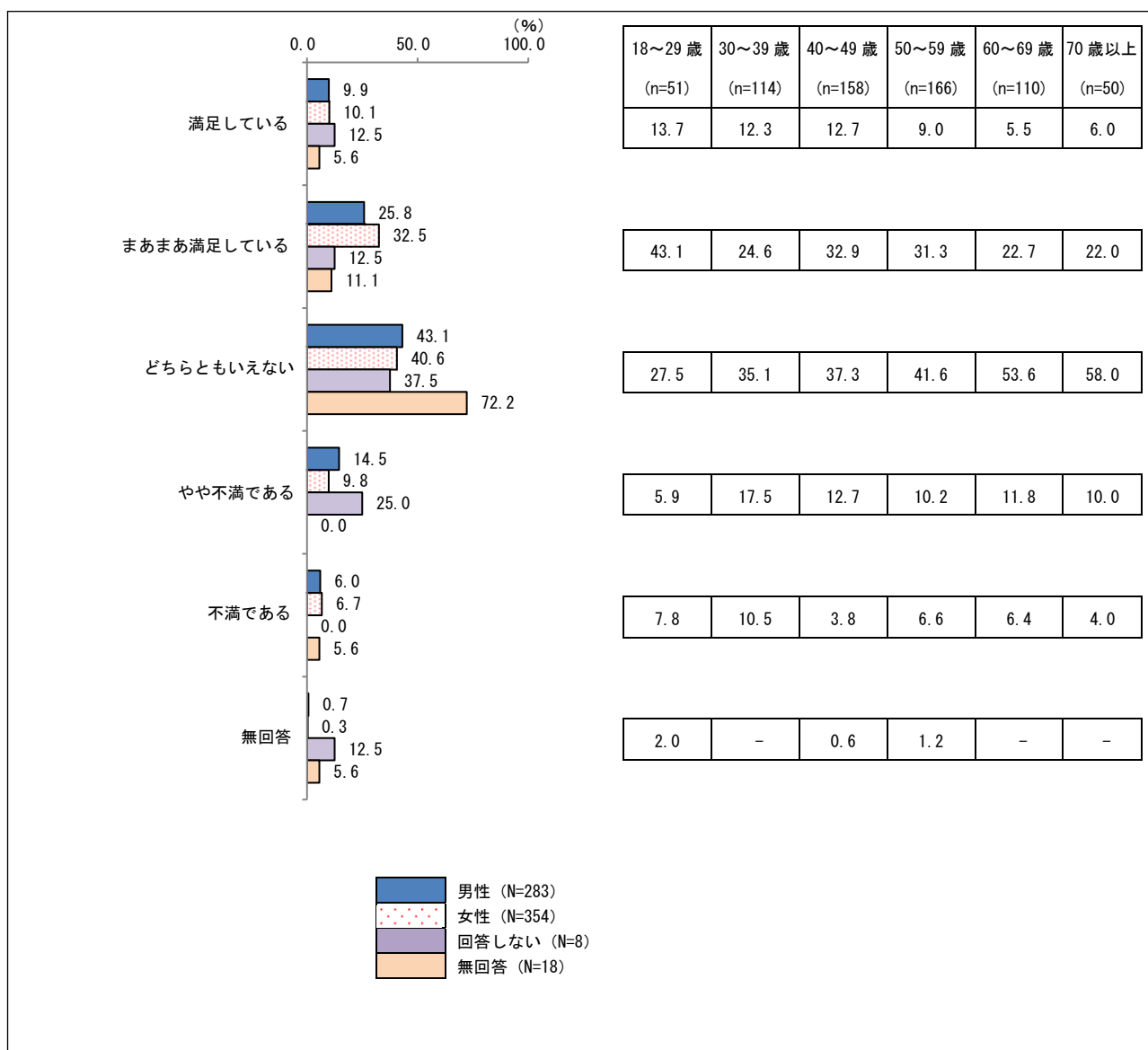
【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性（43.1%）、女性（40.6%）ともに「どちらともいえない」の割合が最も高くなっている。

また、「まあまあ満足している」では女性が男性より5ポイント以上高く、「やや不満である」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「どちらともいえない」については、18～29歳を除く年代で最も割合が高くなっている。

一方、「まあまあ満足している」については、18～29歳(43.1%)の割合が最も高くなっている。

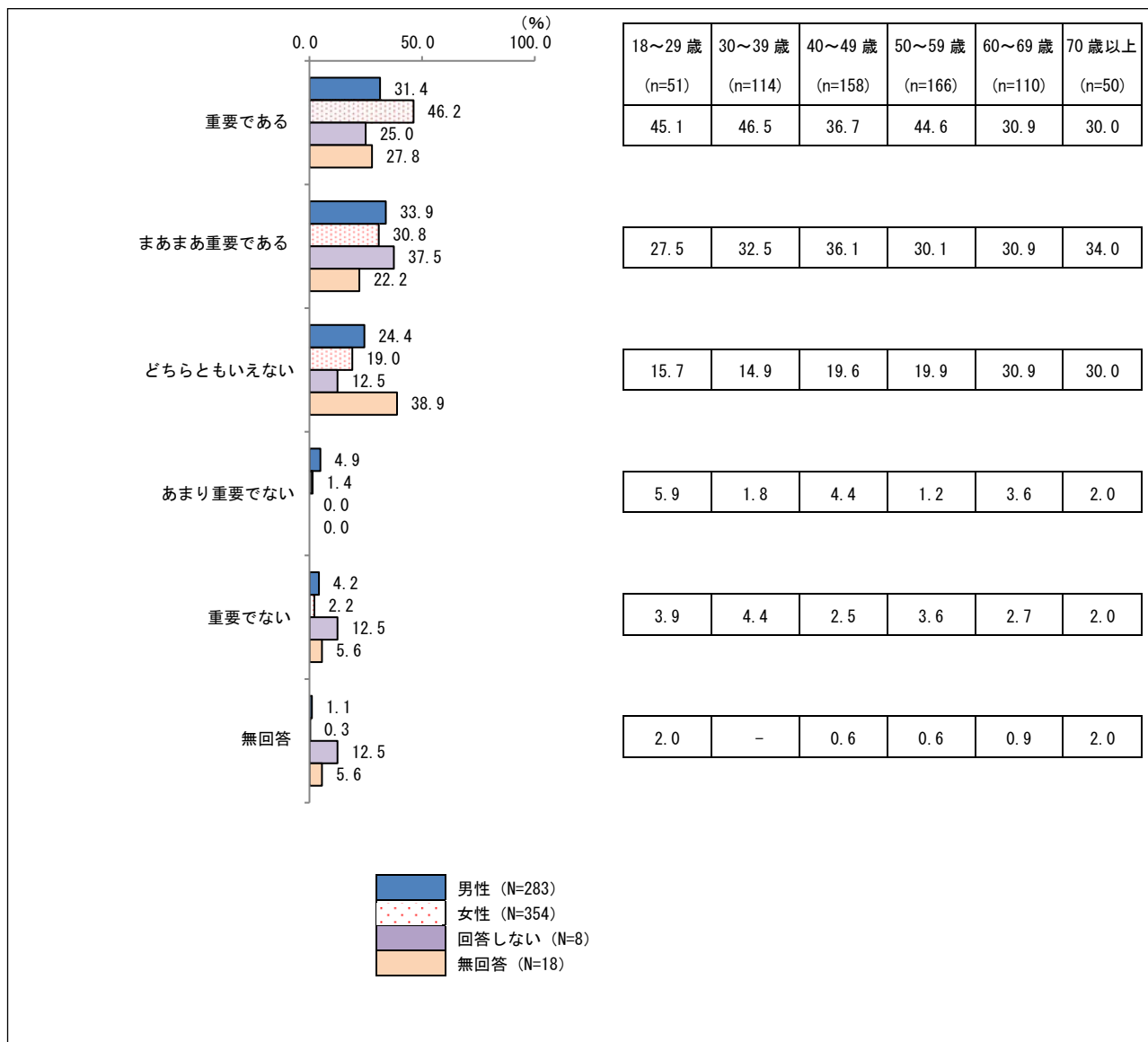


【性別・年代別 重要度】

性別で見ると、男性では「まあまあ重要である」(33.9%)、女性では「重要である」(46.2%)の割合が最も高くなっている。

また、「重要である」では女性が男性より5ポイント以上高く、「どちらともいえない」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「重要である」については、70歳以上を除く年代で最も割合が高くなっている。一方、「まあまあ重要である」については、70歳以上(34.0%)の割合が最も高くなっている。

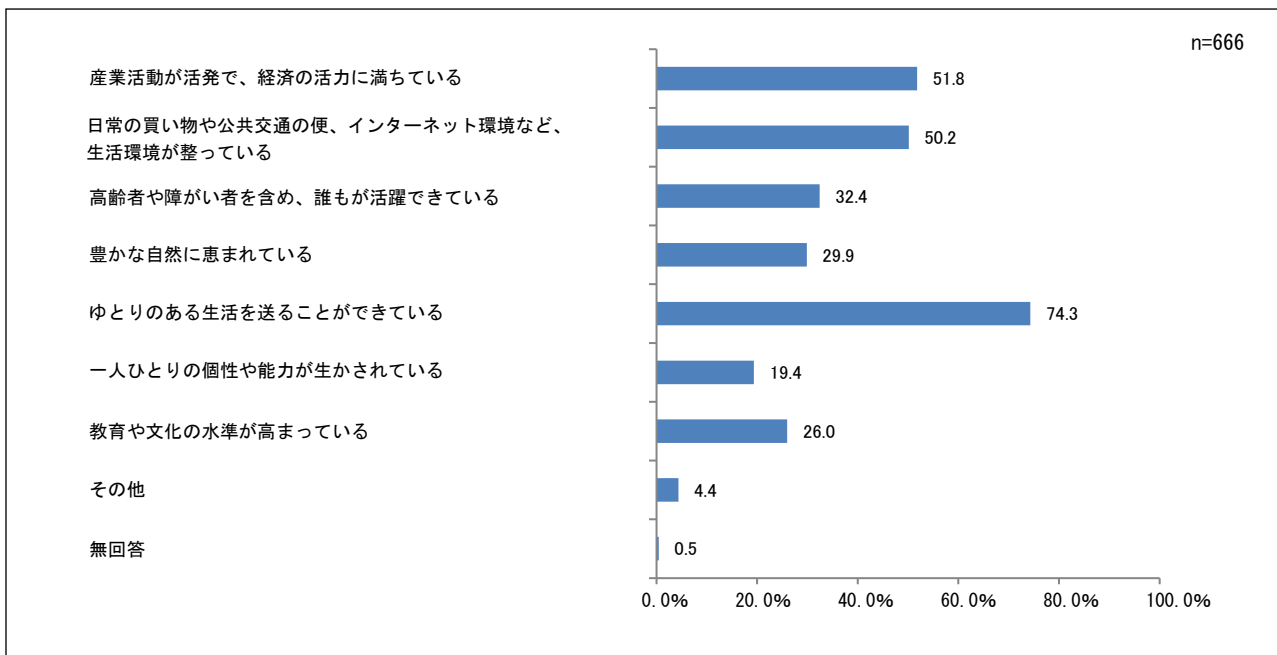


2 2050年の北海道の姿について

問 2 2050年の北海道がどのような社会であってほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

「ゆとりのある生活を送ることができる」(74.3%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「産業活動が活発で、経済の活力に満ちている」(51.8%)、「日常の買い物や公共交通の便、インターネット環境など、生活環境が整っている」(50.2%)の順となっている。1位が全体の7割を超えている。

【全体】



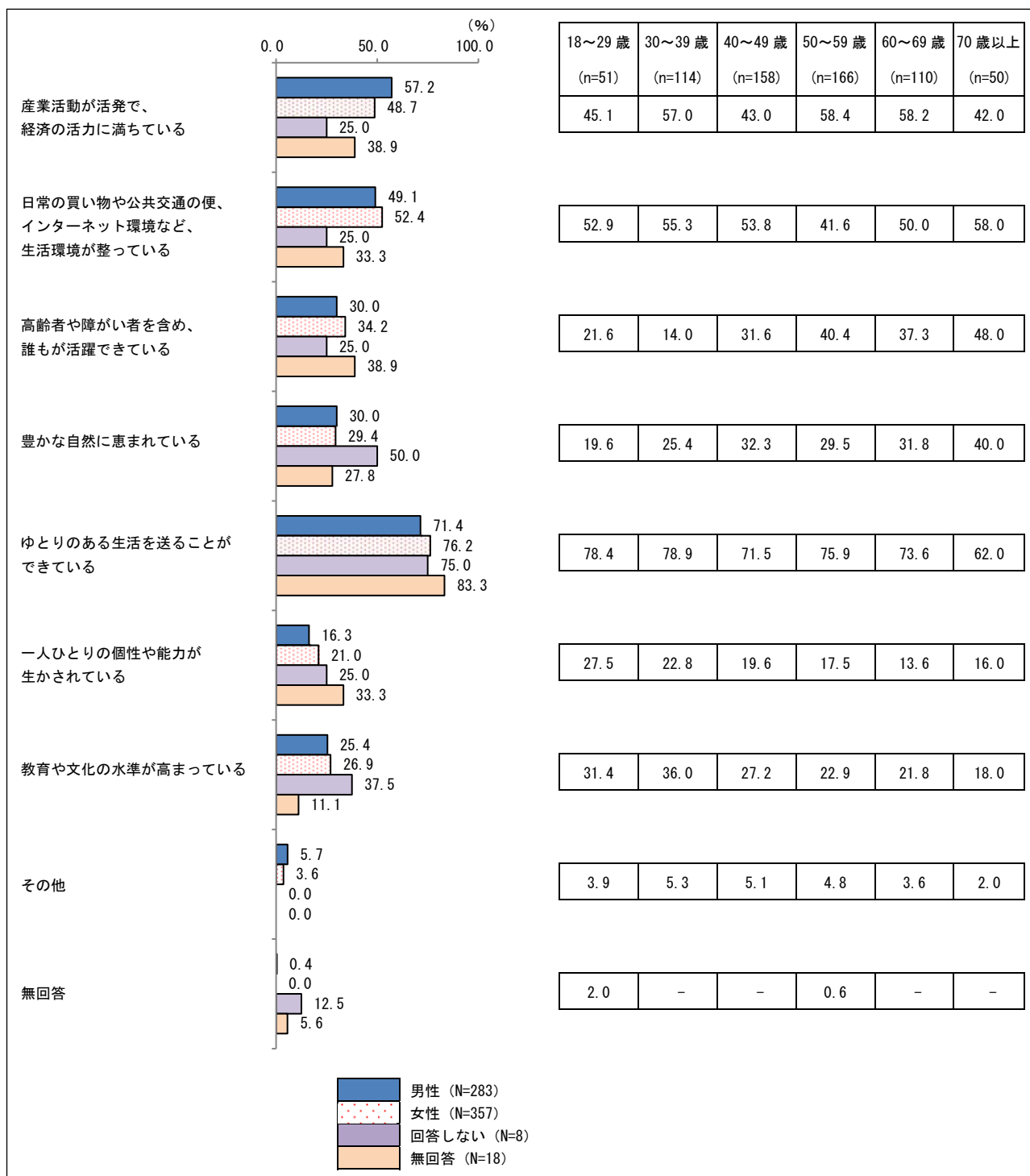
性別で見ると、男性（71.4%）、女性（76.2%）ともに「ゆとりのある生活を送ることができる」の割合が最も高くなっている。

また、「産業活動が活発で、経済の活力に満ちている」では男性が女性より 5 ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「ゆとりのある生活を送ることができる」の割合がすべての年代で最も高くなっている。

また、「豊かな自然に恵まれている」については、70 歳以上（40.0%）の割合が相対的に高くなっている。

【性別・年代別】

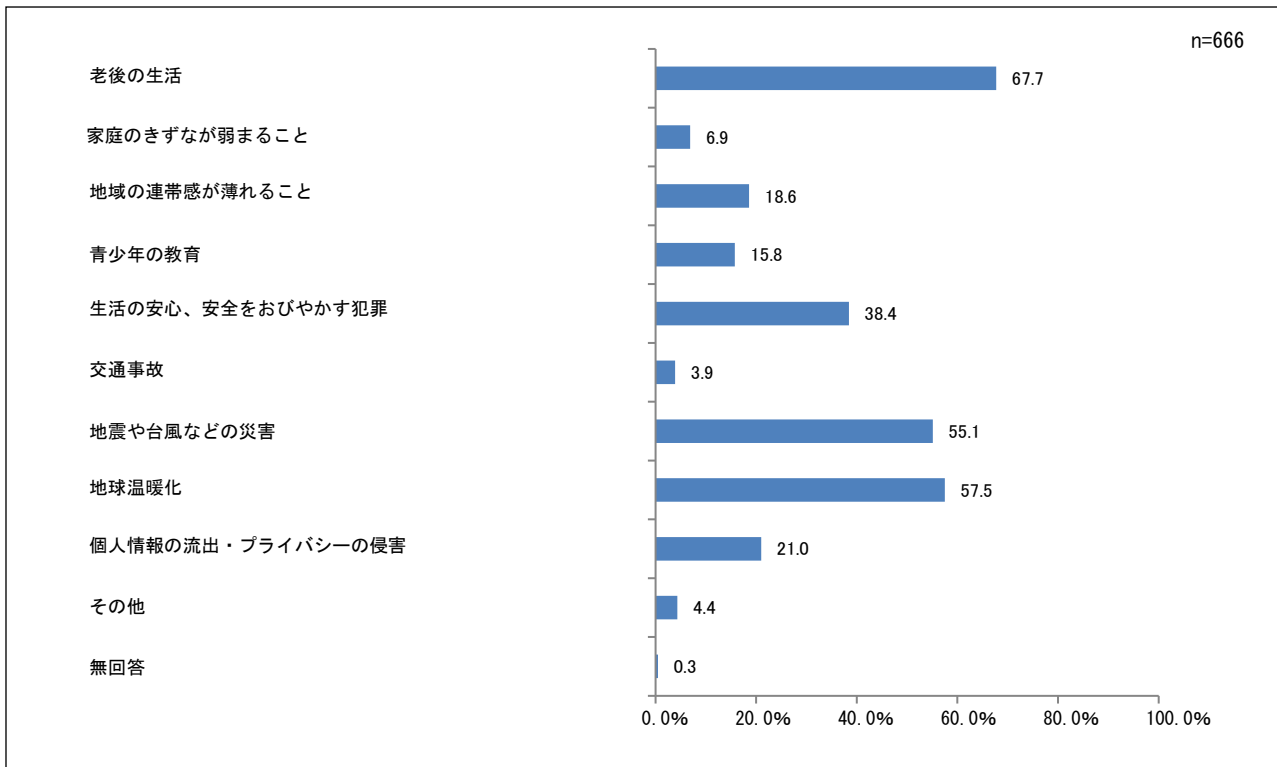


3 今後の社会的問題について

問3 家庭や地域の中で、これから2030年にかけてどのようなことが特に大きな問題になると思いますか。次の中から3つまで選んでください。

「老後の生活」(67.7%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「地球温暖化」(57.5%)、「地震や台風などの災害」(55.1%)の順となっている。

【全体】



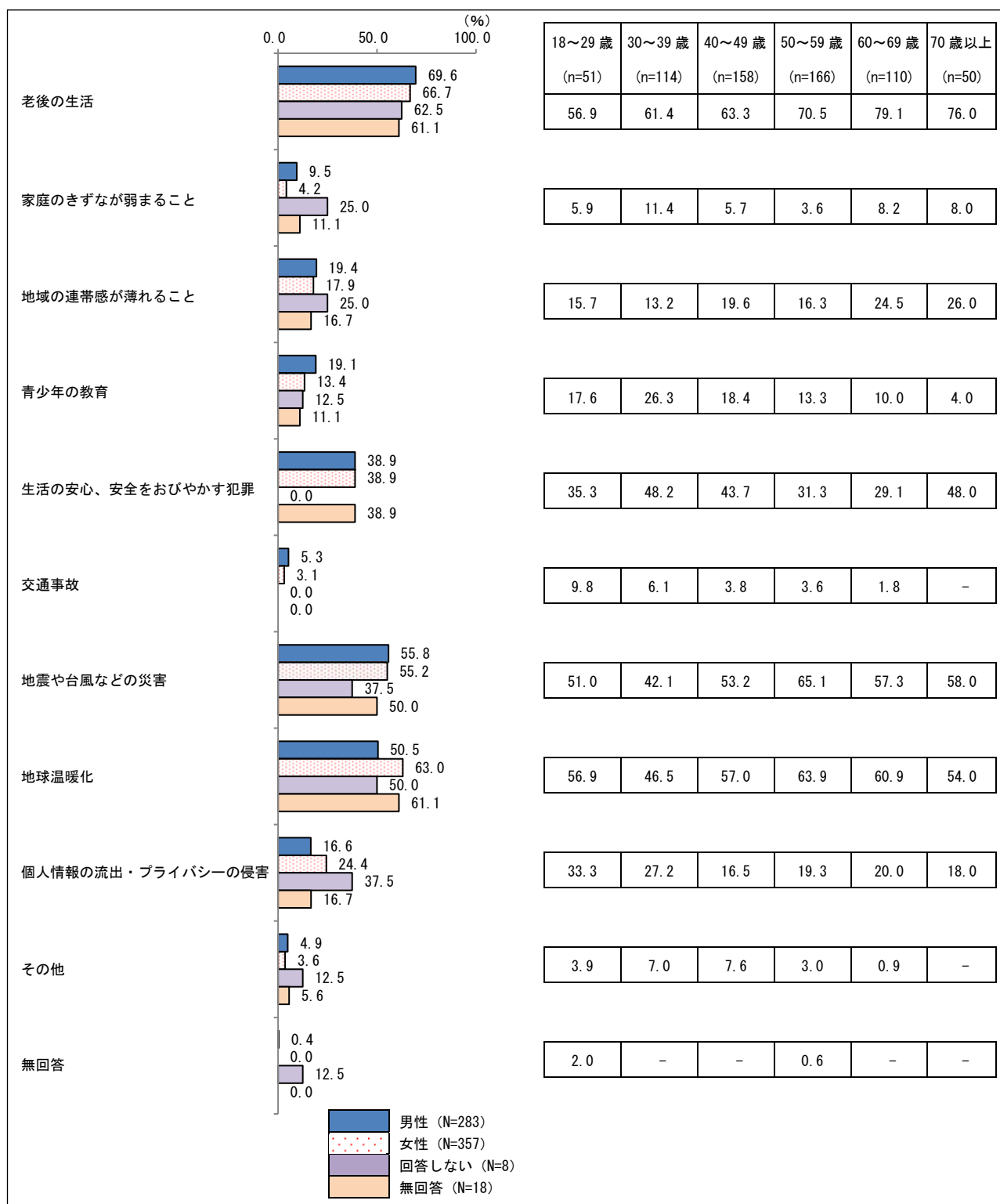
性別で見ると、男性（69.6%）、女性（66.7%）ともに「老後の生活」の割合が最も高くなっている。

また、「家庭のきずなが弱まること」「青少年の教育」では男性が女性より5ポイント以上高く、「地球温暖化」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「老後の生活」の割合がすべての年代で最も高くなっている。

また、「青少年の教育」については、30～39歳（26.3%）の割合が相対的に高くなっている。

【性別・年代別】

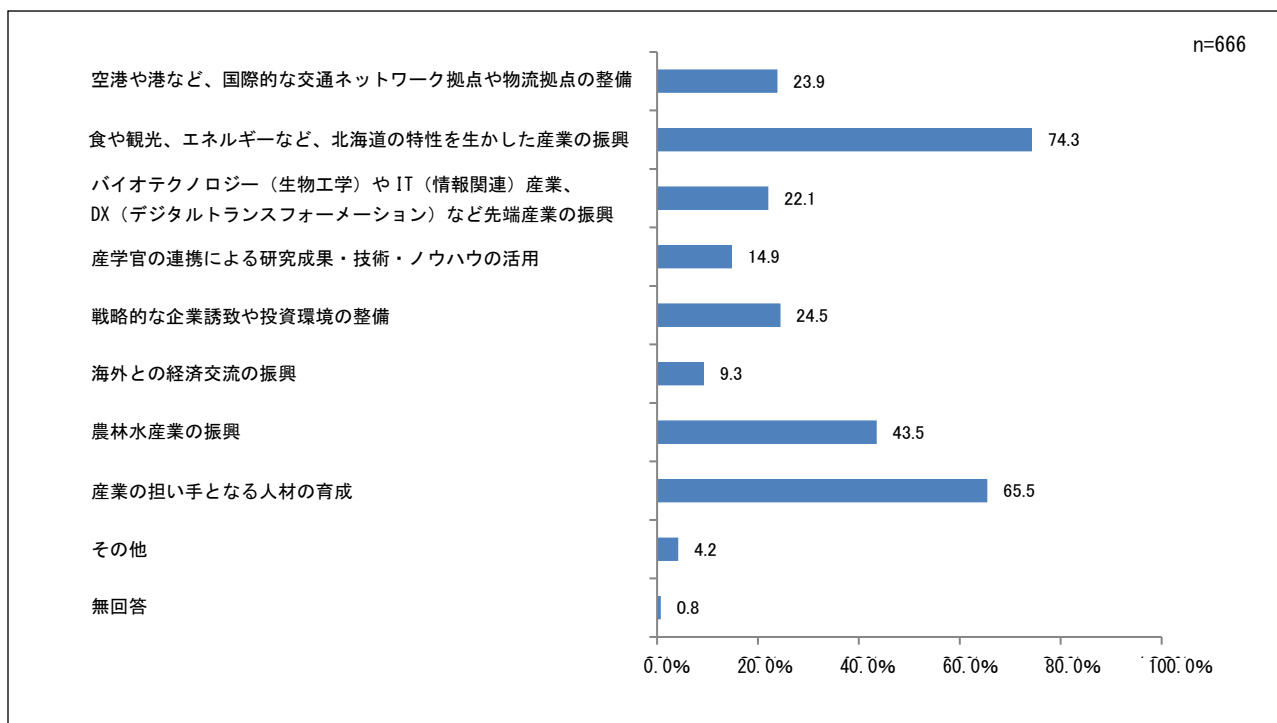


4 経済・産業の活性化について

問4 道内の経済・産業の活性化を図るため、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

「食や観光、エネルギーなど、北海道の特性を生かした産業の振興」(74.3%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「産業の担い手となる人材の育成」(65.5%)、「農林水産業の振興」(43.5%)の順となっている。

【全体】

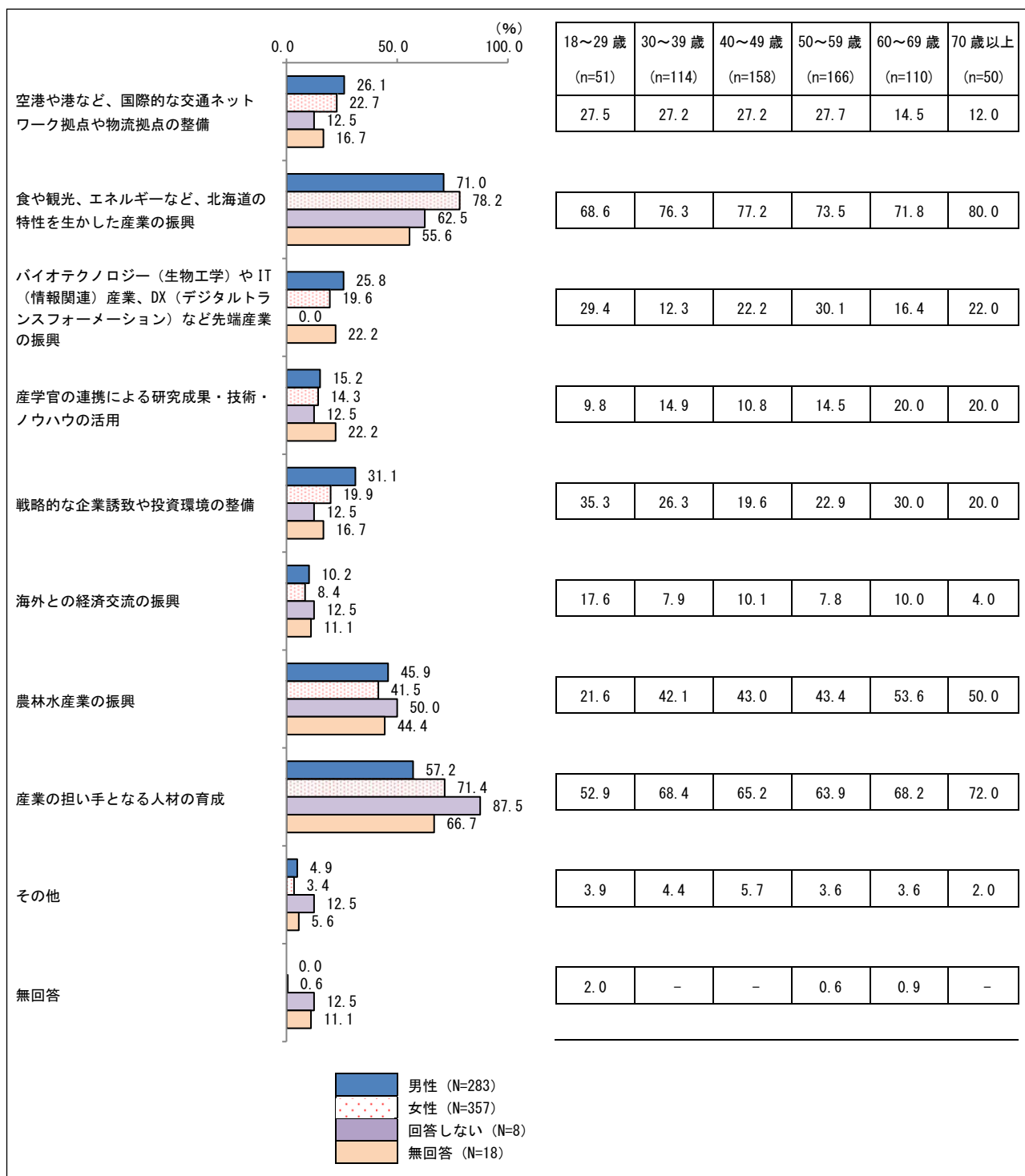


性別で見ると、男性（71.0%）、女性（78.2%）ともに「食や観光、エネルギーなど、北海道の特性を生かした産業の振興」の割合が最も高くなっている。

また、「バイオテクノロジー（生物工学）や IT（情報関連）産業、DX（デジタルトランスフォーメーション）など先端産業の振興」「戦略的な企業誘致や投資環境の整備」では男性が女性より 5 ポイント以上高く、「食や観光、エネルギーなど、北海道の特性を生かした産業の振興」「産業の担い手となる人材の育成」では女性が男性より 5 ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「食や観光、エネルギーなど、北海道の特性を生かした産業の振興」の割合がすべての年代で最も高くなっている。

【性別・年代別】

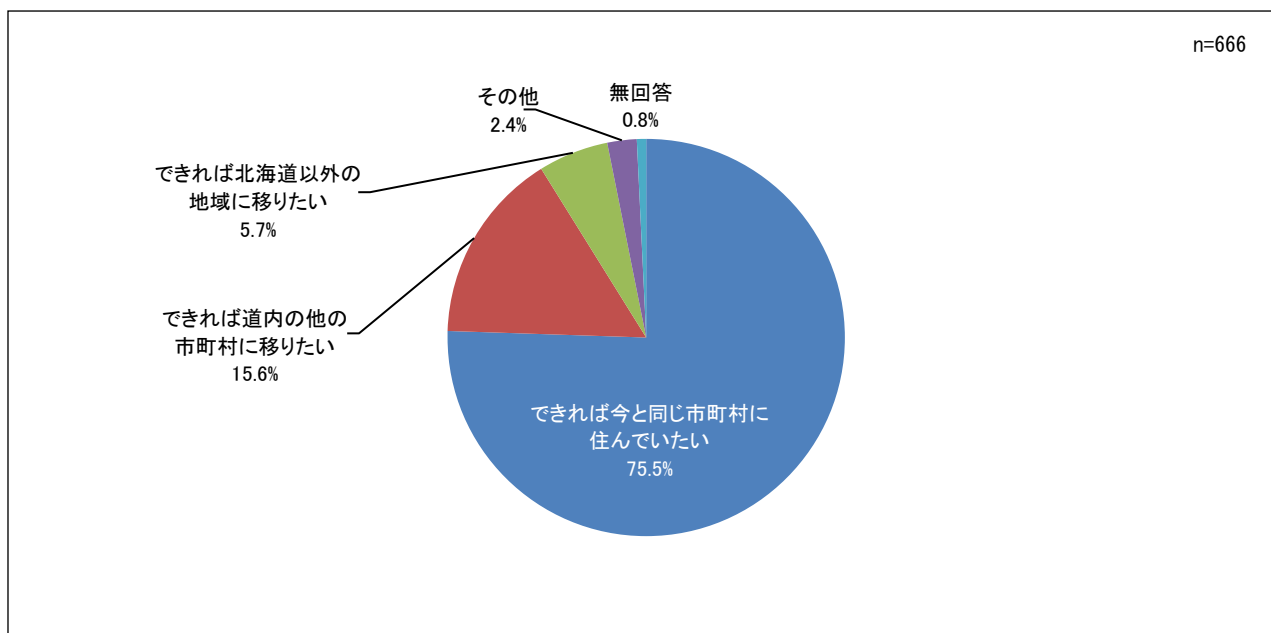


5 お住まいの地域について

問5 現在住んでいる市町村にこれからも住みたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」(75.5%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「できれば道内の他の市町村に移りたい」(15.6%)、「できれば北海道以外の地域に移りたい」(5.7%)の順となっている。

【全体】



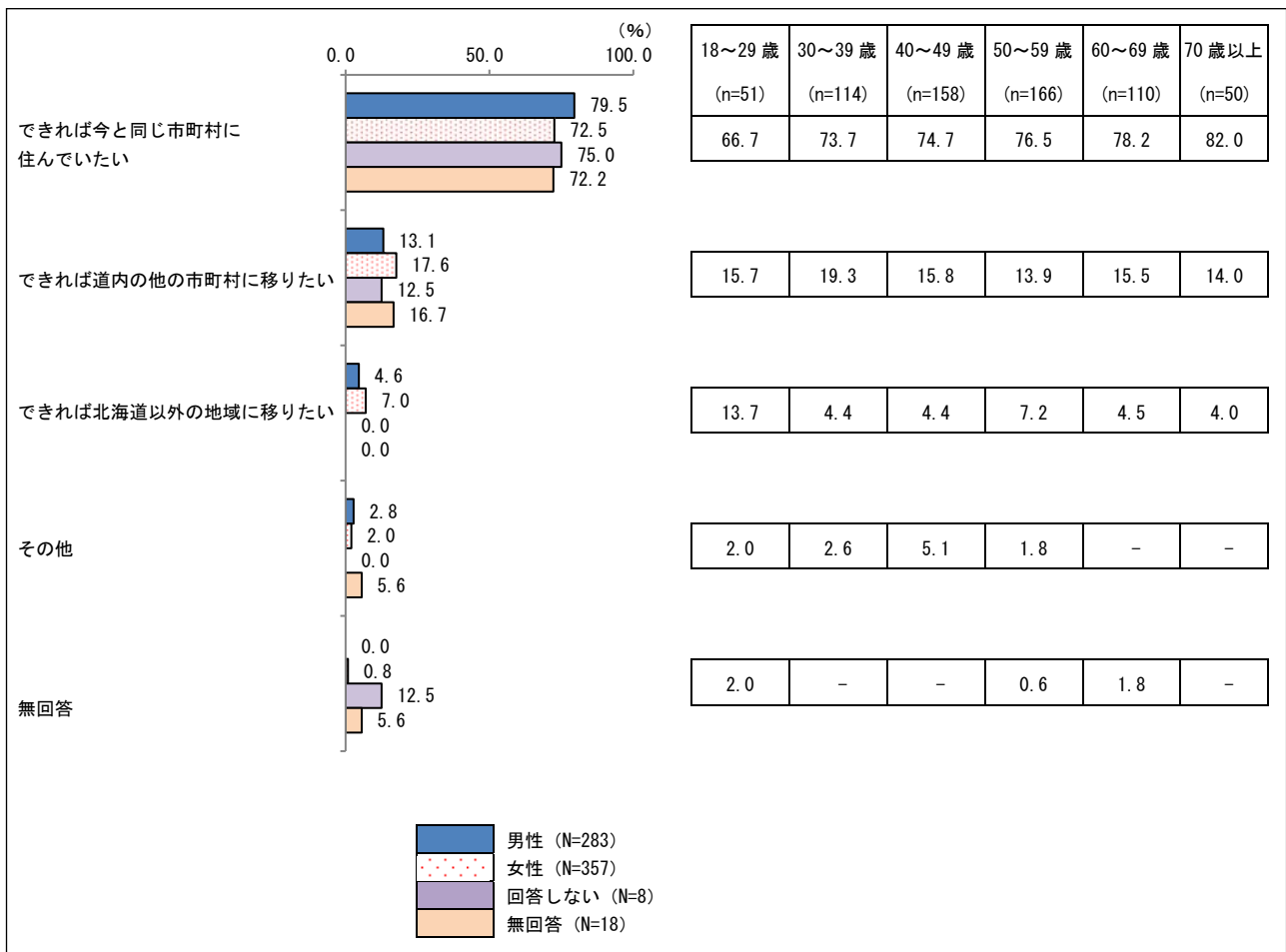
性別で見ると、男性（79.5%）、女性（72.5%）ともに「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」の割合が最も高くなっている。

また、「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」では男性が女性より 5 ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」の割合がすべての年代で最も高くなっている。

また、「できれば北海道以外の地域に移りたい」については、18～29 歳（13.7%）の割合が相対的に高くなっている。

【性別・年代別】

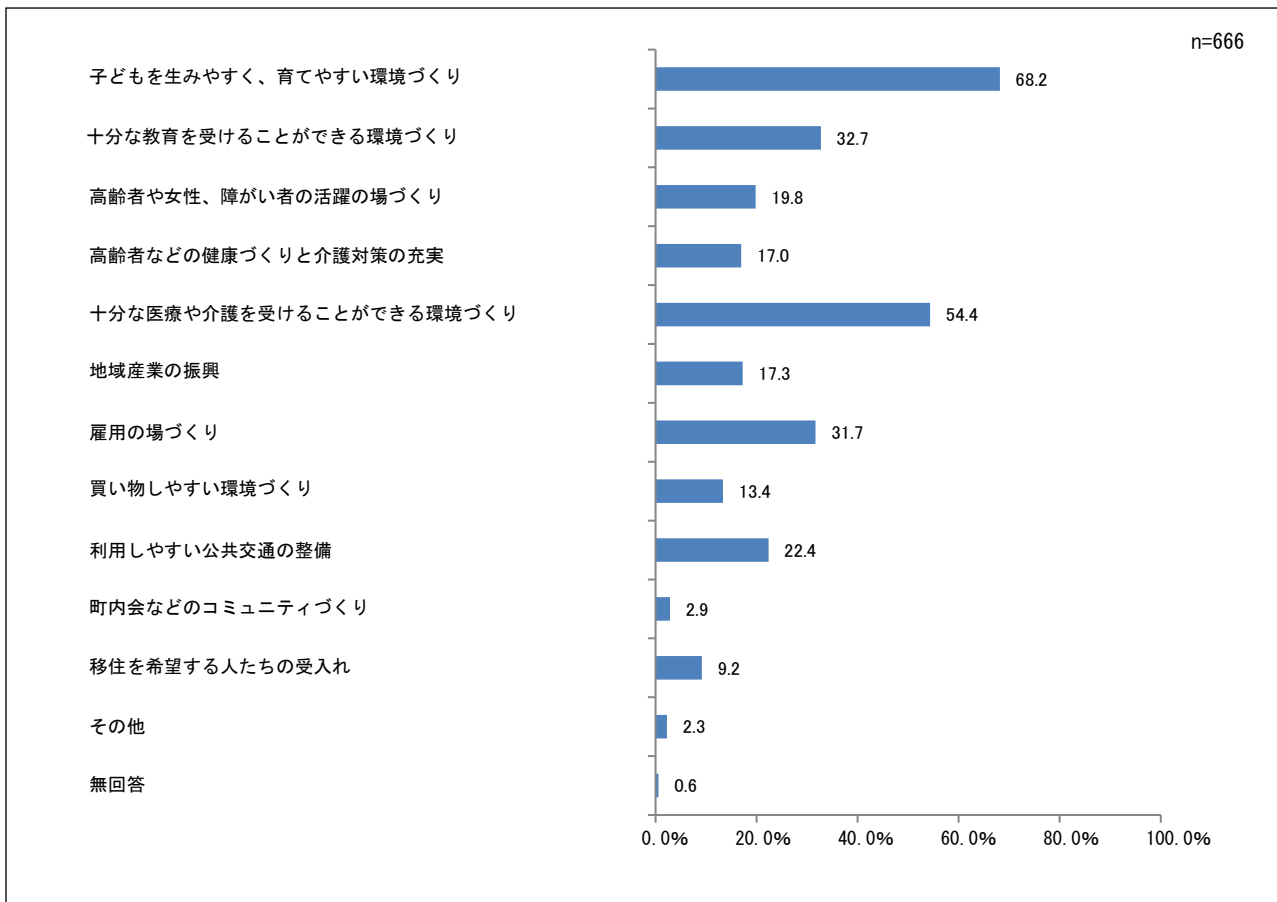


6 人口減少・少子高齢社会への対応について

問6 人口減少・少子高齢化が進行する中、住みよい地域社会を実現していくために、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

「子どもを生みやすく、育てやすい環境づくり」(68.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「十分な医療や介護を受けることができる環境づくり」(54.4%)、「十分な教育を受けることができる環境づくり」(32.7%)の順となっている。

【全体】



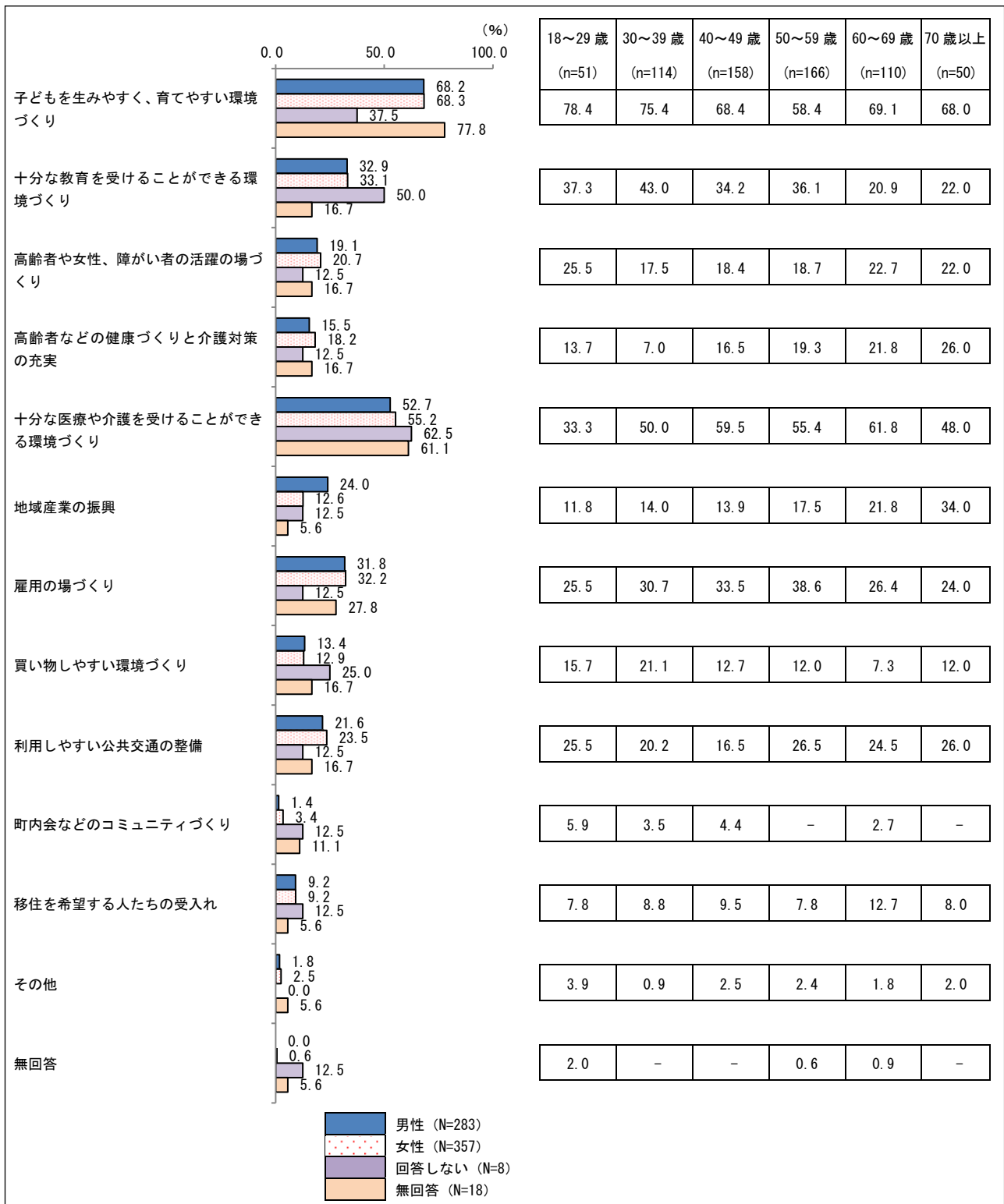
性別でみると、男性（68.2%）、女性（68.3%）ともに「子どもを生みやすく、育てやすい環境づくり」の割合が最も高くなっている。

また、「地域産業の振興」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「子どもを生みやすく、育てやすい環境づくり」の割合がすべての年代で最も高くなっている。

また、「地域産業の振興」については、70歳以上（34.0%）の割合が相対的に高くなっている。

【性別・年代別】

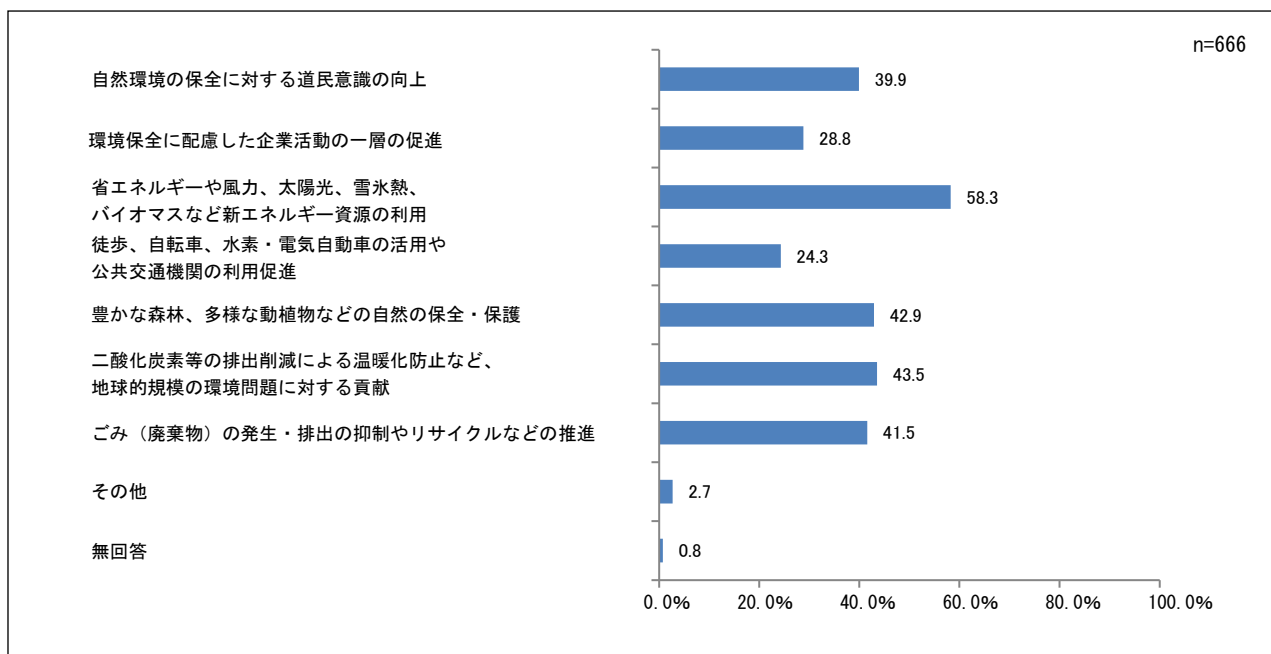


7 環境にやさしい地域社会について

問7 人と自然が共生し、環境と調和した地域社会を構築していくに当たって、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」(58.3%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「二酸化炭素等の排出削減による温暖化防止など、地球的規模の環境問題に対する貢献」(43.5%)、「豊かな森林、多様な動植物などの自然の保全・保護」(42.9%)の順となっている。

【全体】



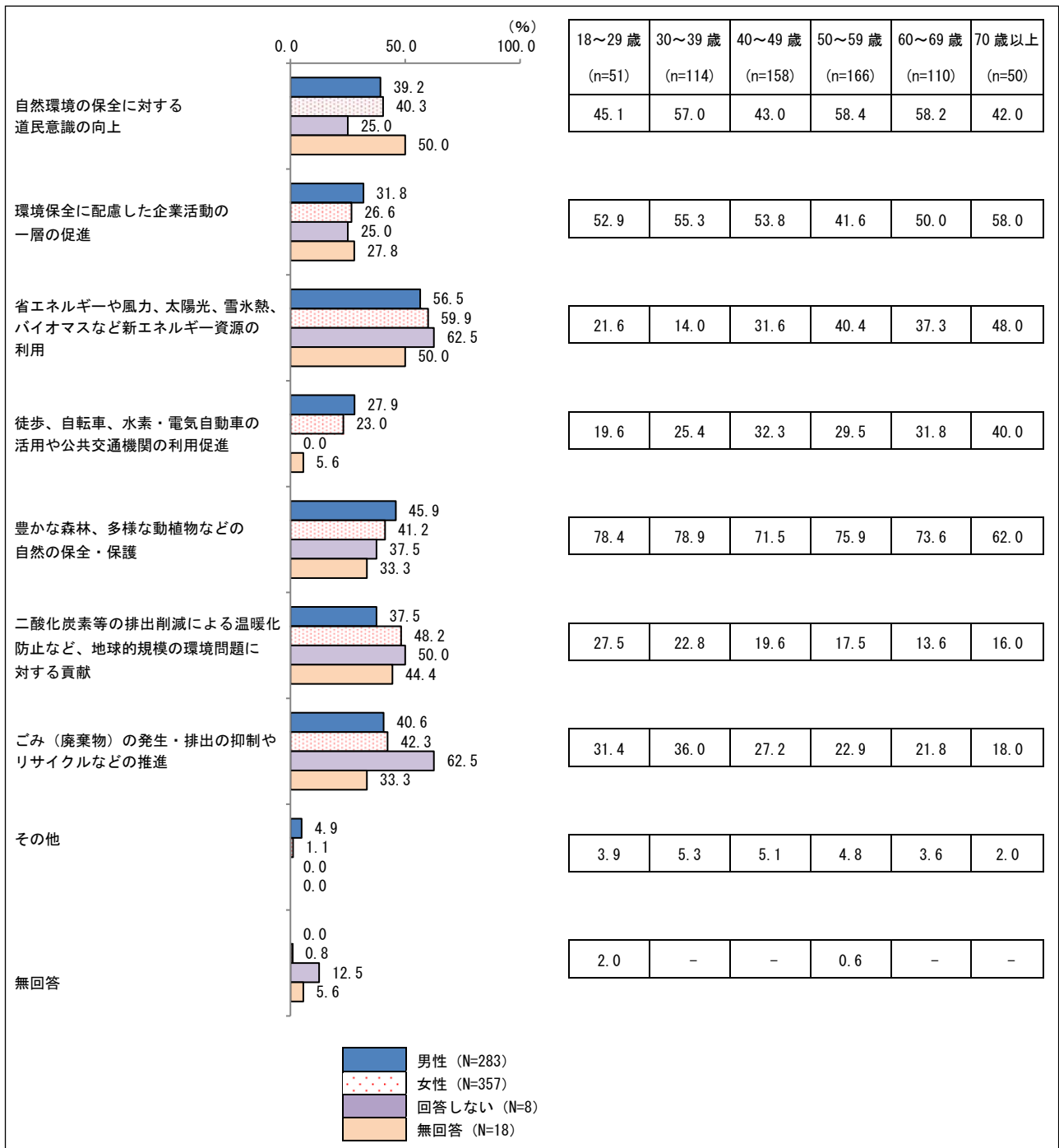
性別でみると、男性（56.5%）、女性（59.9%）ともに「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」の割合が最も高くなっている。

また、「環境保全に配慮した企業活動の一層の促進」では男性が女性より5ポイント以上高く、「二酸化炭素等の排出削減による温暖化防止など、地球的規模の環境問題に対する貢献」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」については、18～29歳を除くすべての年代で割合が最も高くなっている。

一方、「豊かな森林、多様な動植物などの自然の保全・保護」については、18～29歳（78.4%）の割合が最も高くなっている。

【性別・年代別】

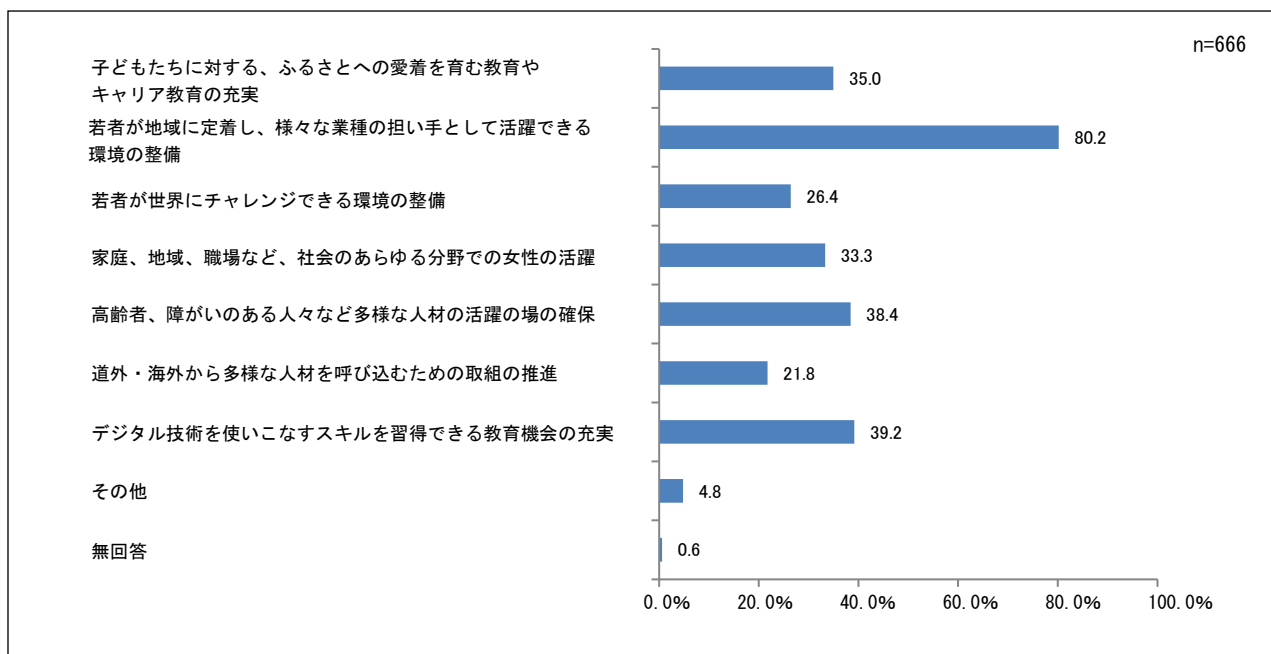


8 地域の産業や暮らしを支える人材の育成・確保について

問8 地域の産業や暮らしを支える人材の育成・確保を図るため、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

「若者が地域に定着し、様々な業種の担い手として活躍できる環境の整備」(80.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「デジタル技術を使いこなすスキルを習得できる教育機会の充実」(39.2%)、「高齢者、障がいのある人々など多様な人材の活躍の場の確保」(38.4%)の順となっている。上位1位が全体の8割を超えている。

【全体】



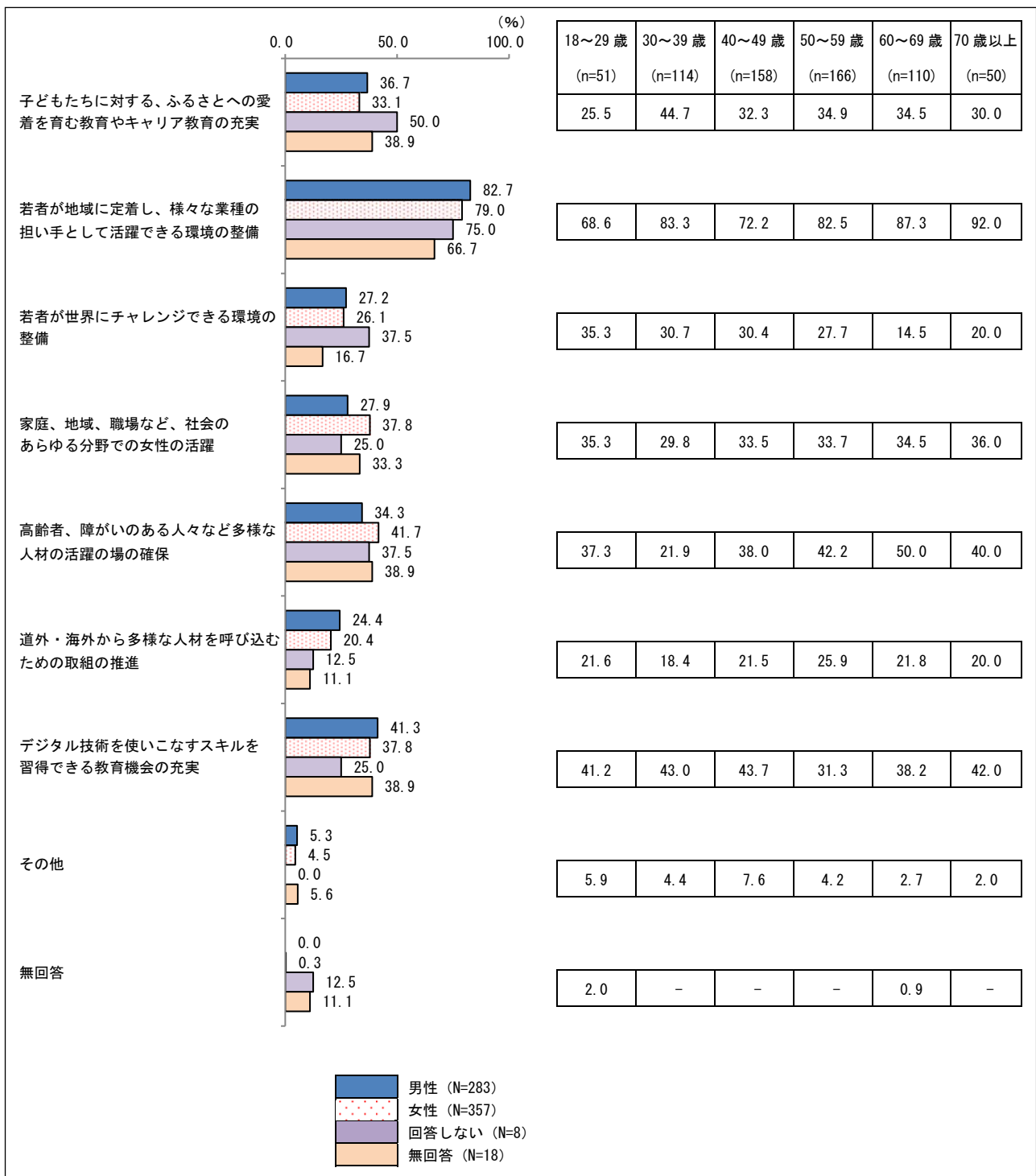
性別で見ると、男性（82.7%）、女性（79.0%）ともに「若者が地域に定着し、様々な業種の担い手として活躍できる環境の整備」の割合が最も高くなっている。

また、「家庭、地域、職場など、社会のあらゆる分野での女性の活躍」「高齢者、障がいのある人々など多様な人材の活躍の場の確保」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「若者が地域に定着し、様々な業種の担い手として活躍できる環境の整備」については、すべての年代で割合が最も高くなっている。

また、「子どもたちに対する、ふるさとへの愛着を育む教育やキャリア教育の充実」については、30～39歳（44.7%）が相対的に高くなっている。

【性別・年代別】



9 日常生活における移動手段とその満足度について

問9 あなたが普段の生活で利用している主な移動手段は何ですか。また、その移動手段の利用環境に満足していますか。無積雪時と積雪時について、外出目的ごとに、【主な移動手段】、【満足度】から記号を1つずつ選び、記入してください。

(1) 無積雪時

【全体・移動手段】

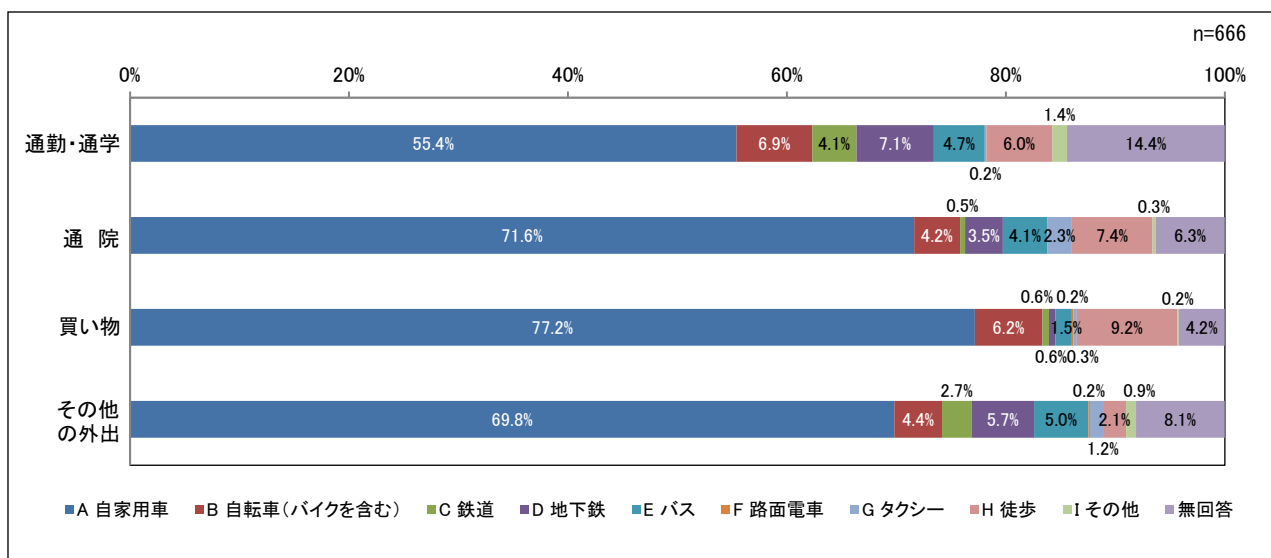
通勤・通学の移動手段では、「自家用車」(55.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「地下鉄」(7.1%)、「自転車(バイクを含む)」(6.9%)の順となっている。

通院の移動手段では、「自家用車」(71.6%)と答えた人の割合が最も多く、次いで「徒歩」(7.4%)、「自転車(バイクを含む)」(4.2%)の順となっている。

買い物の移動手段では、「自家用車」(77.2%)と答えた方の割合が最も多く、次いで「徒歩」(9.2%)、「自転車(バイクを含む)」(6.2%)の順となっている。

その他外出の移動手段では、「自家用車」(69.8%)と答えた割合が最も多く、次いで「地下鉄」(5.7%)、「バス」(5.0%)の順となっている。

外出目的のすべてで、移動手段は「自家用車」が5割以上の割合となっている。



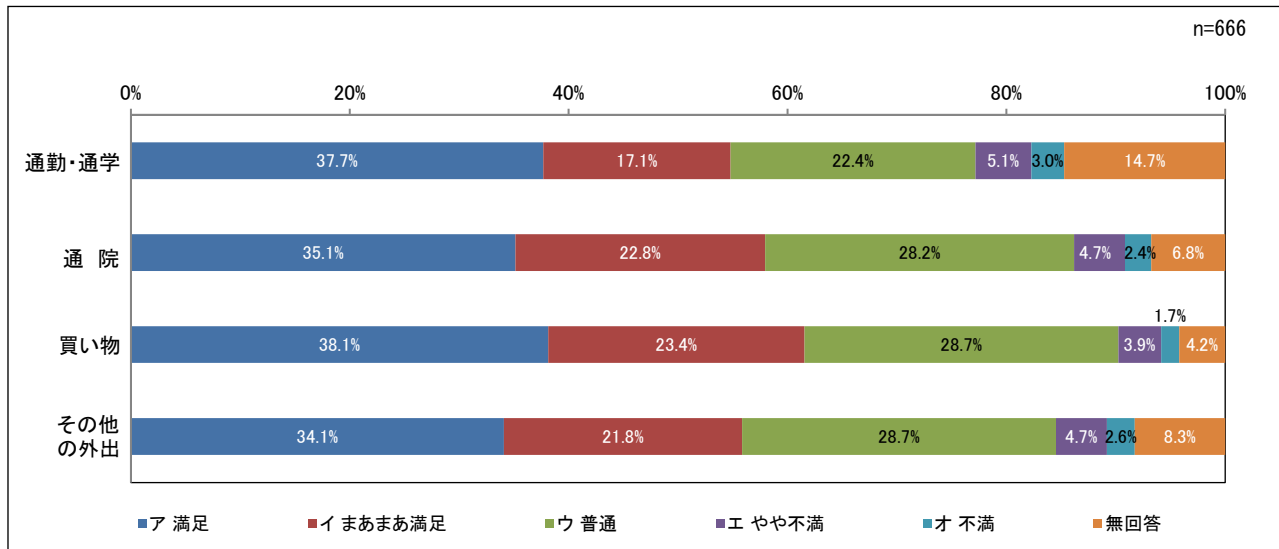
【全体・満足度】

通勤・通学では、「満足」(37.7%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「普通」(22.4%)、「まあまあ満足」(17.1%)の順となっている。

通院では、「満足」(35.1%)と答えた人の割合が最も多く、次いで「普通」(28.2%)、「まあまあ満足」(22.8%)の順となっている。

買い物では、「満足」(38.1%)と答えた方の割合が最も多く、次いで「普通」(28.7%)、「まあまあ満足」(23.4%)の順となっている。

その他の外出では、「満足」(34.1%)と答えた割合が最も多く、次いで「普通」(28.7%)、「まあまあ満足」(21.8%)の順となっている。

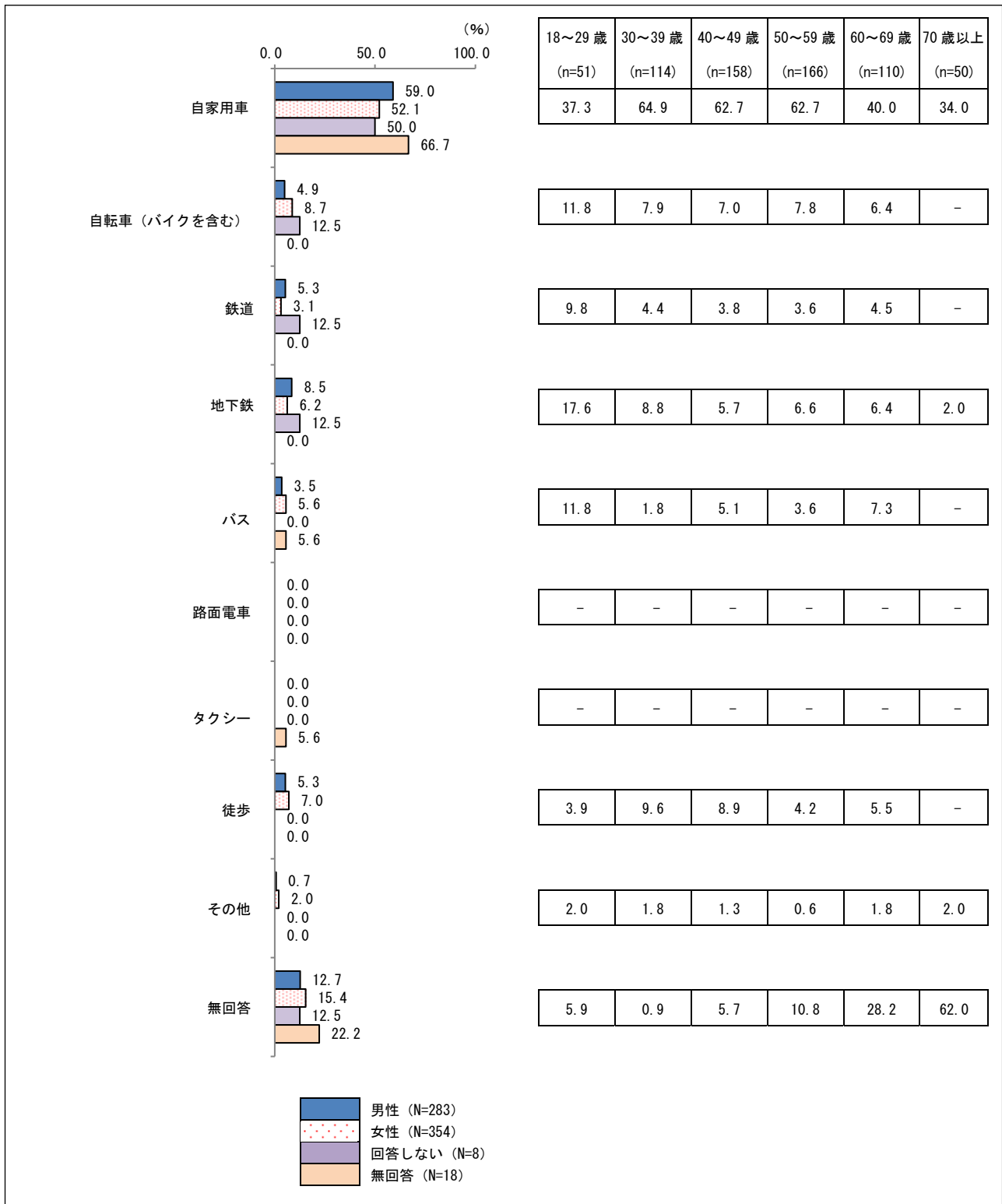


通勤・通学

【性別・年代別 移動手段】

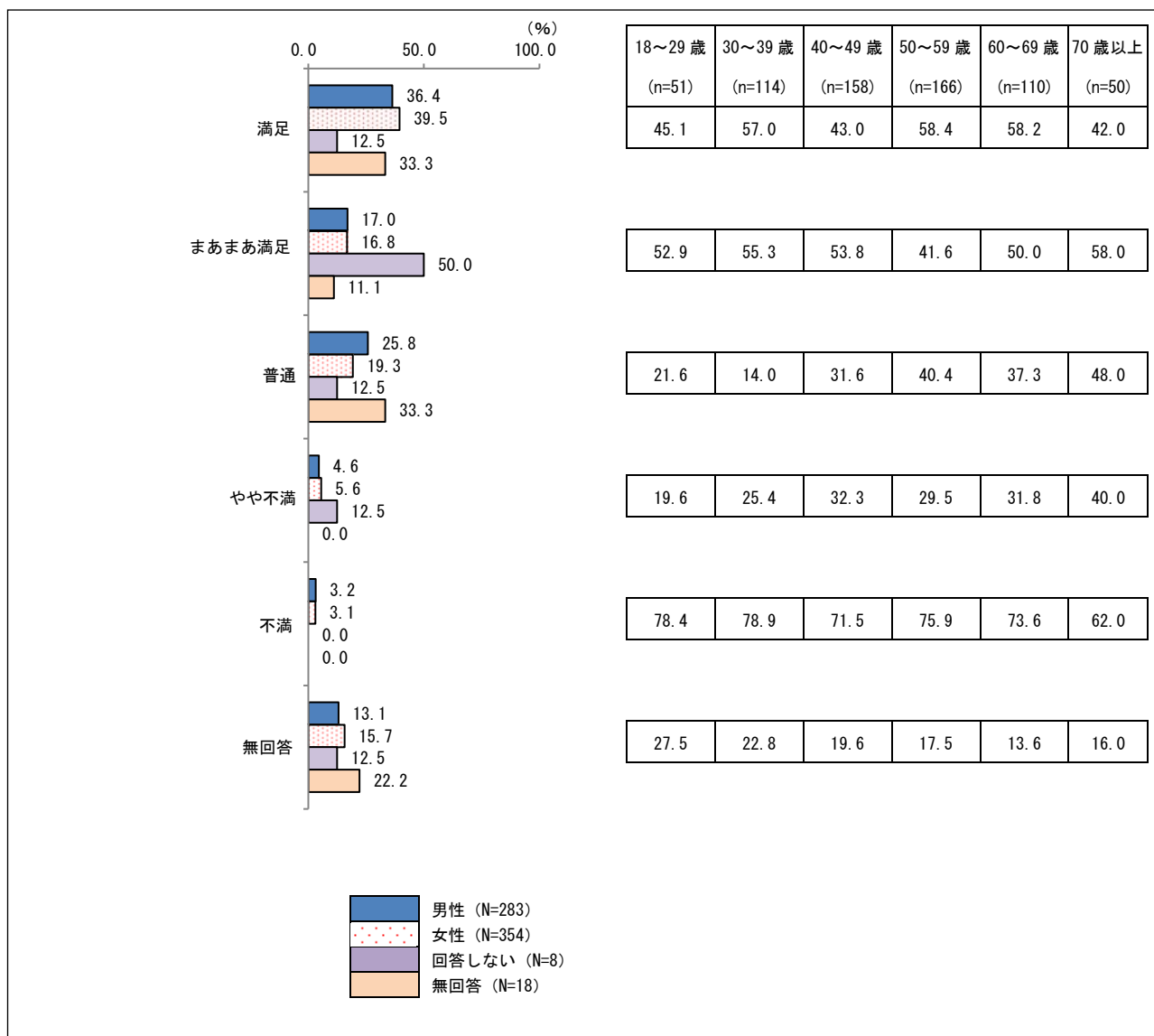
性別で見ると、男性（59.0%）、女性（52.1%）ともに「自家用車」の割合が最も高くなっている。
 年代別で見ると、「自家用車」についてはすべての年代で割合が最も高くなっている。

また、「地下鉄」については、他の年代の割合と比べて18～29歳（17.6%）に割合が相対的に高くなっている。



【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性（36.4%）、女性（39.5%）ともに「満足」の割合が最も高くなっている。
 また、「普通」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。
 年代別で見ると、「不満」の割合がすべての年代で最も高くなっている。

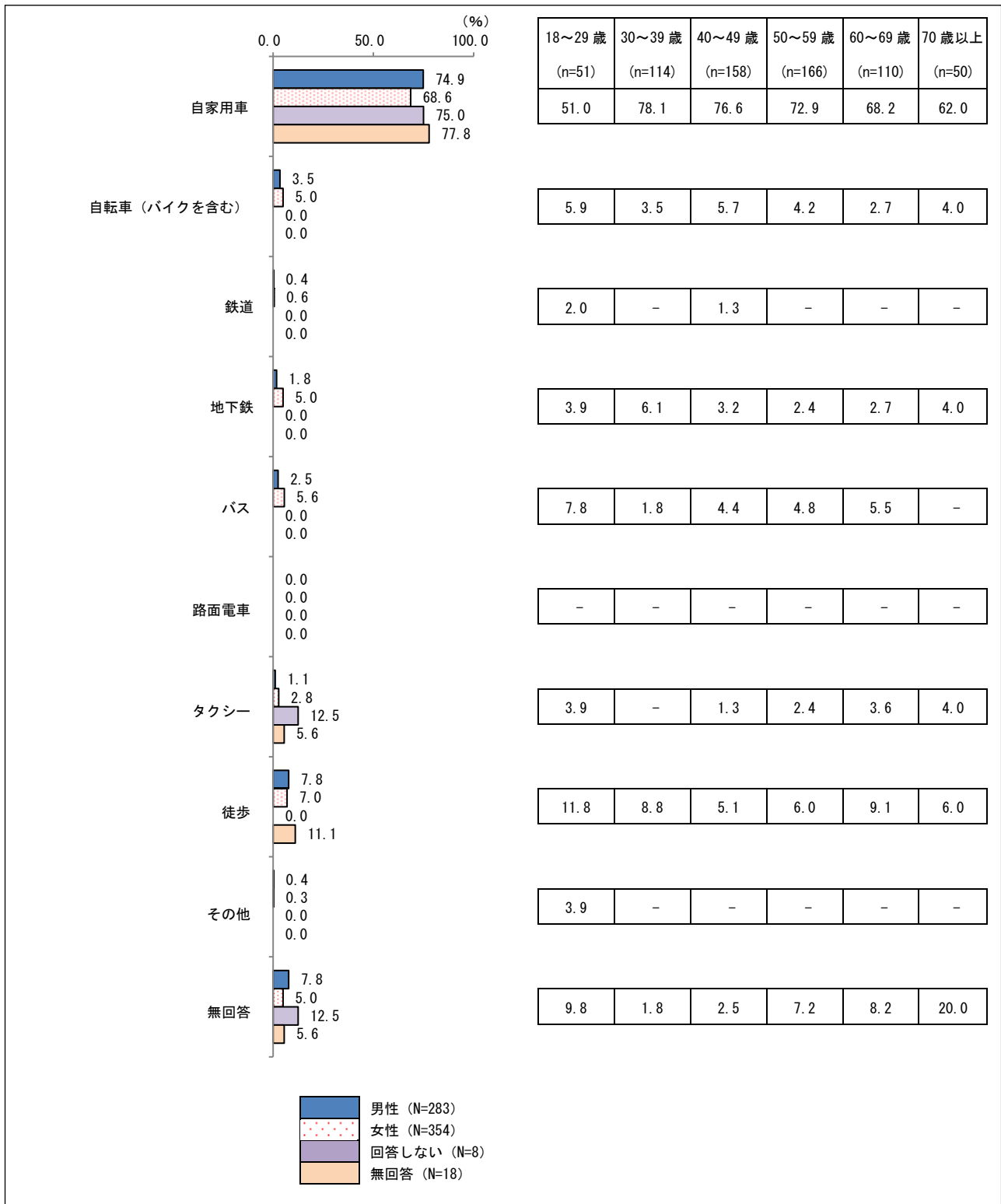


通院

【性別・年代別 移動手段】

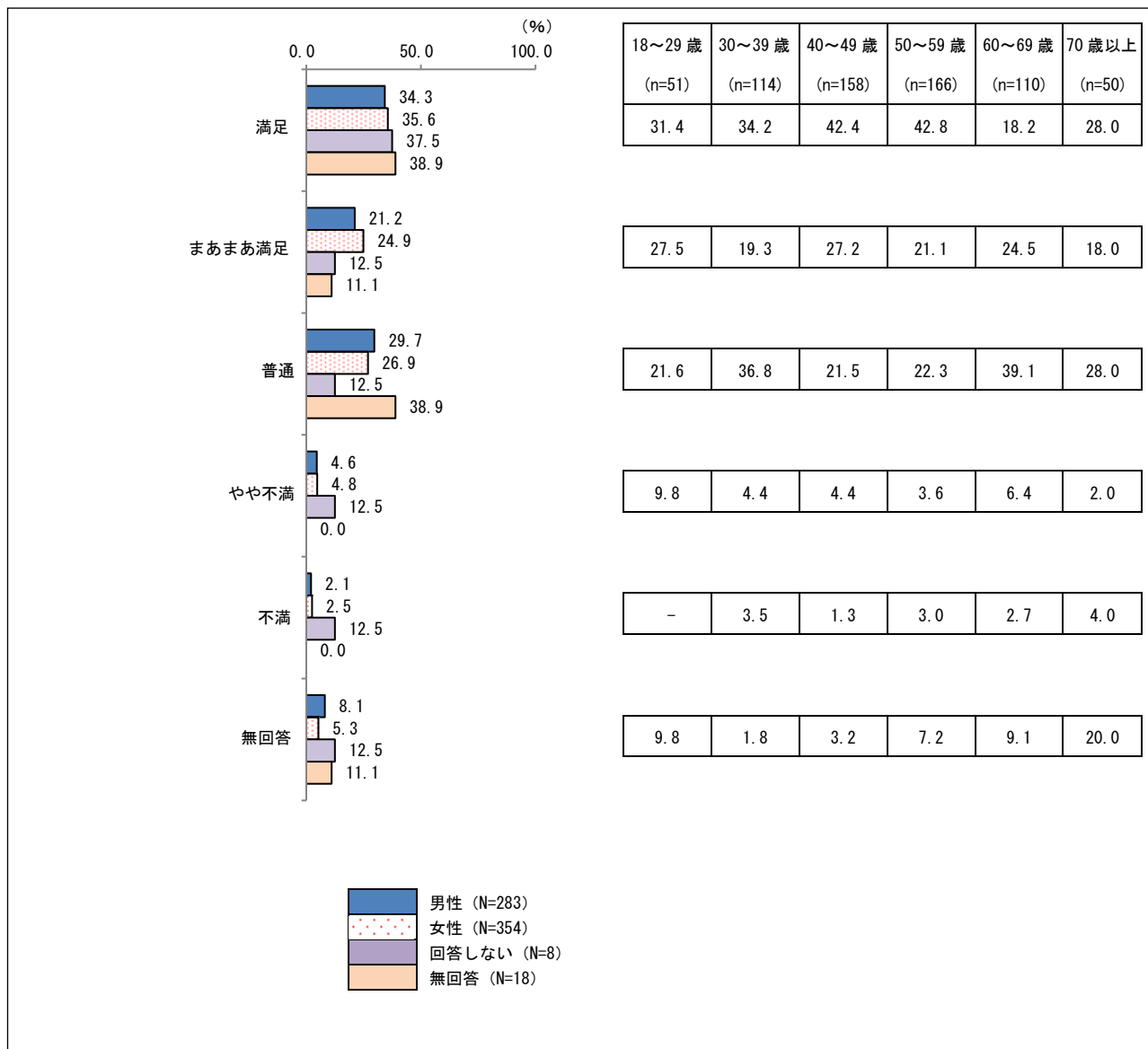
性別で見ると、男性（74.9%）、女性（68.6%）ともに「自家用車」の割合が最も高くなっている。また、「自家用車」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「自家用車」についてはすべての年代で割合が最も高くなっている。



【性別・年代別 満足度】

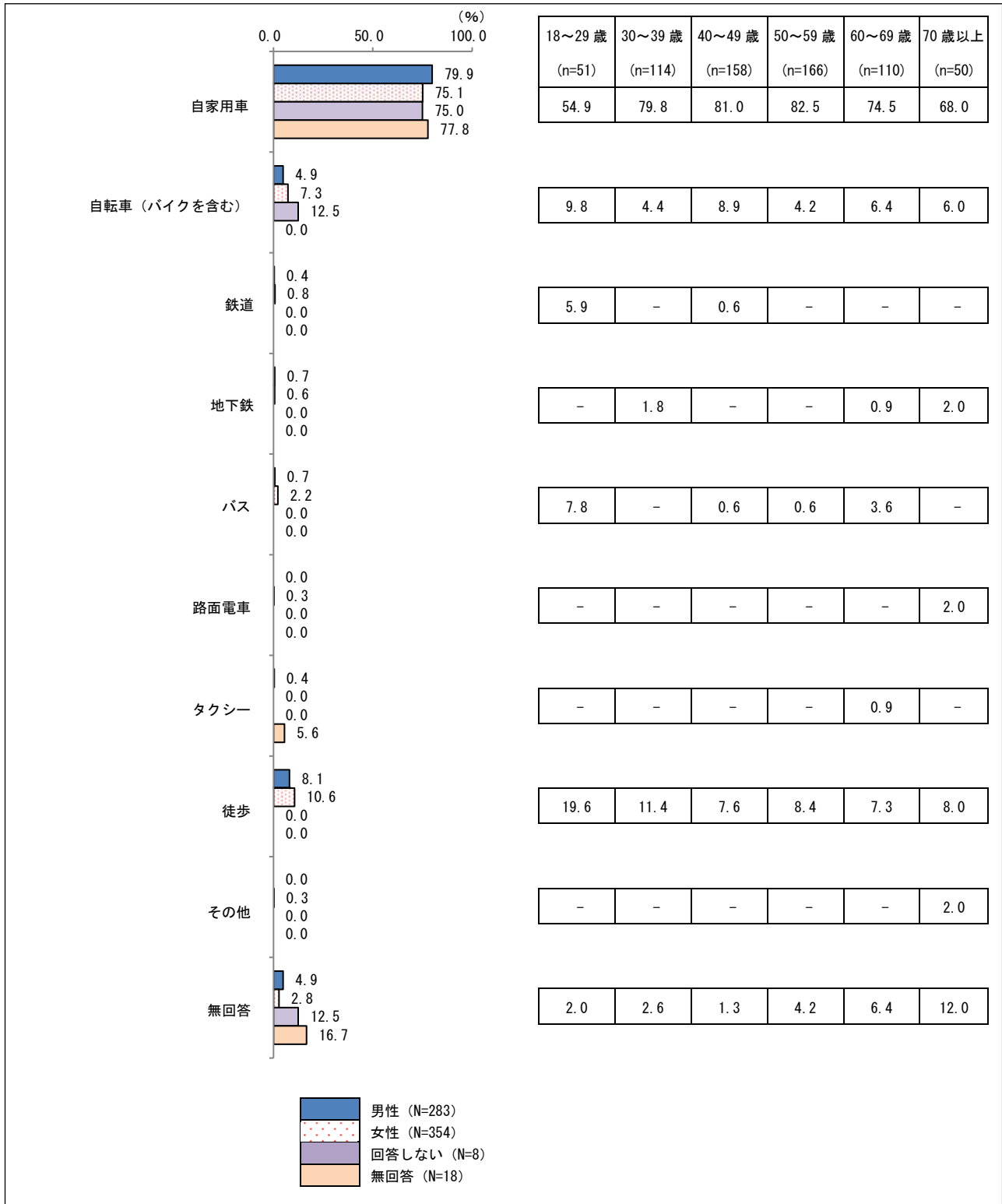
性別で見ると、男性（34.3%）、女性（35.6%）ともに「満足」の割合が最も高くなっている。
 年代別で見ると、「満足」については、30～39歳と60～69歳を除くすべての年代で割合が最も高くなっている。
 一方、「普通」については、30～39歳（36.8%）、60～69歳（39.1%）の割合が最も高くなっている。



買い物

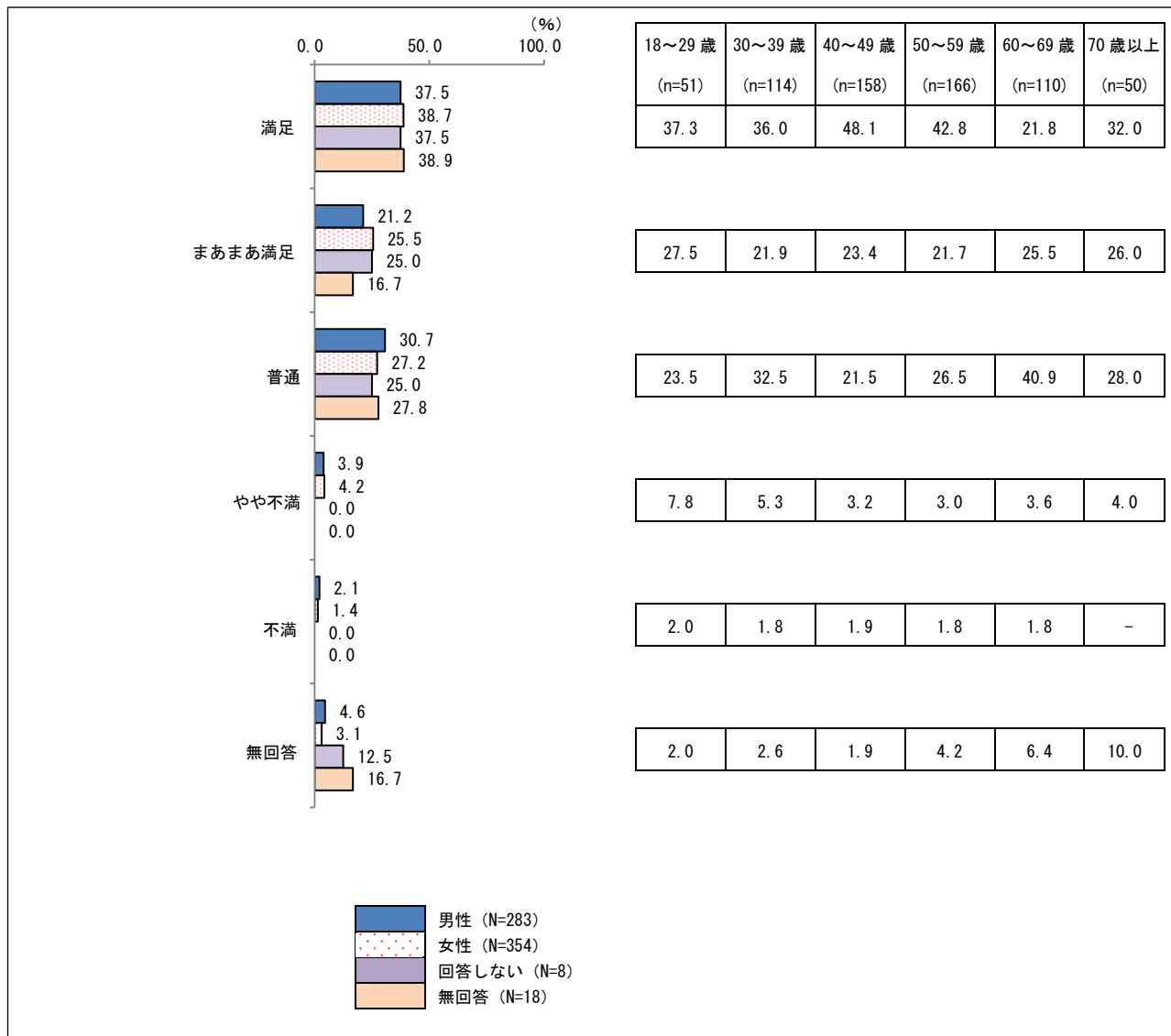
【性別・年代別 移動手段】

性別で見ると、男性（79.9%）、女性（75.1%）ともに「自家用車」の割合が最も高くなっている。
 年代別で見ると、「自家用車」についてはすべての年代で割合が最も高くなっている。
 また、「徒歩」については、18～29歳（19.6%）の割合が相対的に高くなっている。



【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性（37.5%）、女性（38.7%）ともに「満足」の割合が最も高くなっている。
 年代別で見ると、「満足」については、60～69歳を除くすべての年代で割合が最も高くなっている。
 一方、「普通」については、60～69歳（40.9%）の割合が最も高くなっている。

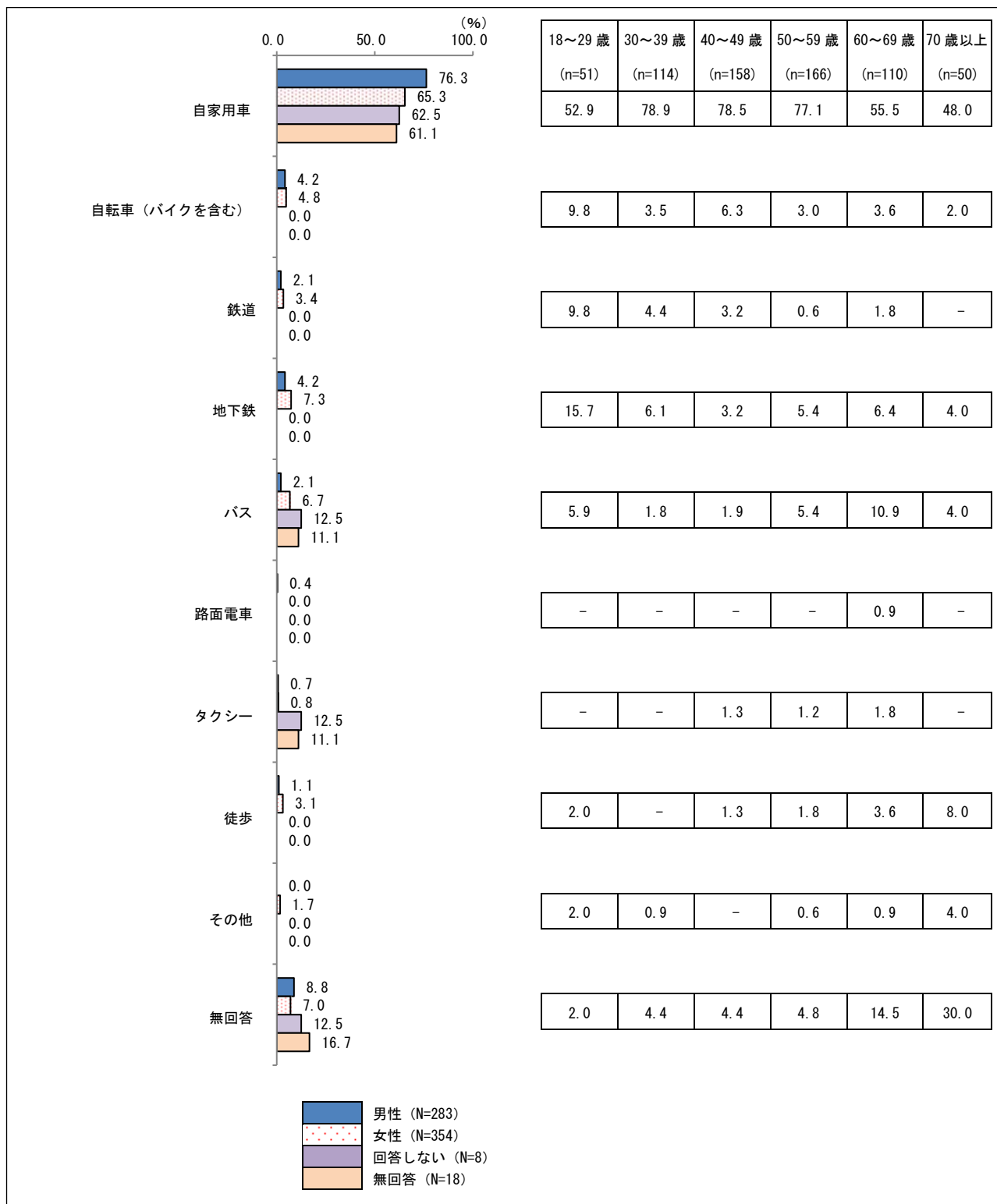


その他の外出

【性別・年代別 移動手段】

性別で見ると、男性（76.3%）、女性（65.3%）ともに「自家用車」の割合が最も高くなっている。また、「自家用車」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「自家用車」についてはすべての年代で割合が最も高くなっている。また、「地下鉄」については、18～29歳（15.7%）の割合が相対的に高くなっている。

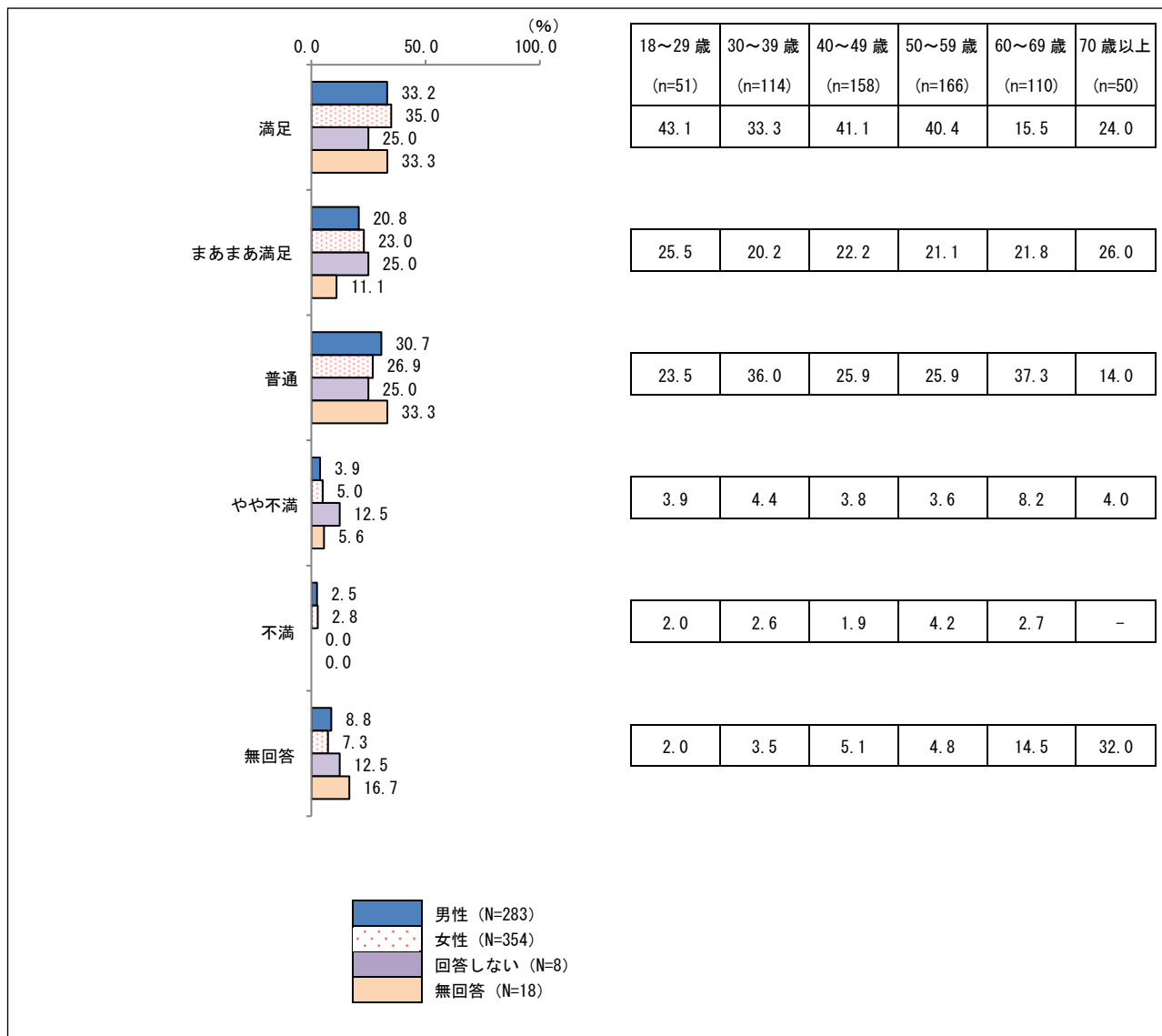


【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性（33.2%）、女性（35.0%）ともに「満足」の割合が最も高くなっている。

年代別で見ると、「満足」については、18～29歳（43.1%）、40～49歳（41.1%）、50～59歳（40.4%）で割合が最も高くなっている。

一方、「まあまあ満足」については、70歳以上（26.0%）で割合が最も高く、「普通」については、30～39歳（36.0%）、60～69歳（37.3%）で割合が最も高くなっている。



(2) 積雪時

【全体・移動手段】

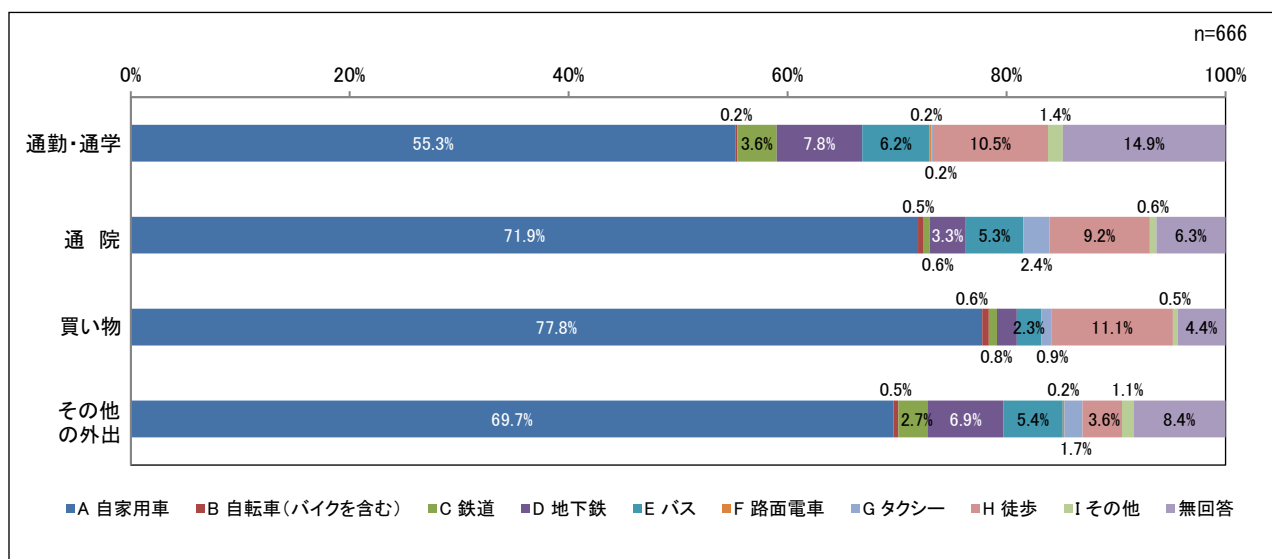
通勤・通学の移動手段では、「自家用車」(55.3%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「徒歩」(10.5%)、「地下鉄」(7.8%)の順となっている。

通院の移動手段では、「自家用車」(71.9%)と答えた人の割合が最も多く、次いで「徒歩」(9.2%)、「バス」(5.3%)の順となっている。

買い物の移動手段では、「自家用車」(77.8%)と答えた方の割合が最も多く、次いで「徒歩」(11.1%)、「バス」(2.3%)の順となっている。

その他外出の移動手段では、「自家用車」(69.7%)と答えた割合が最も多く、次いで「地下鉄」(6.9%)、「バス」(5.4%)の順となっている。

外出目的のすべてで、移動手段は「自家用車」が5割以上の割合となっている。



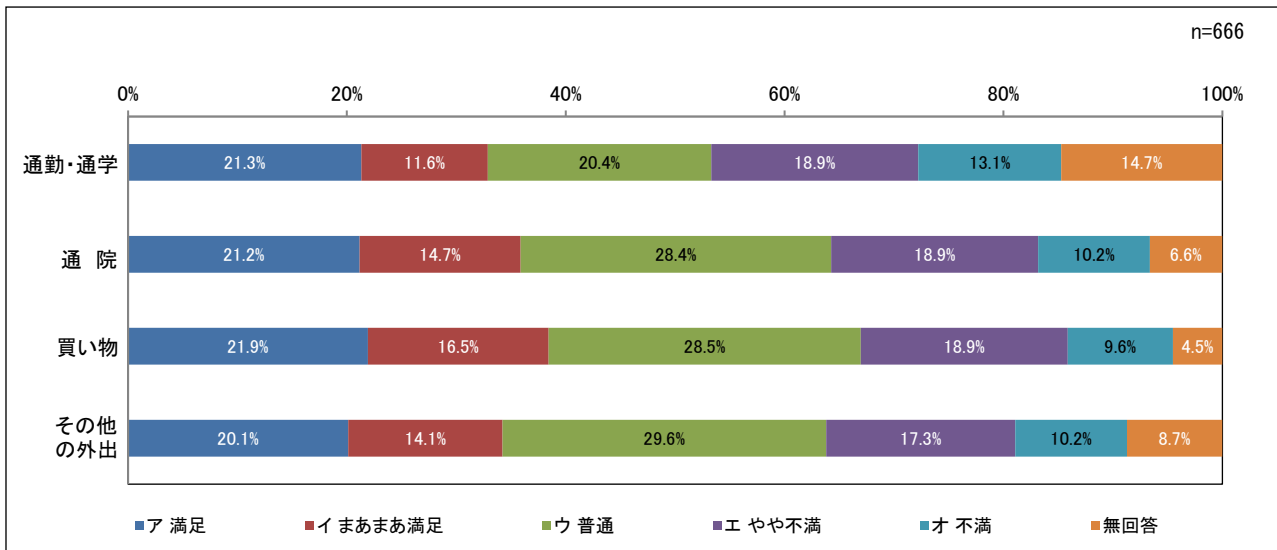
【全体・満足度】

通勤・通学では、「満足」(21.3%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「普通」(20.4%)、「やや不満」(18.9%)の順となっている。

通院では、「普通」(28.4%)と答えた人の割合が最も多く、次いで「満足」(21.2%)、「やや不満」(18.9%)の順となっている。

買い物では、「普通」(28.5%)と答えた方の割合が最も多く、次いで「満足」(21.9%)、「やや不満」(18.9%)の順となっている。

その他の外出では、「普通」(29.6%)と答えた割合が最も多く、次いで「満足」(20.1%)、「やや不満」(17.3%)の順となっている。

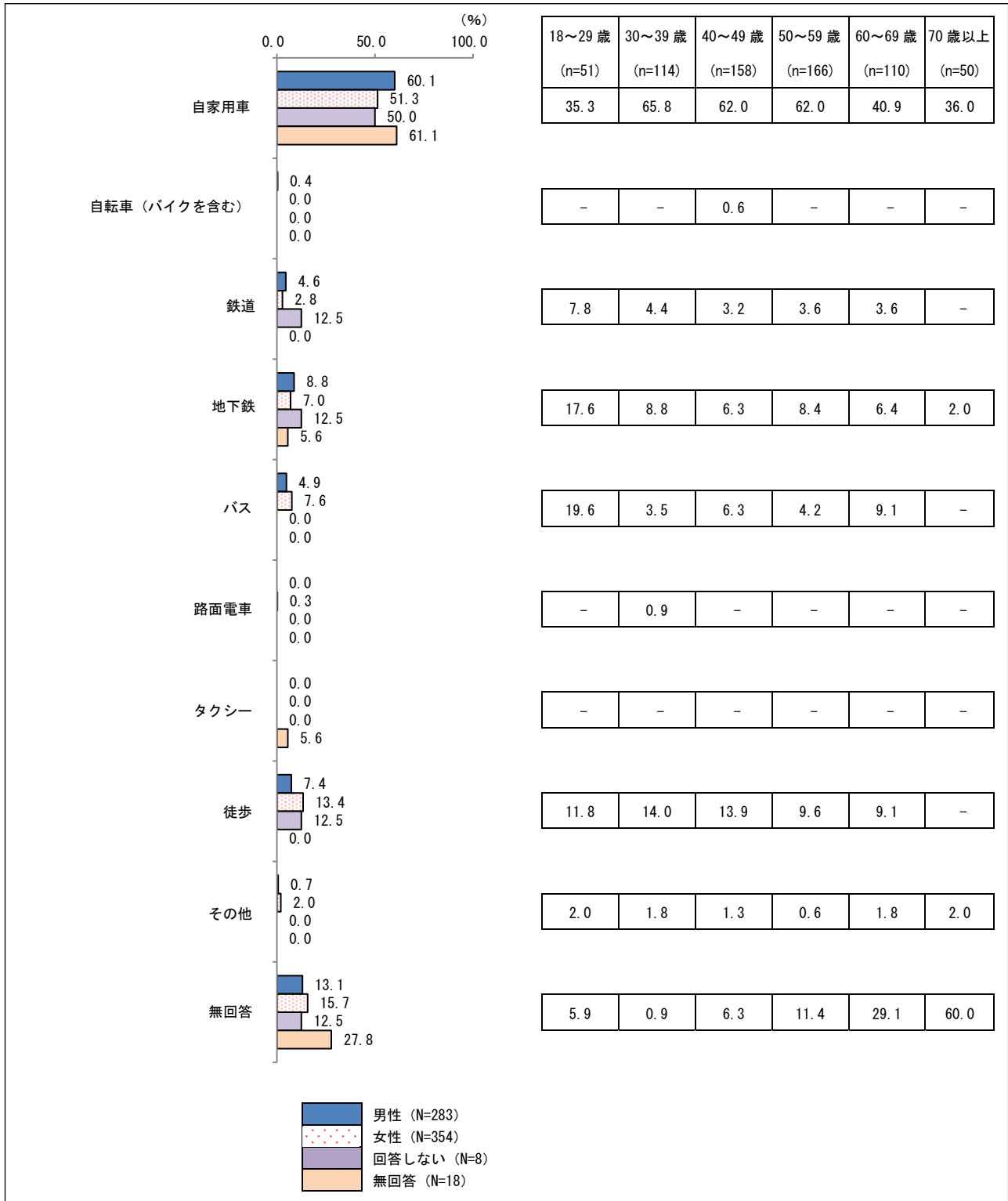


通勤・通学

【性別・年代別 移動手段】

性別で見ると、男性（60.1%）、女性（51.3%）ともに「自家用車」の割合が最も高くなっている。また、「自家用車」では男性が女性より5ポイント以上高く、「徒歩」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「自家用車」についてはすべての年代で割合が最も高くなっている。

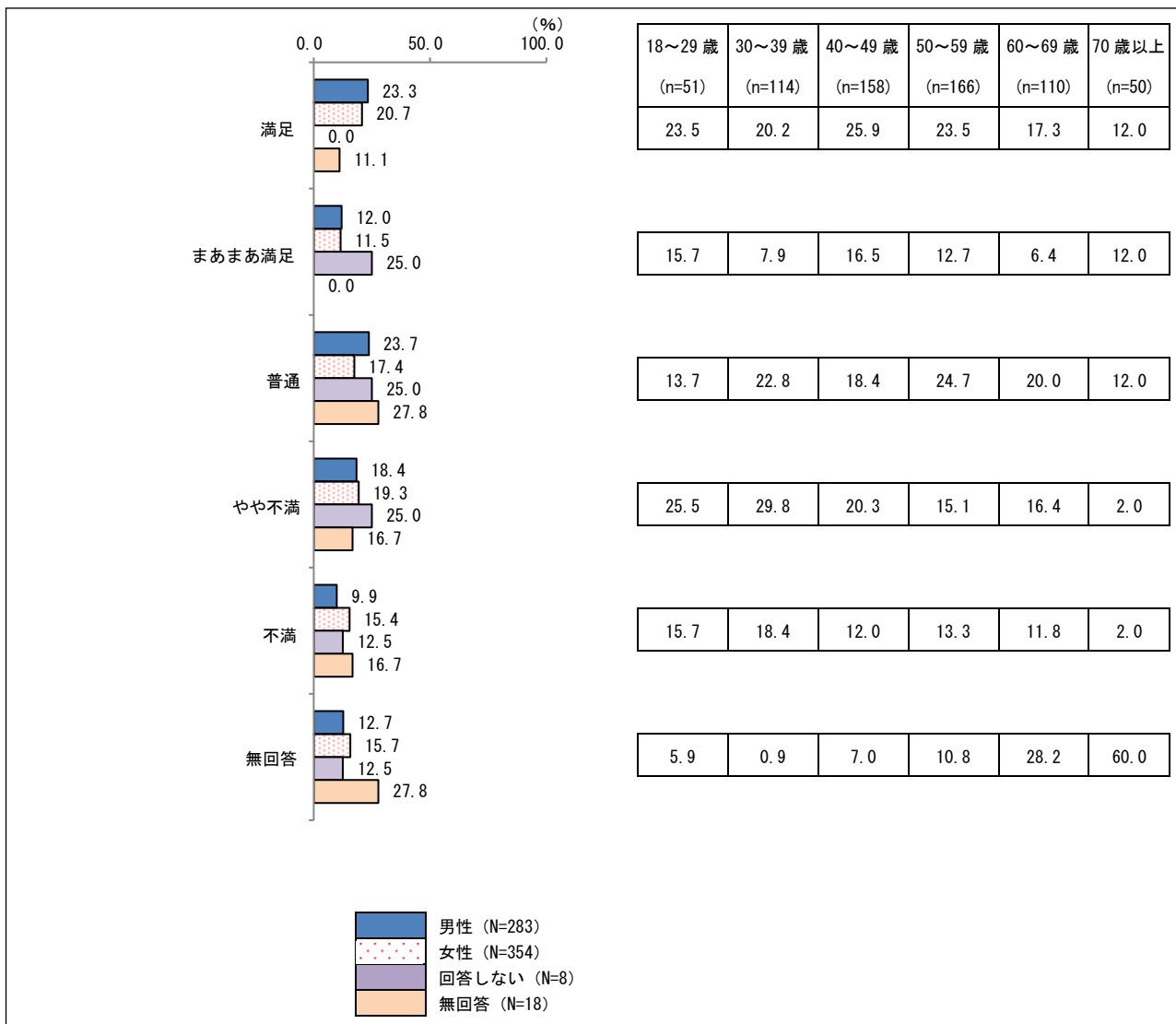


【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性では「普通」(23.7%)が、女性では「満足」(20.7%)の割合が最も高くなっている。

また、「普通」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「満足」については、40～49歳(25.9%)の割合が最も高く、「普通」については、50～59歳(24.7%)の割合が最も高く、また、「やや不満」については、18～29歳(25.5%)、30～39歳(29.8%)の割合が最も高くなっている。

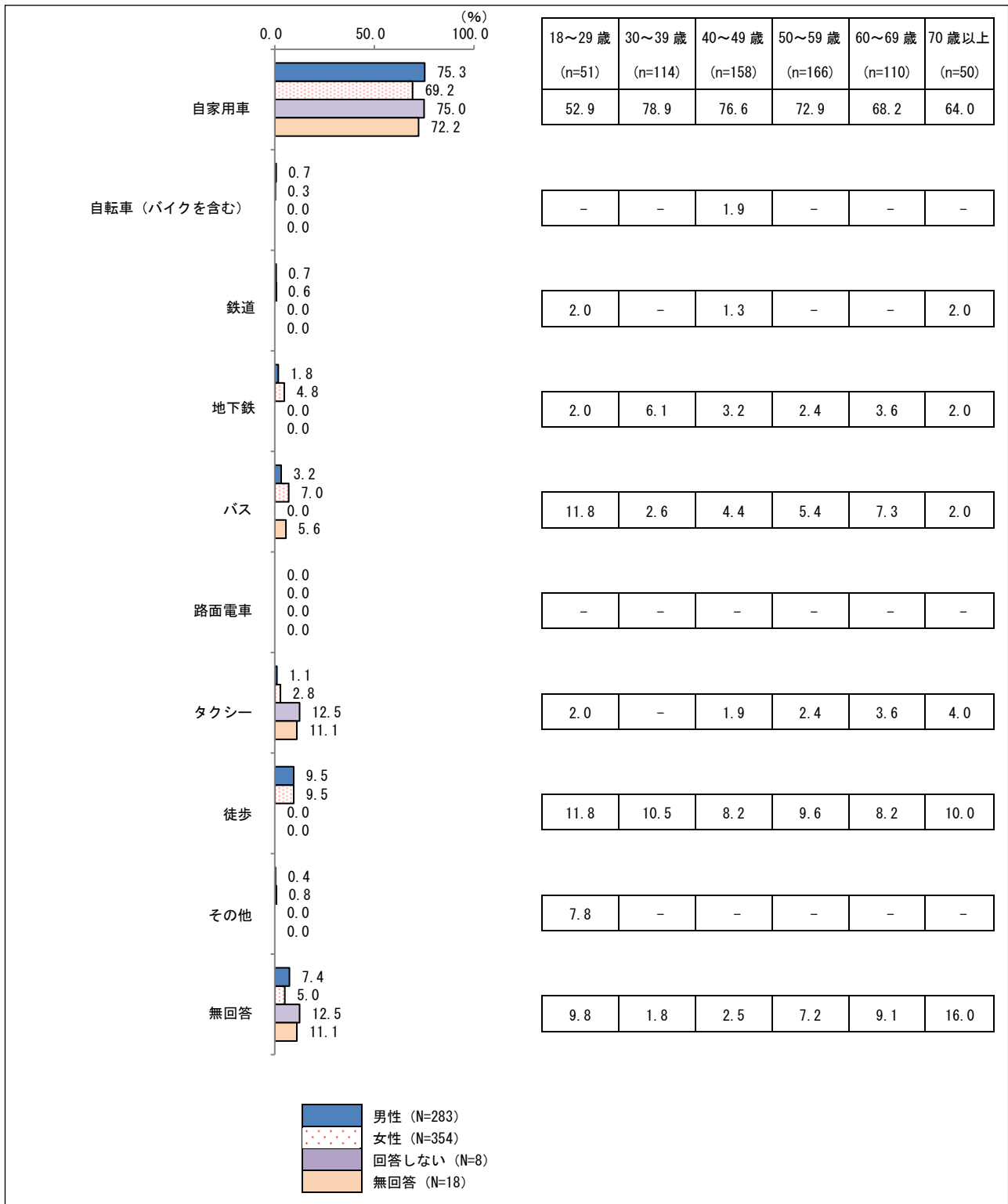


通院

【性別・年代別 移動手段】

性別で見ると、男性（75.3%）、女性（69.2%）ともに「自家用車」の割合が最も高くなっている。また、「自家用車」では男性が女性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「自家用車」についてはすべての年代で割合が最も高くなっている。

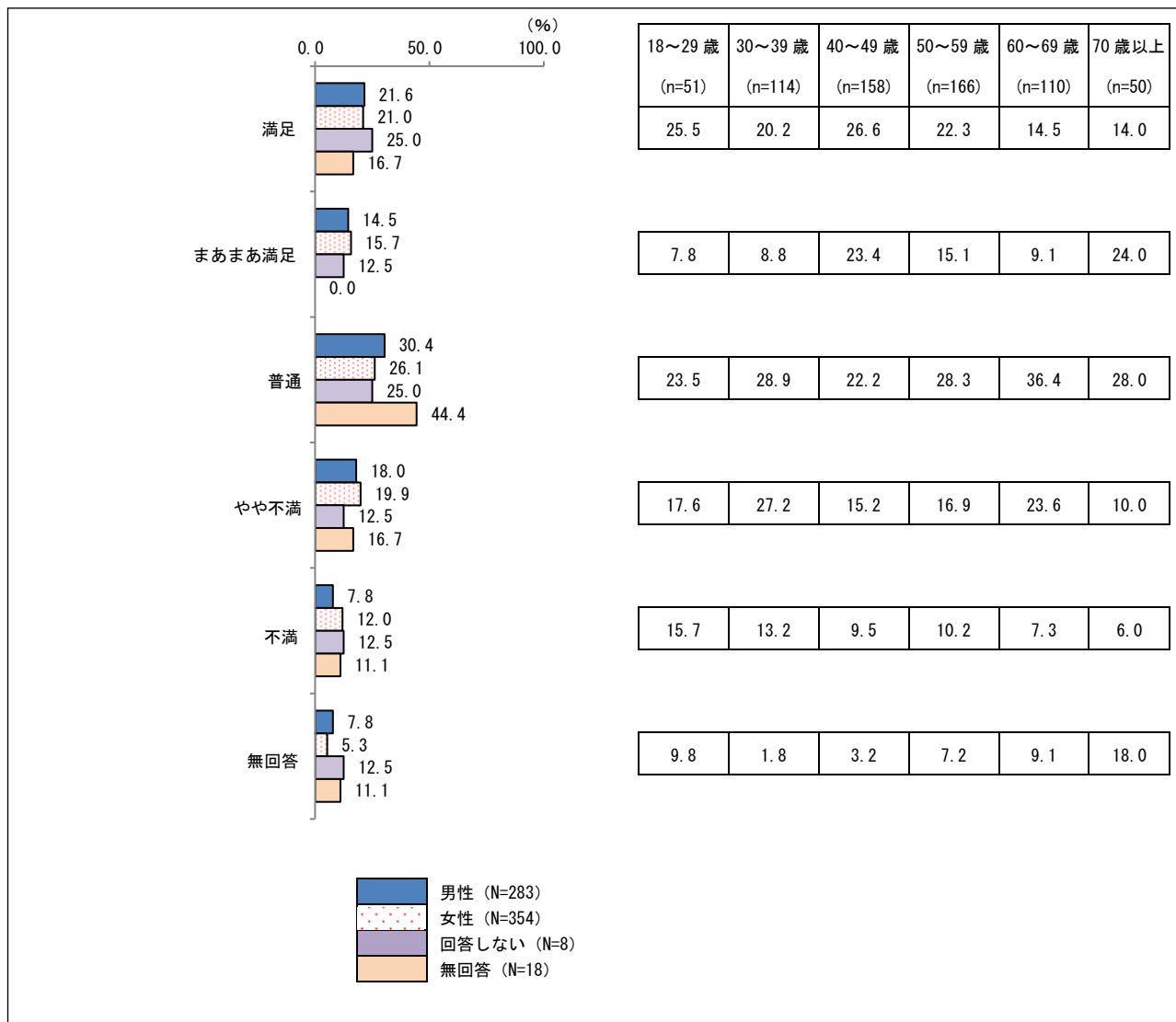


【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性（30.4%）、女性（26.1%）ともに「普通」の割合が最も高くなっている。

年代別で見ると、「普通」については、18～29歳と40～49歳を除くすべての年代で割合が最も高くなっている。

一方、「満足」については、18～29歳（25.5%）、40～49歳（26.6%）の割合が最も高くなっている。

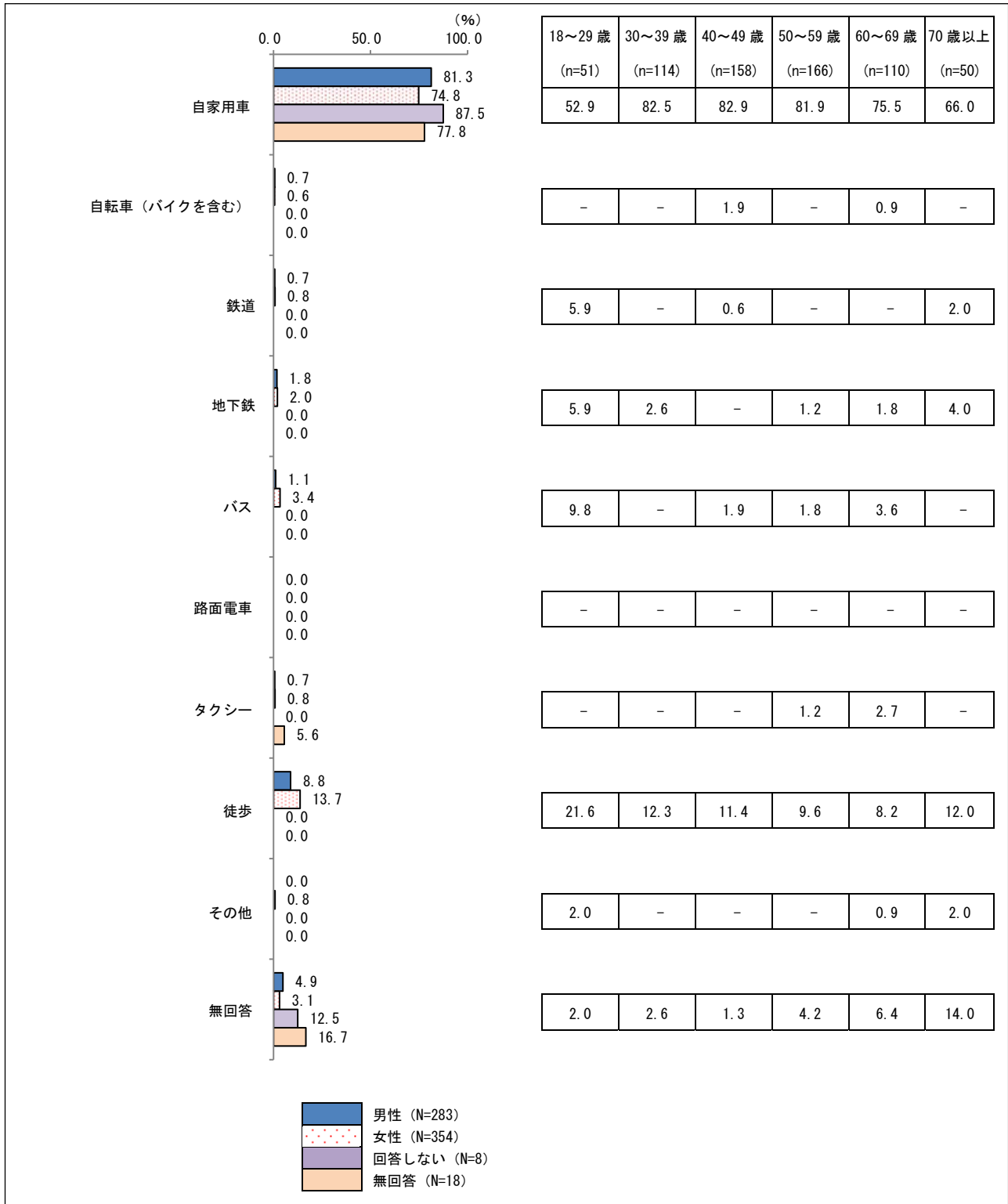


買い物

【性別・年代別 移動手段】

性別で見ると、男性（81.3%）、女性（74.8%）ともに「自家用車」の割合が最も高くなっている。また、「自家用車」では男性が女性より5ポイント以上高く、「徒歩」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「自家用車」についてはすべての年代で割合が最も高くなっている。

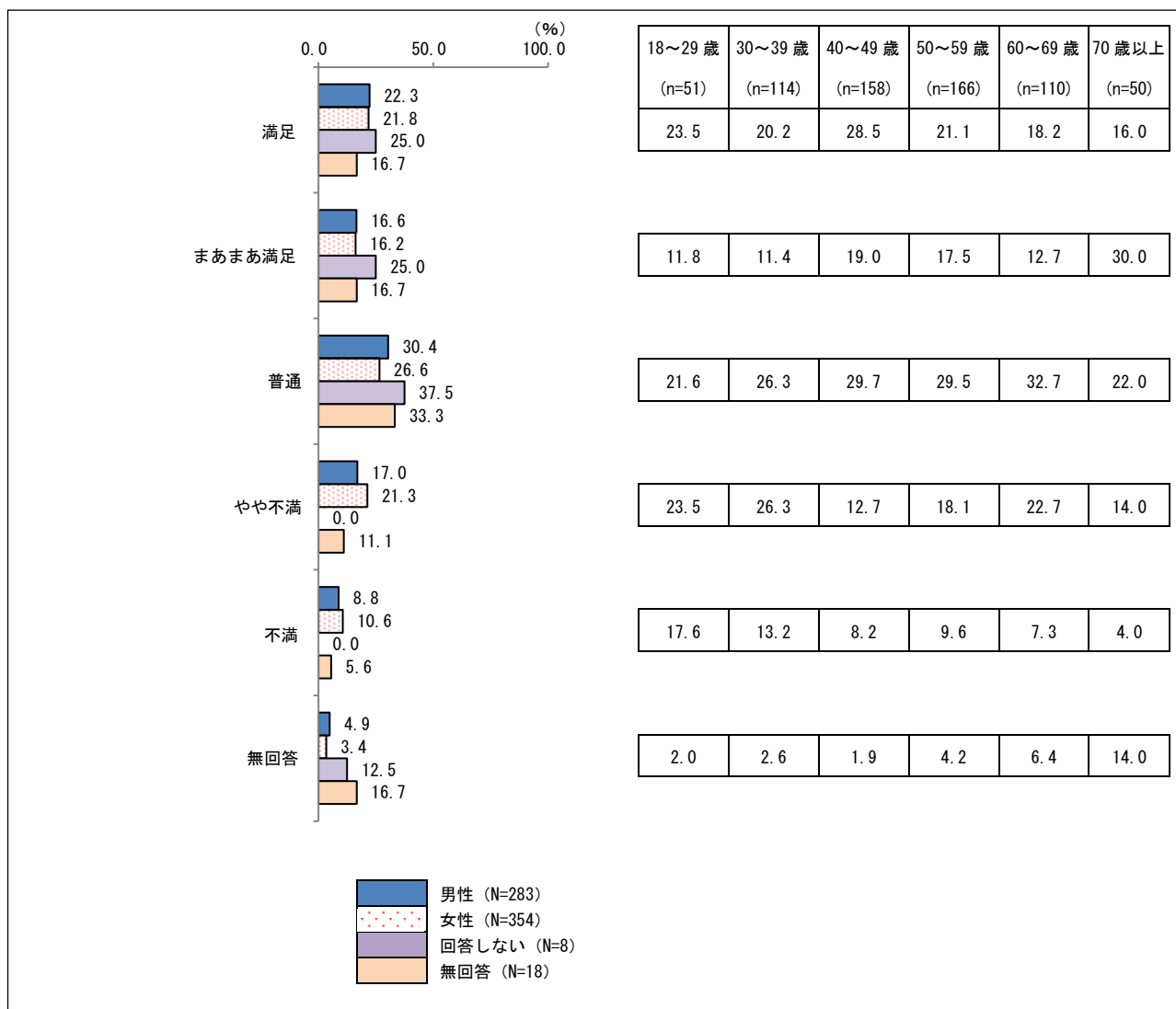


【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性では「普通」(30.4%)が、女性では「満足」(26.6%)の割合が最も高くなっている。

年代別で見ると、「普通」については、18～29歳と70歳以上を除くすべての年代で割合が最も高くなっている。

一方、「満足」については、18～29歳(23.5%)、「まあまあ満足」については、70歳以上(30.0%)、また、「やや不満」については、18～29歳(23.5%)、30～39歳(26.3)の割合が最も高くなっている。



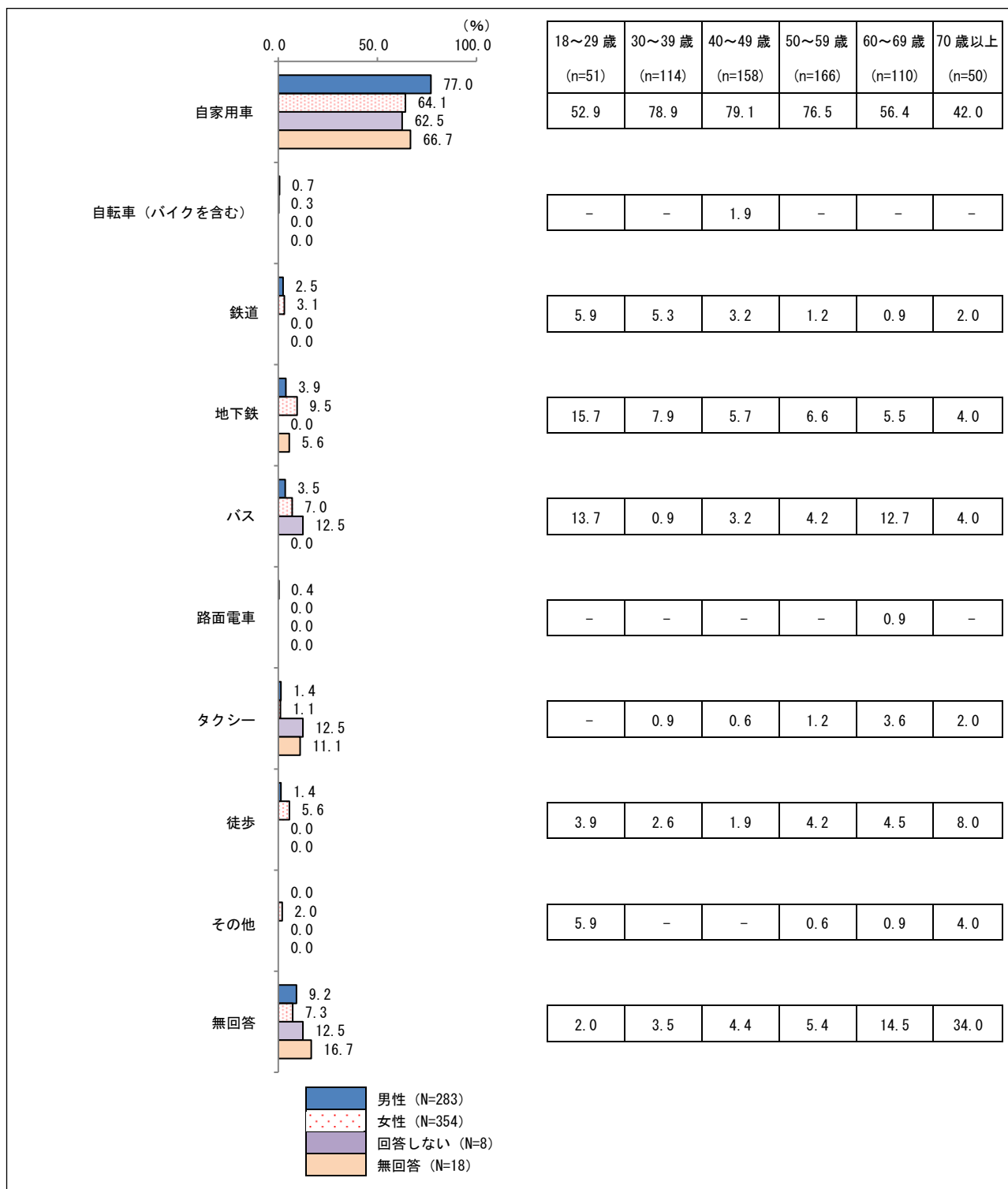
その他の外出

【性別・年代別 移動手段】

性別で見ると、男性（77.0%）、女性（64.1%）ともに「自家用車」の割合が最も高くなっている。
 また、「自家用車」では男性が女性より5ポイント以上高く、「地下鉄」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「自家用車」についてはすべての年代で割合が最も高くなっている。

また、「地下鉄」については、18～29歳（15.7%）の割合が相対的に高くなっている。

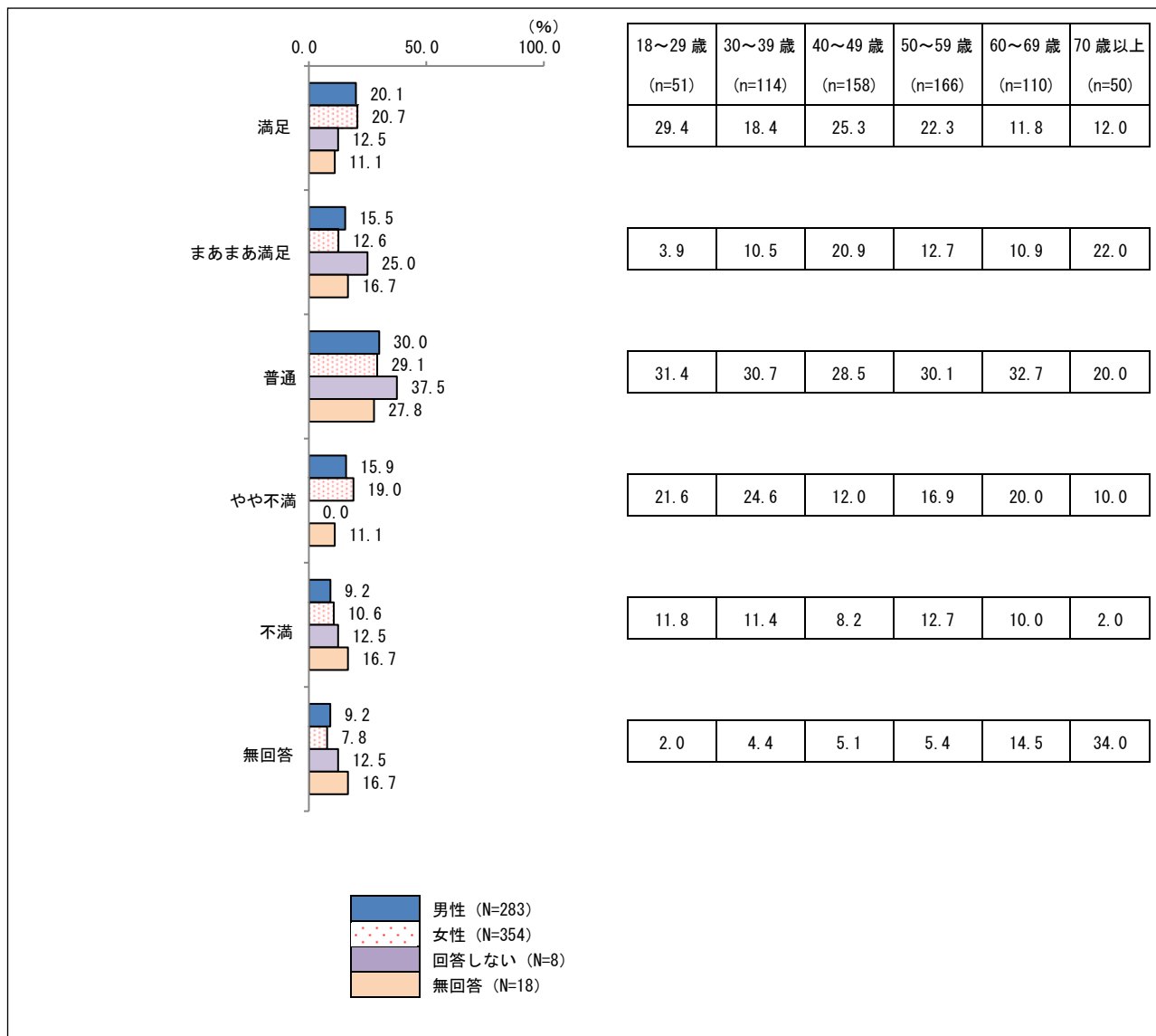


【性別・年代別 満足度】

性別で見ると、男性では「普通」(30.0%)が、女性では「満足」(29.1%)の割合が最も高くなっている。

年代別で見ると、「普通」の割合が70歳以上を除くすべての年代で最も高くなっている。

一方、「まあまあ満足」については、70歳以上(22.0%)の割合が最も高くなっている。

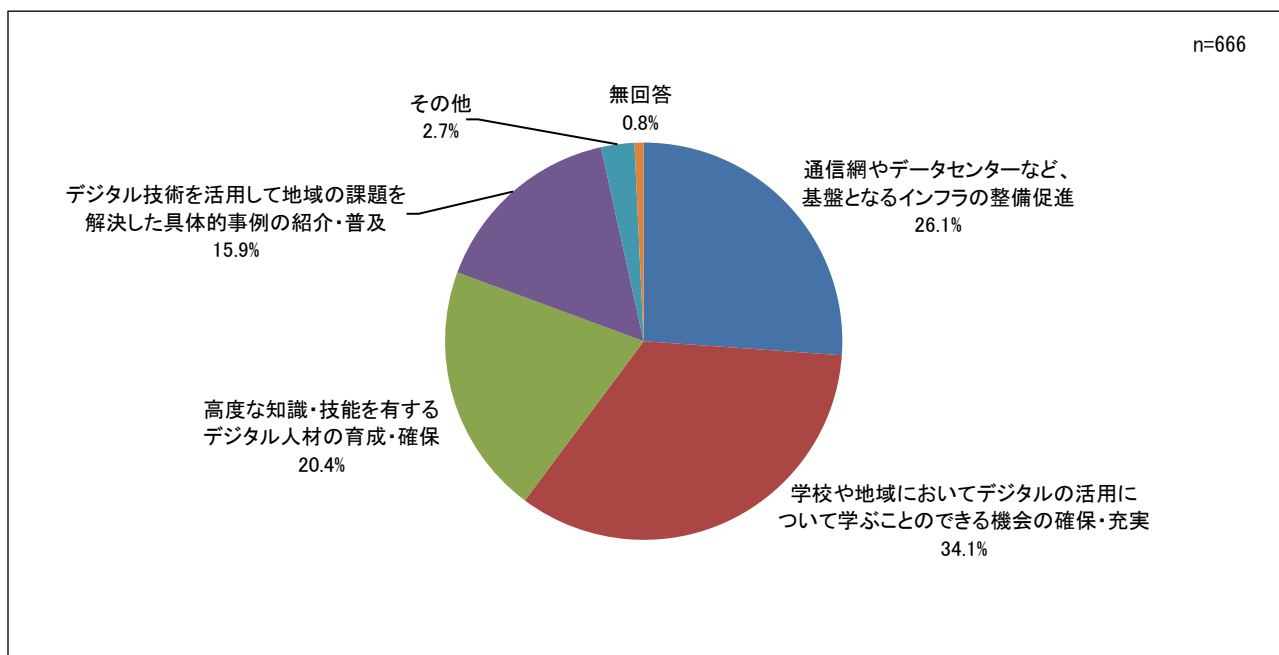


10 デジタル化について

問10 全国を上回るスピードで急速に進行する人口減少や少子高齢化、広域分散型の社会構造などの課題を解決するため、ICTやAIなどといったデジタルを活用した取組を一層進める必要があると考えられていますが、そのために、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から1つ選んでください。

「学校や地域においてデジタルの活用について学ぶことのできる機会の確保・充実」(34.1%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「通信網やデータセンターなど、基盤となるインフラの整備促進」(26.1%)、「高度な知識・技能を有するデジタル人材の育成・確保」(20.4%)の順となっている。

【全体】



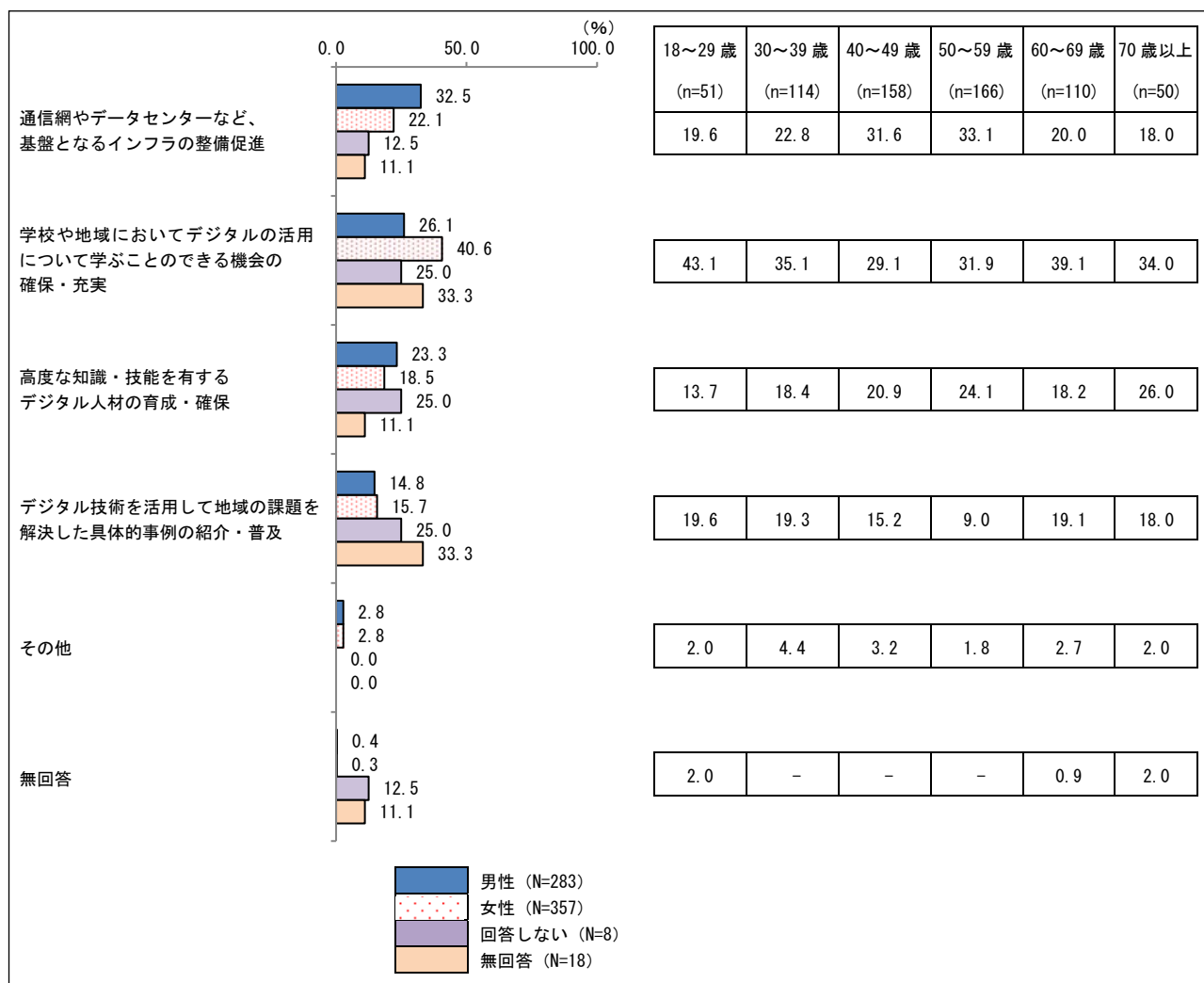
性別で見ると、男性では「通信網やデータセンターなど、基盤となるインフラの整備促進」(32.5%)、女性では「学校や地域においてデジタルの活用について学ぶことのできる機会の確保・充実」(40.6%)の割合が最も高くなっている。

また、「通信網やデータセンターなど、基盤となるインフラの整備促進」では男性が女性より5ポイント以上高く、「学校や地域においてデジタルの活用について学ぶことのできる機会の確保・充実」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「学校や地域においてデジタルの活用について学ぶことのできる機会の確保・充実」については、40～49歳と50～59歳を除くすべての年代で割合が最も高くなっている。

一方、「通信網やデータセンターなど、基盤となるインフラの整備促進」については、40～49歳(31.6%)、50～59歳(33.1%)の年代で最も割合が高くなっている。

【性別・年代別】

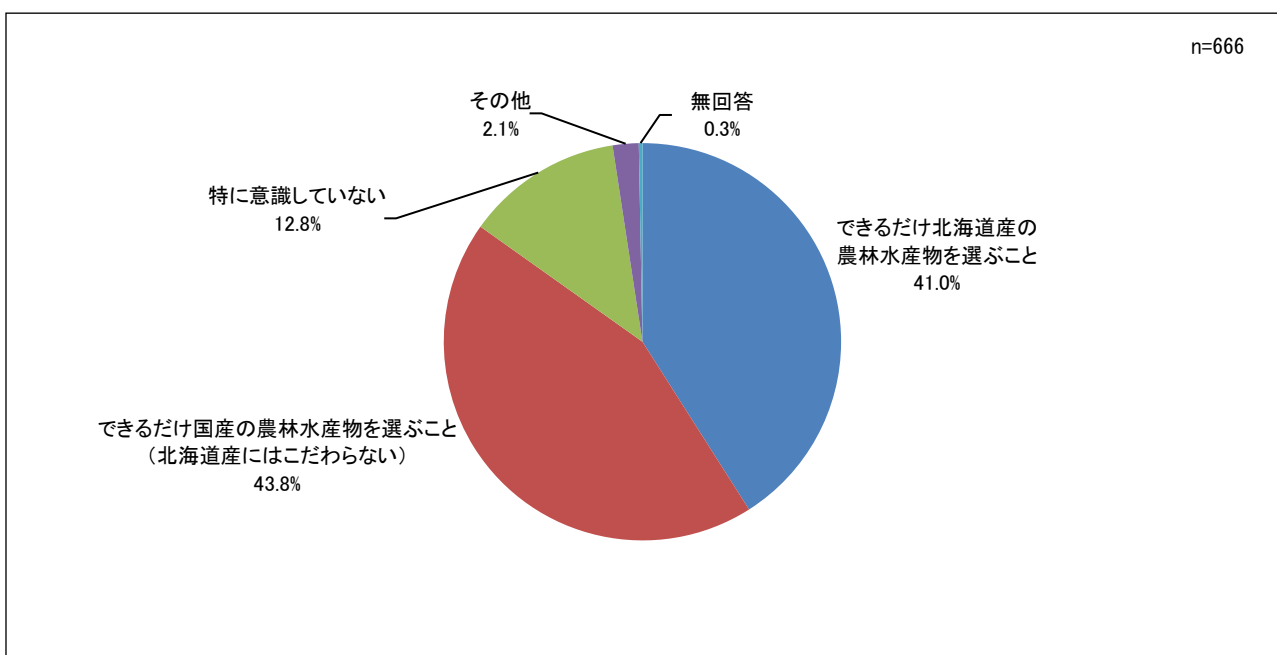


11 農林水産物の購入に当たって重視することについて

問11 世界の食料需給等を巡るリスクが顕在化する中、食料安全保障への関心が高まっており、本道の農林水産業が果たす役割はますます重要になっていると考えられていますが、農林水産物の購入に当たって重視することとして、あなたの考えに最も近いものを次の中から1つ選んでください。

「できるだけ国産の農林水産物を選ぶこと（北海道産にはこだわらない）」(43.8%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「できるだけ北海道産の農林水産物を選ぶこと」(41.0%)、「特に意識していない」(12.8%)の順となっている。

【全体】



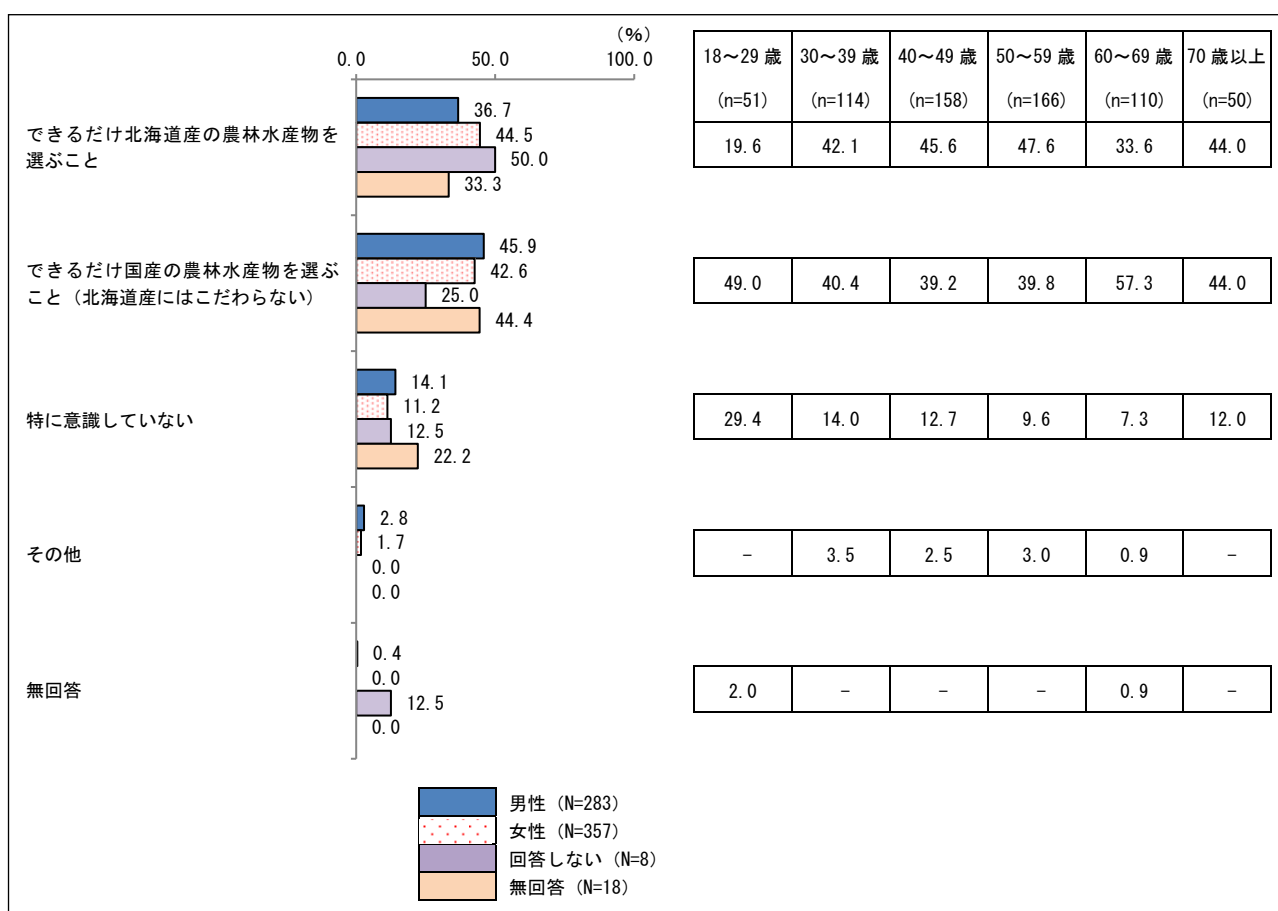
性別でみると、男性では「できるだけ国産の農林水産物を選ぶこと（北海道産にはこだわらない）」（45.9%）、女性では「できるだけ北海道産の農林水産物を選ぶこと」（44.5%）の割合が最も高くなっている。

また、「できるだけ北海道産の農林水産物を選ぶこと」では女性が男性より 5 ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「できるだけ北海道産の農林水産物を選ぶこと」については、18～29 歳と 60～69 歳を除くすべての年代で割合が最も高くなっている。

一方、「できるだけ国産の農林水産物を選ぶこと（北海道産にはこだわらない）」については、18～29 歳（49.0%）、60～69 歳（57.3%）の年代で最も割合が高くなっている。

【性別・年代別】

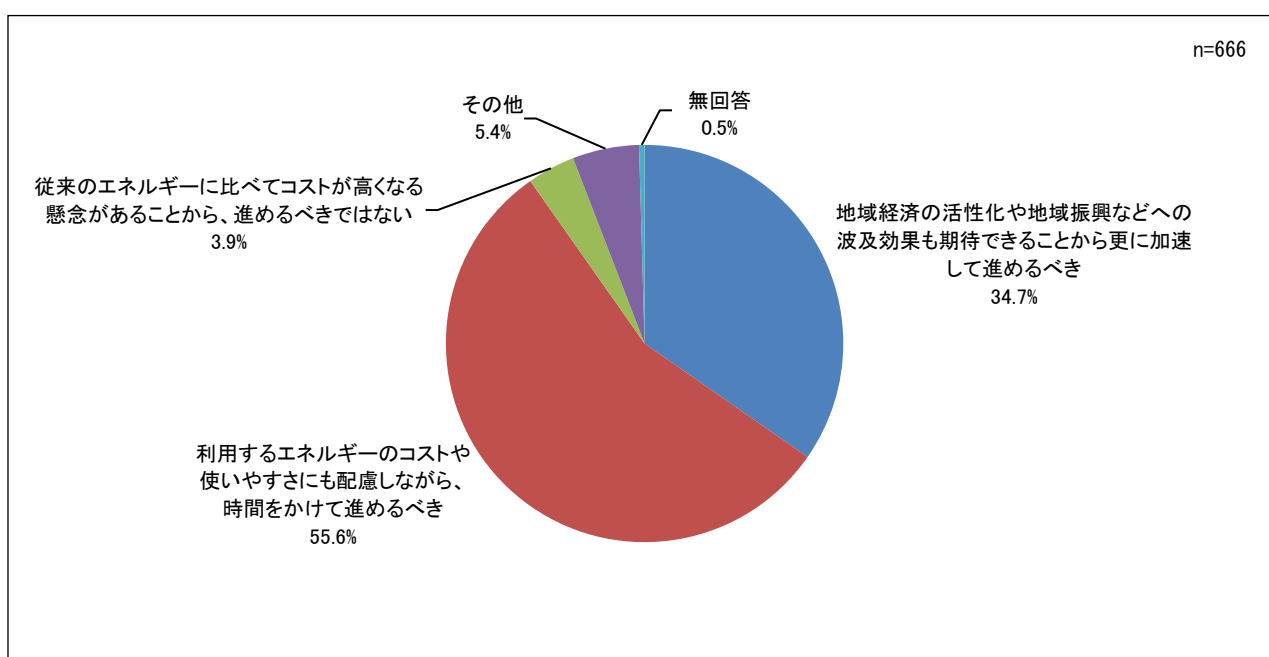


12 ゼロカーボン北海道について

問12 道では、2050年までに温室効果ガス排出量と森林等による吸収量のバランスが取れ、環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける「ゼロカーボン北海道」の実現を目標に掲げており、2030年度に、温室効果ガスを2013年度から48%削減し、2050年に実質ゼロにするという高い目標を設定していますが、風力や太陽光・バイオマスなど、道内に豊富に存在する再生可能エネルギー資源の活用について、あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

「利用するエネルギーのコストや使いやすさにも配慮しながら、時間をかけて進めるべき」(55.6%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「地域経済の活性化や地域振興などへの波及効果も期待できることから更に加速して進めるべき」(34.7%)、「その他」(5.4%)の順となっている。

【全体】



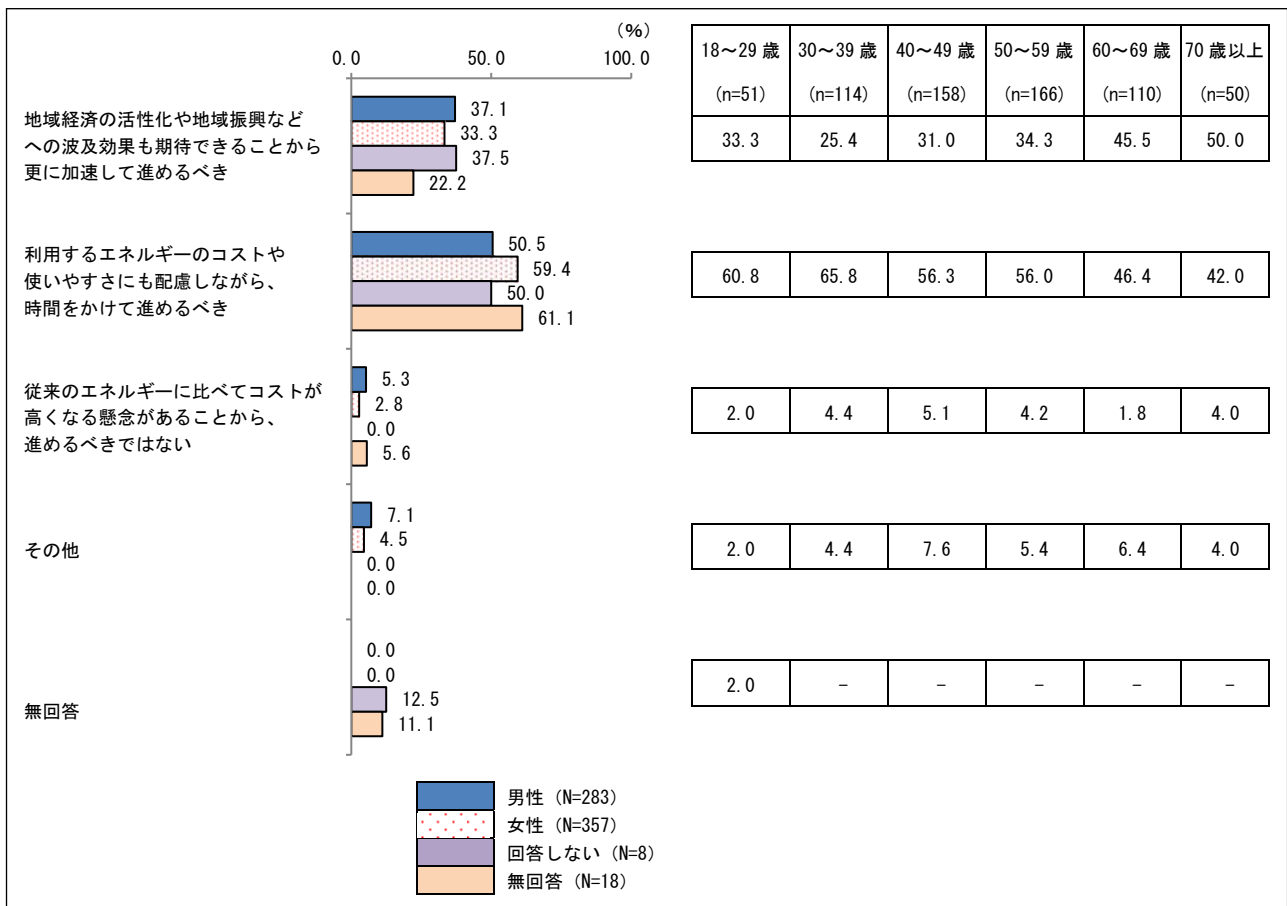
性別でみると、男性（50.5%）、女性（59.4%）ともに「利用するエネルギーのコストや使いやすさにも配慮しながら、時間をかけて進めるべき」の割合が最も高くなっている。

また、「利用するエネルギーのコストや使いやすさにも配慮しながら、時間をかけて進めるべき」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「利用するエネルギーのコストや使いやすさにも配慮しながら、時間をかけて進めるべき」については、70歳以上を除くすべての年代で割合が最も高くなっている。

一方、「地域経済の活性化や地域振興などへの波及効果も期待できることから更に加速して進めるべき」については、70歳以上（50.0%）の割合が最も高くなっている。

【性別・年代別】

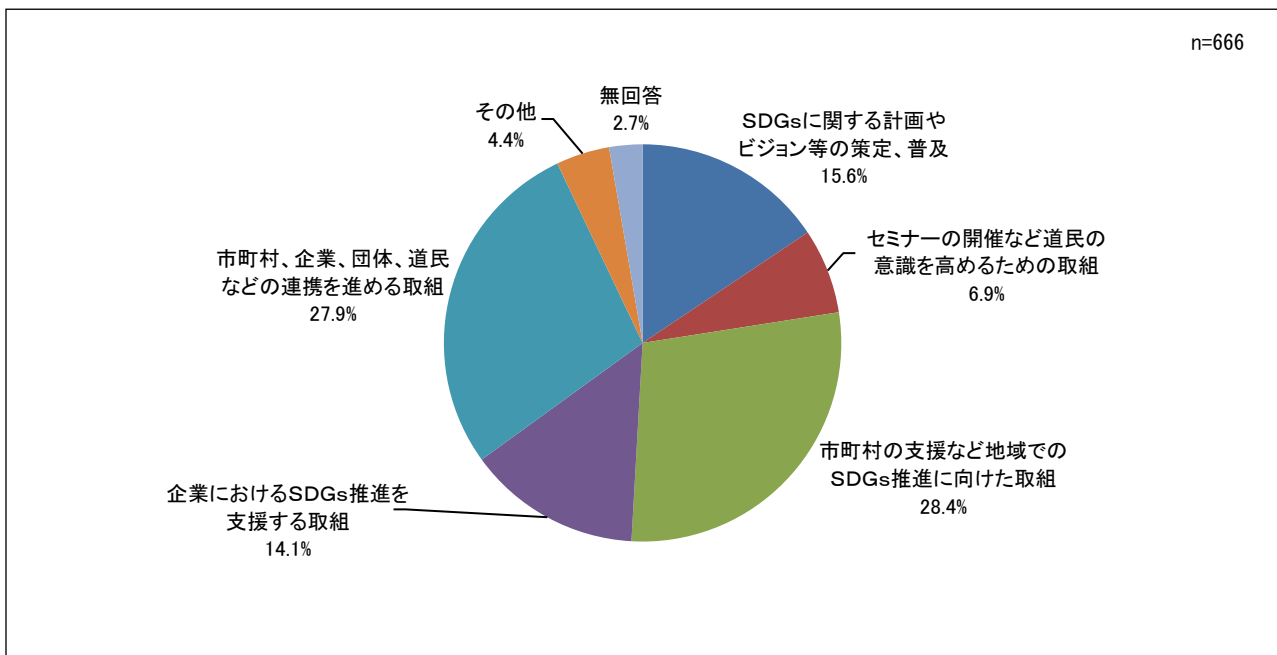


13 SDGsの推進について(1)

問13 北海道全体でSDGsを推進していくに当たって、行政に期待することを1つ選んでください。

「市町村の支援など地域でのSDGs推進に向けた取組」(28.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「市町村、企業、団体、道民などの連携を進める取組」(27.9%)、「SDGsに関する計画やビジョン等の策定、普及」(15.6%)の順となっている。

【全体】



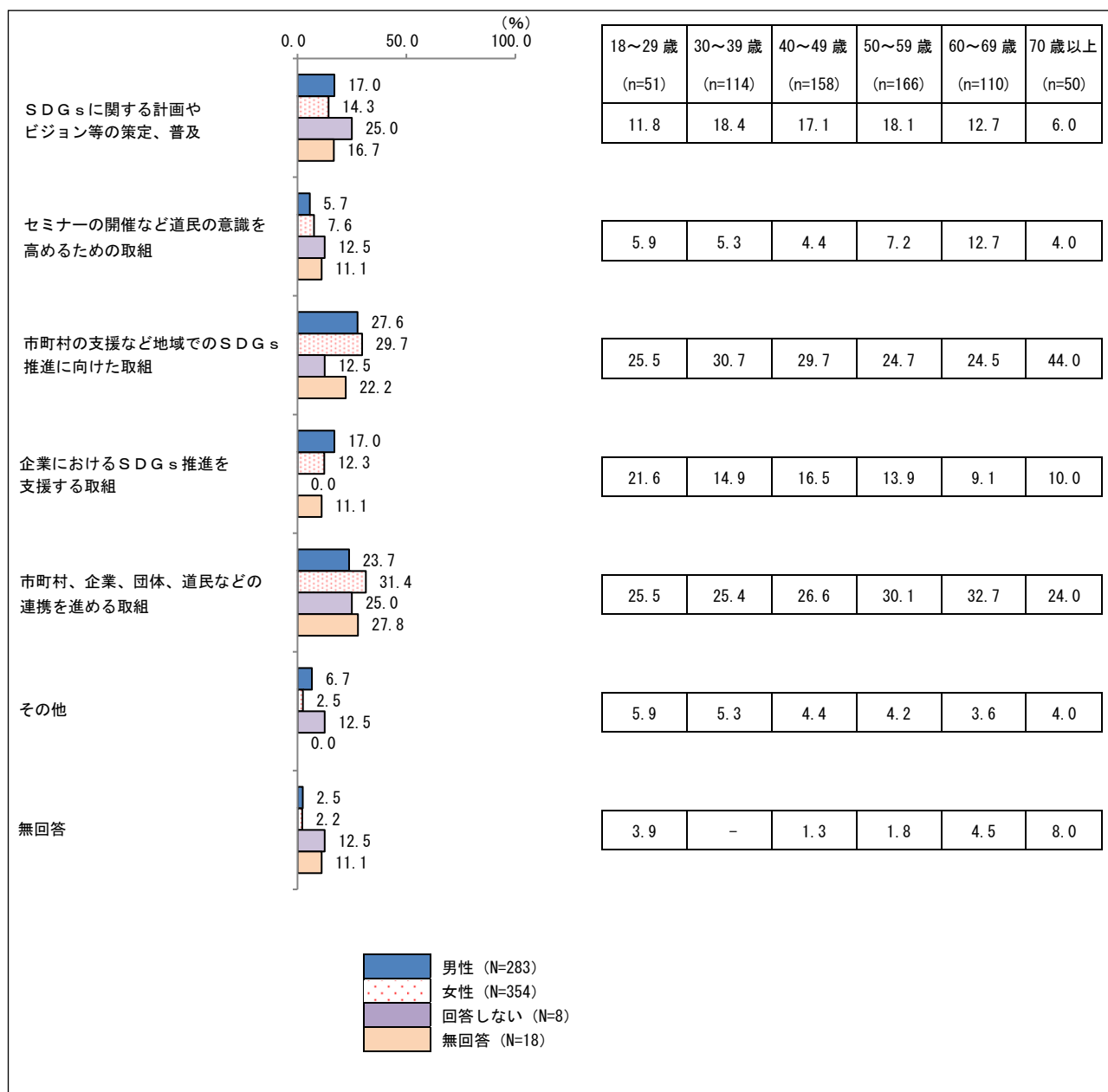
性別でみると、男性では「市町村の支援など地域でのSDGs推進に向けた取組」(27.6%)が、女性では「市町村、企業、団体、道民などの連携を進める取組」(31.4%)の割合が最も高くなっている。

また、「市町村、企業、団体、道民などの連携を進める取組」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「市町村の支援など地域でのSDGs推進に向けた取組」については、50~59歳と60~69歳を除く年代で割合が最も高く、「市町村、企業、団体、道民などの連携を進める取組」については18~29歳(25.5%)、50~59歳(30.1%)、60~69歳(32.7%)の年代で割合が最も高くなっている。

また、「市町村の支援など地域でのSDGs推進に向けた取組」については、他の年代の割合と比べて70歳以上(44.0%)が相対的に高くなっている。

【性別・年代別】

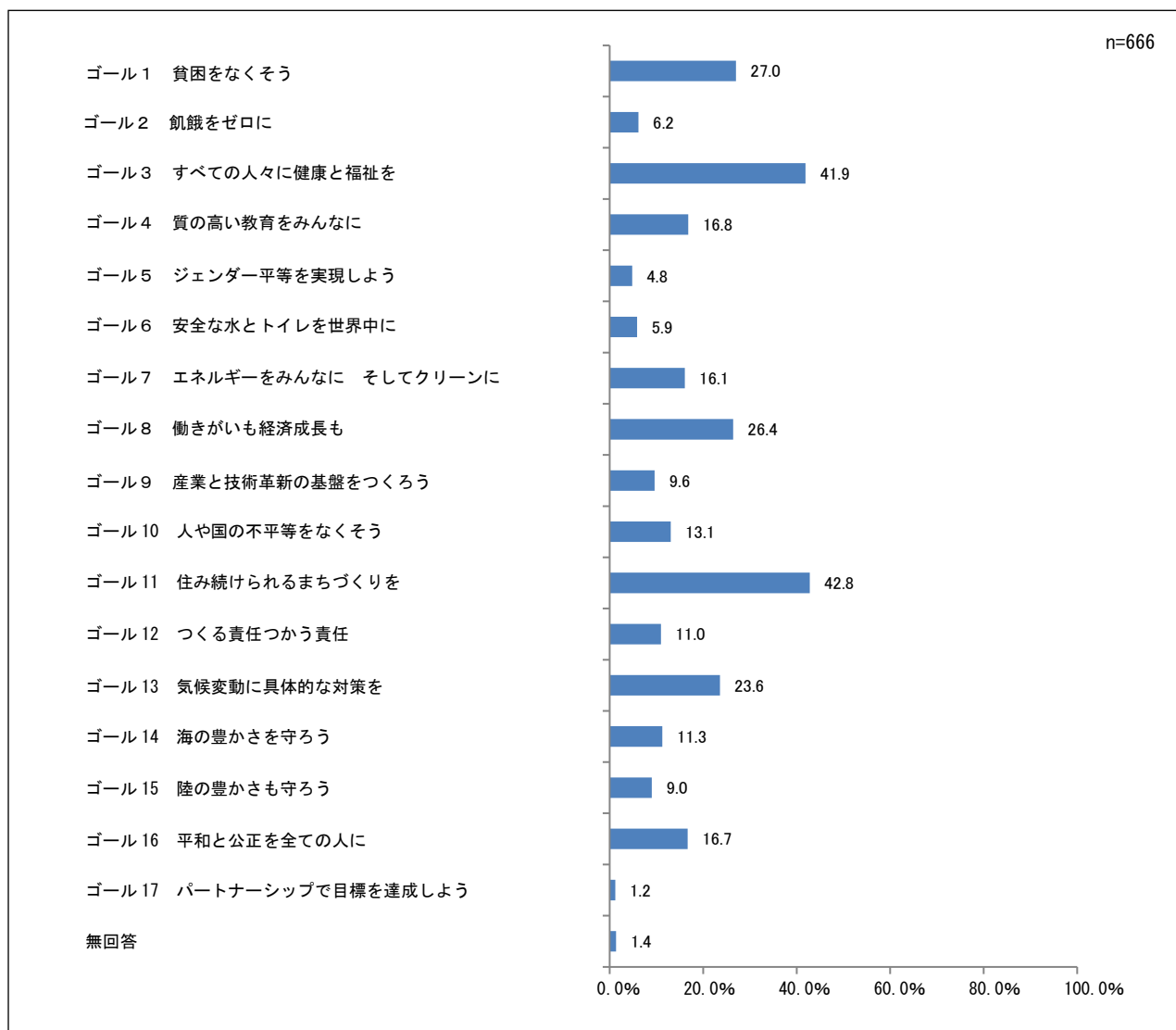


13 SDGsの推進について(2)

問14 北海道内において、特に取り組むべきSDGsのゴール(目標)はどれだと考えますか。
次の中から3つまで選んでください。

「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」(42.8%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「ゴール3 すべての人々に健康と福祉を」(41.9%)、「ゴール1 貧困をなくそう」(27.0%)の順となっている。

【全体】



性別でみると、男性では「ゴール11」(44.9%)が、女性「ゴール3」(43.7%)の割合が最も高くなっている。

また、「ゴール8」「ゴール9」では男性が女性より5ポイント以上高く、「ゴール5」「ゴール13」「ゴール16」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「ゴール11」については、30~39歳と60~69歳を除く年代で最も高くなっている。一方、「ゴール1」については、30~39歳(37.7%)が「ゴール3」については、60~69歳(56.4%)の年代で割合最も高くなっている。

【性別・年代別】

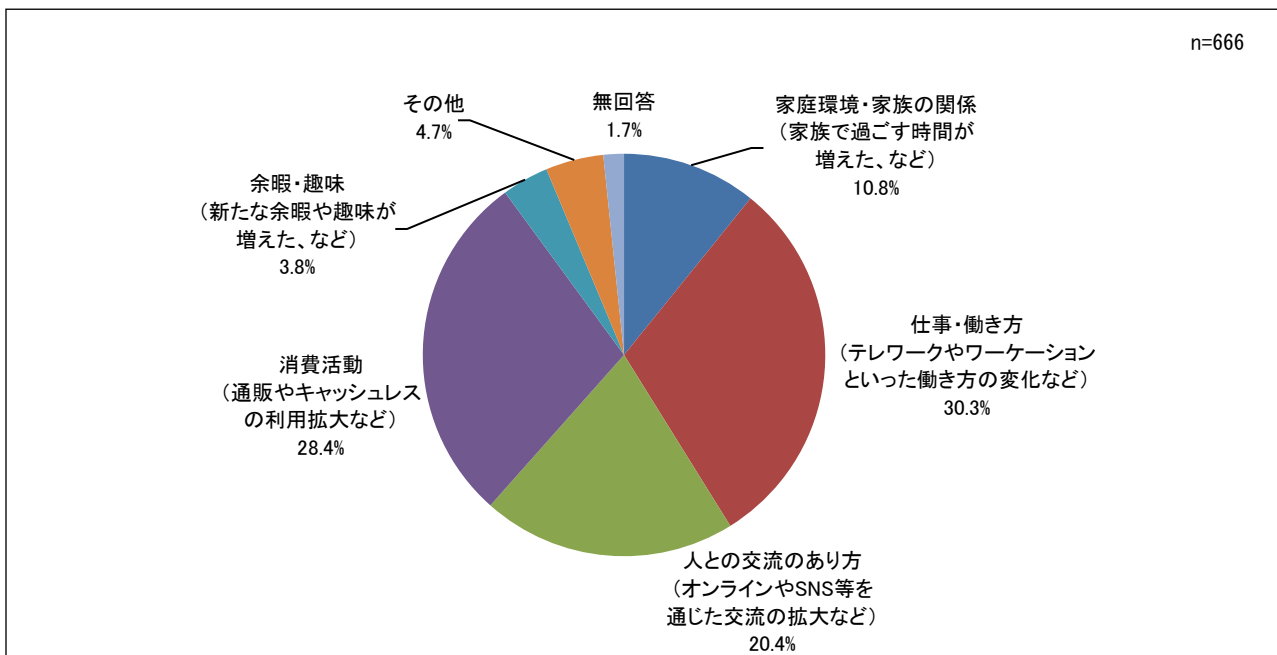


14 新型コロナウイルス感染症の影響について

問15 新型コロナウイルスがもたらした生活の変化のうち、その収束後においても定着していくと思う変化を1つ選んでください。

「仕事・働き方（テレワークやワーケーションといった働き方の変化など）」（30.3%）と答えた方の割合が最も高く、次いで「消費活動（通販やキャッシュレスの利用拡大など）」（28.4%）、「人との交流のあり方（オンラインやSNS等を通じた交流の拡大など）」（20.4%）の順となっている。

【全体】



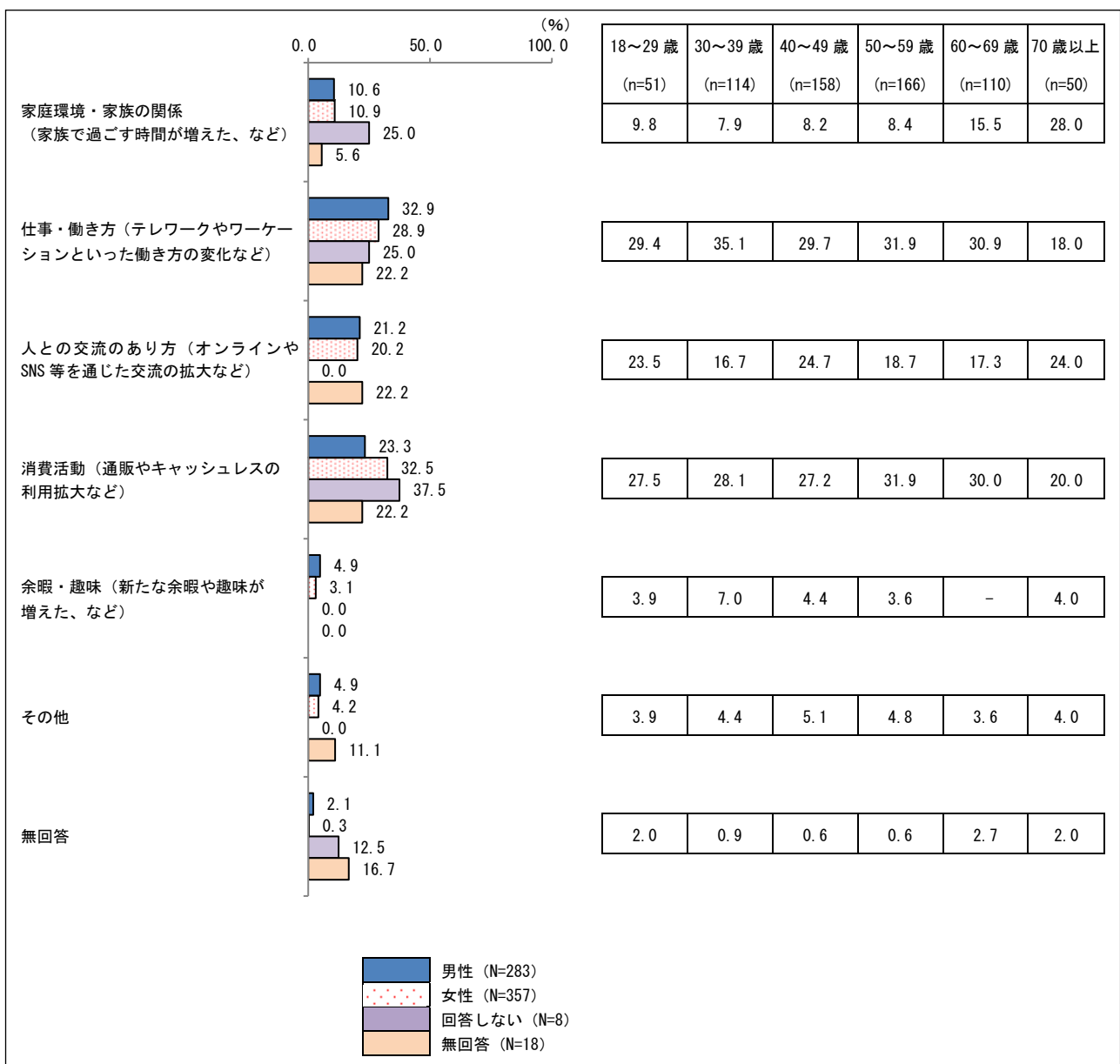
性別でみると、男性では「仕事・働き方（テレワークやワーケーションといった働き方の変化など）」（32.9%）が、女性では「消費活動（通販やキャッシュレスの利用拡大など）」（32.5%）の割合が最も高くなっている。

また、「消費活動（通販やキャッシュレスの利用拡大など）」では女性が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、「仕事・働き方（テレワークやワーケーションといった働き方の変化など）」については、70歳以上を除く年代で割合が最も高くなっている。

一方、「家庭環境・家族の関係（家族で過ごす時間が増えた、など）」については、70歳以上（28.0%）の割合が最も高くなっている。

【性別・年代別】



15 北海道総合計画について

問16 道政の基本的な指針となる新たな北海道総合計画について、ご意見等がありましたら記入してください。

【問 16 は自由記載設問】

